

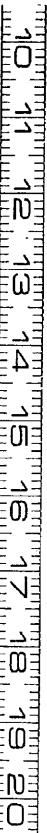
浦和中學校同窓會

會

報

第九回

昭和十二年十二月



各回會員數

一回	二回	三回	四回	五回	六回	七回	八回	九回	一〇回
二八名	三二名	四三名	四〇名	四九名	五〇名	四七名	四九名	四八名	四二名
一一回	一二回	一三回	一四回	一五回	一六回	一七回	一八回	一九回	二〇回
五六名	五四名	五九名	四九名	五八名	四五名	四〇名	四五名	五七名	五九名
六九名	六四名	九一名	八七名	八四名	八三名	八一名	一〇八名	一一一名	一二二名
三一回	三二回	三三回	三四回	三五回	三六回	三七回	三八回		
一二三名	一三二名	一五三名	一六九名	一六六名	一七六名	一五二名	一七四名	計	三、〇九五名

目次

役員會則

特別會員

正會員

在校生

總會記事

會計報告

思ひ出

應召會員氏名

一

第九回

會

報

會則

二

則

昭和十年十一月改正

- 第一條 本會ハ浦和中學校同窓會ト稱ス
第二條 本會ハ會員相互ノ情誼ヲ温メ併セテ提携ナ圖ルヲ以テ目的トス
第三條 本會々員ハ左ノ二種トス 特別會員（本校現職員及舊職員）正會員（本校卒業生）
但シ曾テ本校ニ籍ナ置キタルモノハ之ヲ正會員トナスコトヲ得
第四條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク 幹事 若干名、評議員 若干名、但シ各回ノ卒業生ヨリ二名以上
第五條 役員ノ職務ハ左ノ如シ 幹事中ノ學校職員ナ常任幹事トナシ本會ノ事務ヲ統括處理ス 幹事評議員ハ
本會ノ重要ナル事項ヲ議定ス
第六條 幹事及評議員ハ會員中ヨリ總會ニ於テ之ヲ選舉ス 其任期ハ各四ヶ年トス
第七條 本會ハ本校々長ヲ顧問ニ推戴ス
第八條 本會ハ毎年一回十一月三日ニ總會を開ケ 但シ臨時會ナ開クコトヲ得
第九條 本會ハ毎年一回會員ノ狀況ニ關スル會報ヲ頒ツ
第十條 會員ハ職業住所及主ナル動靜ニ關シ異動アリタル時ハ事務所ニ報告スルモノトス
第十一條 正會員ハ維持費トシテ金三圓ヲ本會ニ納付スル義務アルモノトス
第十二條 本會事務所ハ浦和中學校内ニ置ケ
第十三條 本會ニ左ノ帳簿ヲ備フ 一、會員名簿 一、會計簿 一、總會議事錄
第十四條 本規則ハ總會出席員ノ三分ノ二以上ノ同意ナ以テスルニアラサレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

役員

井上堅太郎	松永信敬	名古屋長藏	畠見越城	稻渡邊武彦	高橋泰雄	山本厚	鈴木榮太郎	高田源八郎	石塚茂則	宮崎一郎	原恭一	木元富三郎	木泰壽三郎	木泰郎	木原三郎	木原一郎	木原春郎	木藤二郎	阿武郎	實郎	伊藤二郎	伊藤阿武	現職員	幹事	
水野辰男	宮崎慎	宮	水	本厚	彦渡	泰雄	稻渡	則	太郎	一郎	恭一	三郎	壽三郎	泰郎	富三郎	元富三郎	木原三郎	木原一郎	木原春郎	木藤二郎	木元富三郎	木泰壽三郎	木泰郎	木原三郎	
第一回	第二回	第三回	第四回	第五回	第六回	第七回	第八回	第九回	第十回	第十一回	第十二回	第十三回	第十四回	第五回	第十四回	第十三回	第十二回	第十一回	第一〇回	第一九回	第一八回	第一七回	第一六回	第一五回	第一四回
明	勝	政	武	野	吉	肥	土	牧	武	政	勝	明	雄	壽	三	郎	一	郎	恭	一	郎	木	木	木	木

役員

員島悦

岩田三史
阪中島明謙

永瀬寅吉
鈴木富次
永瀬四郎

濱田熊次郎

大部省吾

荻島辰之助
岩田憲雄
神崎勲
齊藤尊久
高石幸三郎

中村平蔵
金杉松次
蓮見
仲田一信

松澤英太郎
林繁 遼

武 井 武 井
尾 熊 滋 三 郡
飯 野 染 二
星 野 廉
小 島 幸 幸
池 田 新 一
余 艮 関 弘
右 塚 啓 助
兄 玉 幸 太 郎
岡 田 章 雄

武笠一熊大岡小額小長煙田正澤民賀勝泉大利善作

吉田正、島保俊後、正敏正、井藤本田、田島畠、佐野細中、關町大吉

橋本安太郎

第二回 第二十九回 第三十回 第三十一回 第三十二回

熊木重雄 蔵藏好四郎 加藤謙一郎 小沼良平 内田一郎 田島良平

第二九回	熊木重雄
第三〇回	加藤謙藏
第三一回	小沼好四郎
第三二回	内田一郎
第三三回	田島良平
第三四回	後藤泰治
第三五回	小林健志
第三六回	友部正伸
第三七回	神戸禎一
第三八回	中里久夫
第三九回	宇治達郎

北澤 怡佐
黒澤 惠
駒崎 利
辻原 欣
藤本 邦
栗原 邦
辻原 欣
永見 昌
永井 常
永島 常
永昌 常
永晉 常
永茂 常
永晴 常
南澤 常
南島 常
南昌 常
南晉 常
南茂 常
南晴 常
小澤 常
小島 常
小昌 常
小晉 常
小茂 常
小晴 常
植野 常
植島 常
植昌 常
植晉 常
植茂 常
植晴 常

濱野元介
福田正雄

宮本

特 別 會 員

現 職 員

現 職 員

員

アの部 阿武 實 (履歴) 浦和市岸町七ノ二五

(英語)

東京市本郷區錦糸町三丁目一號

井上堅太郎 (國語、漢文)

北足立郡大宮町高鼻三七二五

伊田義廣 (體操、柔道)

浦和市常盤町五ノ一二

稻見越城 (教練)

浦和市岸町二ノ二九

今井精一 (修身)

浦和市仲町四ノ一一五

宇津木只平 (音樂、工作)

入間郡入西村大字北浅羽一三一

内田義眷 (數學)

浦和市常盤町九ノ一二

尾崎筆五郎 (國語、漢文)

東京市王子區上十条町一五五九

大島正喜 (英語)

名古屋市西區榎ノ口町一ノ一

大橋亘 (數學)

浦和市常盤町四ノ九〇

太田一 (歷史、地理)

浦和市常盤町七ノ二三

奥田芳太郎 (鍛道)

北足立郡蕨町上郷一七七六

河村幸造 (數學)

東京市板橋區小竹町一四二一

小島徳次郎 (書記)

浦和市高砂町一ノ九四

白川麻市 (物理、化學)

(德島縣三好郡加茂村三〇一八) (休職)

鈴木重敏 (英語)

浦和市常盤町五ノ一一三

高田源八 (校醫、內科)

浦和市常盤町一ノ八〇

高橋武夫 (物理、化學)

浦和市常盤町三ノ二二二

瀧田元吉 (教諭)

東京市世田谷區玉川奥澤町一ノ四二

アの部 阿武 實 (履歴) 浦和市岸町七ノ二五

現 職 員

員

現職員

土橋 清 (修身、英語)

浦和市仲町四ノ五五

寺門 孝徳

(化學) 北足立郡與野町大戸四二四

土肥 政勝

(英語) 浦和市仲町二ノ一四一

中山 一郎

(博物) 東京市品川區上大崎町仲丸一四二

中根 研三

(國語、漢文)

浦和市高砂町二ノ一八四

申村 幸七

(數學)

浦和市常盤町九ノ三一

長尾 義明

(數學)

浦和市常盤町三ノ一〇九

沼田 義雄

(公民、英語)

浦和市常盤町七ノ四四

林 和比古

(國語、漢文)

浦和市本太字松原

平田 武彦

(漢文)

浦和市仲町四ノ二四

平野 嶽

(英語)

東京市世田谷區赤堤町二ノ五三七

福宿 光雄

(圖畫)

浦和市常盤町五ノ一三八

福田 城

(書記)

浦和市常盤町七ノ四二

藤井 武夫

(漢文)

浦和市岸町三ノ五七

堀井 信義

(劍道、作業)

浦和市常盤町五ノ六〇

前田 宗男

(英語)

北足立郡六辻村別所一八五八

増田 周三

(書記)

東京市王子區赤羽町四ノ二一四九

丸山 正康

(地理)

浦和市岸町四ノ一九七

三浦 佳文

(博物)

浦和市常盤町五ノ四四

三井 敏雄

(國語)

至誠寮内

三田 弘

(校醫、眼科)

浦和市仲町四ノ一三三

水野 辰男

(校醫、齒科)

浦和市仲町二ノ七四

宮崎 淳

(校醫、耳鼻科)

浦和市仲町三ノ七三

山下 英雄

(體操、柔道)

浦和市常盤町三ノ一一一

舊職員

舊職員

アの部

名

姓

籍

年

月

日

時

間

場

地

點

時

間

場

地

點

時

間

場

地

點

阿部鵬二

東京市牛込區富久町一六
福島縣耶麻郡豊川村

陸軍豫科士官學校教授

赤城謙一

京都府加佐郡新舞鶴町海軍官舍丙第二四號
朝鮮黃海道海州郡海州邑北旭町一五三

海軍技師、舞鶴海軍工廠造兵部勤務

井出清身

北葛飾郡幸松村大字小淵三五
滋賀縣神崎郡八日市町河合寺

農

伊倉健治

北足立郡美谷本村大字美女木一〇
北足立郡美谷本村大字美女木一〇

陸軍步兵中佐、滿洲國興安北省海拉爾早淵部隊

伊東荒雄

東京市世田谷區羽根本町一七二八
飯塚吉之助

朝鮮總督府道視學官

石田利一

愛知縣寶飯郡牛久保町大字瀬木一番戸
浦和市本大町八七五

柔道整復師

石塚茂則

名古屋市東區東片端町二ノ一三
静岡市安東町三ノ一一六

陸軍步兵中佐、滿洲國興安北省海拉爾早淵部隊

市川得成

北足立郡美谷本村大字美女木一〇
北足立郡美谷本村大字美女木一〇

農

稻垣盈太郎

北足立郡美谷本村大字美女木一〇
北足立郡美谷本村大字美女木一〇

海軍技師、舞鶴海軍工廠造兵部勤務

稻見克己

(東京市中野區上町四〇)

朝鮮總督府道視學官

稻村松雄

靜岡市安東町三ノ一一六

耕壁中學校講師

岩屋口淳

鹿兒島縣川邊町川邊町清水一三三二
東京市中野區神明町六〇

愛知縣立第一高等女學校講師

宇田川菊次郎

北足立郡六庄村大字白幡一九九
東京市世田谷區上北澤町三ノ八九九

農

碓井武爾

岐阜縣吉城郡古川町七四五
川口市横曾根町二本木三三六五

富岡徵兵保險勘驗員

内堀八郎

高松市宮脇町四〇三

高松高等商業學校教授

大塚龍夫

東京市中野區神明町六〇

東京高等學校教諭

大野四四次郎

東京市世田谷區上北澤町三ノ八九九
札幌市北四條西十五丁東向

北海道帝國大學豫科教授

大野三千右衛門

東京市豊島區西巢鶴町二ノ二五七〇

著述業、第二東京市立中學校夜間講師

大場喜嘉治

東京市小石川區久堅町一七七

浦和高等女學校教諭

掛札猛三郎

茨城縣猿島郡境町住吉町

陸軍步兵中佐、滿洲國興安北省海拉爾早淵部隊

加藤幸重郎

東京市澁谷區羽澤町三八

農

金森外見男

千葉市富士見町一七七

立正大學、實踐女子專門學校講師

舊職員

三

舊職員

一四

川島猛男 北葛飾郡靜村大字松永五
川出麻須美 鹿兒島市長田町一〇〇
簡野音三 奈良縣丹波市町三島

*の部

木内辰三郎

東京市瀧野川區瀧野川町一七五三

木原元三

川越市通町一三〇二

桐山純景

京城府東崇洞一九號官舍

草川宣雄

東京市目黒區自由ヶ丘二二九

栗本富太郎

浦和市當盤町一ノ一七〇

黒佳豊太

岡山縣兒島郡味野町

小早川克己

東京市大森區大森町五ノ八九

小林隆助

東京市杉並區荻窪町三ノ五五

紅露五郎

南埼玉郡久喜町本町三丁目

佐治秀壽

仙臺市角五郎丁六六

シの部

清水岬

東京市板橋區中新井町四ノ二三七七

島根一郎

北足立郡三室村大字三室四一一

下郷寛二郎

愛知縣愛知郡鳴海町一三

白井義次

浦和市仲町四ノ一三九

齋藤忠利

浦和市常盤町五ノ四九

齋藤直貞

鳥取市西町一三一

新藤光五郎

北足立郡六庄村九八三

須賀原又雄

前橋市清王寺町二六二

須藤新吉

東京市世田谷區世田谷三ノ二二七七

菅谷仁助

千葉縣印旛郡佐倉町最上町七

杉原政二郎

佐賀縣杵島郡武雄町西浦

杉本孝橘

名古屋市東區西杉町一ノ二一

鈴木祐之丞

浦和市高砂町四ノ二〇〇

セの部

舊職員

茨城縣立古河商業學校講師
第七高等學校造士館教授
天理中學校教諭
木內學園(海外學生「學寮」と「鳩の家」幼稚園)經營
金山公立女子高等普通學校長
川越中學校長
京城帝國大學法文學部教授
第三神戶中學校教諭(神戶市林田區池田村)

東京音樂學校講師、女子聖學院教育
筆耕、寫字、體寫版、速記業
外務省囑託
久喜高等女學校教諭

兵庫縣立中外商業學校校長
石川縣女子師範學校教諭兼金澤第二高等女學校
教諭
第一高等學校教授
武雄中學校教諭
享榮商業學校教諭
劍道教士

舊 職 員

一六

關 山 勉 南埼玉郡篠津村大字高岩一八〇四

柏壁中學校教諭

曾 田 文 甫 京都市上京區相國寺東門前町通北諸六八四ノ五

學生寄宿金監督、著述出版業

世 艮 田

勇

仙臺市北三番丁一〇〇

陸軍步兵少佐、仙臺陸軍敎諭學校學生隊中隊長

染 谷 進

東

京市世田谷區玉川東澤町二・六五〇

早稻田大學講師、高等學院教授

田 尾 長 兵 衛

福

井縣遠敷郡小濱町堀屋敷四號二三

久喜郵便局長代理

田 中 元 輔

南

埼玉郡太田村大字西四三〇

福岡市鳥飼町三丁目

福岡高等學校教授

高 榮 金 一 郎

福

岡市鳥飼町三丁目

久喜郵便局長代理

高 野 佐 三 郎

浦

和市岸町二・五五

福岡高等學校教授

高 野 黄 義

大

連市楓町二三

劍道範士

高 野 泰 四 郎

北

足立郡尾間木村大字大間木八四

富田中學校教諭

高 橋 伊 次 郎

東

京市中野區昭和二・三三

東京商科大學豫科講師

高 橋 健 二 郎

東

京市豊島區東鴨町六・一二五〇

東京府立第五中學校彌詒

高 橋 未 治

濱

松市廣澤町九八

濱松第一中學校教諭

高 橋 後 人

三

重縣三重郡富田町西町二六一

富田中學校教諭

高 橋 寿

盛

岡市新庄町一

盛岡高等女學校教諭

高 原 正 作

靜

岡縣富士郡大宮町

淺間神社宮司

高 光 伸 重

富

山市西四十物町四五

富山西商業學校教諭

瀧 武 之

福

井市城町二・九一

陸軍步兵大佐、福井聯隊區司令官

立 石 秀 三

千

葉縣千葉郡睦村榮橋七八〇

實踐女子專門學校教諭

農

部

の

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

藝職員

一八

西川五市 静岡市安東町三ノ一一三

西野嚴三 京都市上京區上賀茂前秋町一四

西山隼人 岡山縣上房郡高梁町間之町五五

仁科義照 南埼玉郡篠津村大字篠津三〇七一

ノの部

野崎幸香 北埼玉郡笠原村大字安養寺四四八

農村長

羽柴正市

International House, Berkeley, Calif., U.S.A.

馬場勝彌

東京市澁谷區松濤町五

橋本勝三

函館市白島町二

蓮吾

北埼玉郡三俣村上三俣三三一

早野暢

入間郡所澤町元幸町二七

林鉗藏

東京市中野區大和町三八三

原八十郎

南埼玉郡越ヶ谷町四三九四

原八十郎

靜岡縣榛原郡川崎町

平沼忠次

入間郡元加治村大字佛子

平山昇二

浦和市仲町四ノ五九

平山正

京城府西四軒町一九〇

平山昇二

浦和市仲町四ノ五九

平山正

東京市世田谷區世田谷一ノ三二四

平山昇二

東京市世田谷區角筈二ノ九三

平山昇二

東京市淀橋區角筈二ノ九三

平山昇二

東京市仲町三ノ三七

平山昇二

浦和市仲町三ノ三七

平山昇二

浦和市仲町三ノ三七

平山昇二

大阪市東區小橋元町七五

静岡高等學校講師

大禮記念京都市美術館主事

岡山縣順正高等女學校教諭

久喜高等女學校教諭

ノの部

野崎幸香

北埼玉郡笠原村大字安養寺四四八

静岡高等學校講師

大禮記念京都市美術館主事

岡山縣順正高等女學校教諭

久喜高等女學校教諭

ノの部

野崎幸香

北埼玉郡笠原村大字安養寺四四八

野崎幸香

舊職員

二〇

松原道男 東京市豊島區池袋町二ノ一〇三三

東京府立第四中學校教諭

松本昇陽 札幌市苗穂町一八

宗教家

松本與三郎 浦和市常盤町六ノ三一

東京市下谷竹町尋常夜學校教諭

三宅幾三郎 東京市四谷區愛住町四一

文化學院教授

三宅由太郎 布施市菱屋西二八三

樟蔭女子專門學校教授

三橋秀郎 茨城縣行方郡麻生町一三二

麻生中學校教諭

水島耕一郎 姫路市場主町三

姫路高等學校教授

水野庄平 東京市向島區寺島町一ノ七一

東京府立第七中學校夜間中學囑託

宮崎力次郎 東京市豊島區雜司ヶ谷町一ノ三六

東京府立商工學校囑託

望月恒雅 大邱府大鳳町二九一

慶尙北道視學官

守屋正二 浦和市高砂町四ノ五八

東京市王子區長

安田健之介 南埼玉郡柏壁町在新町一八

柏壁中學校教諭

安田潤三郎 浦和市岸町二六四八

文化女學校教諭、東京物理學校職員

森忠名古屋市中區御器所町中屋敷一七

豫備校河合塾講師

兩角誠英 茨城縣久慈町新宿町一〇七七

金澤地方裁判所長

柳川清 水戸市櫻小路二〇五三ノ二

刀劍業

柳田加藤次 佐賀市松原町 宮舍

水戸中學校教諭

山田堅三郎 東京市小石川區音羽町六ノ二八

地方視學官、佐賀縣學務部勤務

山田武次郎 茨城縣久慈町新宿町一〇七七

關東高等豫備校長

吉田一路 和歌山縣那賀郡粉河町榮町

仙臺育英中學校教員

吉崎吳 仙臺市木ノ下町七

浦和高等女學校職員

吉田一路 北足立郡六庄村別所東野臺一九四九ノ三

關東帝國大學金屬材料研究所助手

吉邊延作 北海道空知郡岩見澤町四條西十一丁目

工學院講師

吉邊延作 山崎方並區上高井戸五ノ二〇八〇

粉河中學校教諭

渡邊部 鋒 東京市澁野川區田端町一五三

陸軍步兵少佐、豐橋陸軍教導學校步兵隊副官

渡邊英海 北海道空知郡岩見澤町四條西十一丁目

札幌鐵道局囑託

渡邊英海 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

渡邊英海 河野威太郎 木船金雄 黒須徳之丞 佐分利進

陸軍步兵少佐、豐橋陸軍教導學校步兵隊副官

鈴木源次郎 鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

曉星中學校教師

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

鈴木源次郎 上野直一 江口立節 大日方秋男 大亦昇
鈴木初三郎 鈴木正巳 内匠吉次

宇都宮高等農林學校教授兼生徒主事

講員

三一

成富 正義	野村 春光	早川斗一郎	平田庚午郎	藤戸 達吉	堀松和三郎	森田八十治
森山 信規	八島新次郎	矢野 道雄	山口 鶴治	内田 英男	高橋巳之吉	野崎三四郎
福田 久雄	死亡會 赤松 定郷	淺野 鶴吉	浅山 於菟	安藤辰次郎	伊豆丸 亮	伊藤 泰輔
石川 一	岡野 章太	石田道三郎	木村 大丸	木村 定治	木和田淺吉	内田 平吉
佐々 恒雄	加藤龍次郎	犬丸 貞吉	岩田 福松	岸田 久雄	大谷 亮吉	大塚 惠
西岡 三郎	酒井五千太郎	木村 節雄	嶺口 一郎	霜田 守三	小室 龍咲	小谷野喜藏
所 清吉	羽生庚午郎	鈴木 一	高橋 重藏	土屋善太郎	寺田 永松	未安 龍治
春木 逸朗	中村 外吉	原 勝郎	平野 勝明	藤井 宣正	星野時二郎	宮坂 資郎
山村直次郎	武笠 三	村上 梅藏	山内 之徳	森山喜代助	山口治太郎	吉田 敬次
若月 翁吉	山室幾次郎	山本庫次郎	横山 茂連	横山 唯二	横山 譲	吉田 敬次

正會員

(明治三十三年三月 二八名)

井 原 義 助	伊 藤 二 郎	飯 島 光	浦 和 市 高 砂 町 二 ノ 一 七 六	農	大 日 本 ピール 株 式 會 社 員	農 師
稻垣盈太郎	北足立郡美谷本村大字美女木一〇	名古屋市千種區吹上本町三ノ七六	東京市芝區三田小山町一	農	大日本ピール株式會社員	農師
大塚鶴五	北足立郡美谷本村大字美女木一〇	北足立郡六村大字別所一三九六	東京市芝區三田小山町一	農	辯護士、縣會議員、市會議員	農
大野榮三	北足立郡六村大字別所一三九六	東京市目黒區柿ノ木坂町七四二	東大工卒	農、村名譽助役	農	農
石田政藏	北足立郡六村大字別所一三九六	東京市神田區須田町二ノ六	東大法卒	辯理士	日本勸業銀行監査役	農
萩原藤七郎	北足立郡新倉村三五一六	東京市神田區須田町二ノ六	東大文卒	實踐女子専門學校教授	東大法卒	農
牧田清吉	北足立郡新倉村三五一六	名古屋市東區矢田町四九	早大史英卒	農	早大史英卒	農
牧田辰紀	入間郡大塚村萱方二二三	肥留間廣作	千葉醫專卒	農	農	農
星野藤左衛門	北足立郡新倉村三二〇一	東京市澁野川區澁野川町一八八三一八八五	千葉醫專卒	農	農	農
橋 本 佑 造	北足立郡新倉村三五一六	東京市澁野川區澁野川町一八八三一八八五	醫師	農	農	農

第二回

松永信敬 浦和市仲町三ノ八五

山本知太郎 東京市芝區白金今里町一五八

天野一麿 網野一壽 飯田新三郎 漆原愛三郎

告森喬 楠崎辰久 古川常吉 星野直一

東京高等歯醫學校教授
川電鐵株式會社監查役、玉 東高商卒
盛高農卒

死亡會員
山本知太郎 東京市芝區白金今里町一五八

天野

一麿

網野

一壽

飯田

新三郎

漆原

愛三郎

大熊

正長

大島貞七郎

鹿山

壽作

東京高等歯醫學校教授
川電鐵株式會社監查役、玉 東高商卒
盛高農卒

天野

一麿

網野

一壽

飯田

新三郎

漆原

愛三郎

大熊

正長

大島貞七郎

鹿山

壽作

天野

一麿

網野

一壽

飯田

新三郎

漆原

愛三郎

大熊

正長

大島貞七郎

鹿山

壽作

天野

一麿

網野

一壽

飯田

新三郎

漆原

愛三郎

大熊

正長

大島貞七郎

鹿山

壽作

天野

一麿

網野

一壽

飯田

新三郎

漆原

愛三郎

大熊

正長

大島貞七郎

鹿山

壽作

天野

一麿

網野

一壽

飯田

新三郎

漆原

愛三郎

大熊

正長

大島貞七郎

鹿山

壽作

天野

一麿

網野

一壽

飯田

新三郎

漆原

愛三郎

大熊

正長

大島貞七郎

鹿山

壽作

天野

一麿

網野

一壽

飯田

新三郎

漆原

愛三郎

大熊

正長

大島貞七郎

鹿山

壽作

天野

一麿

網野

一壽

飯田

新三郎

漆原

愛三郎

大熊

正長

大島貞七郎

鹿山

壽作

天野

一麿

網野

一壽

飯田

新三郎

漆原

愛三郎

大熊

正長

大島貞七郎

鹿山

壽作

天野

一麿

網野

一壽

飯田

新三郎

漆原

愛三郎

大熊

正長

大島貞七郎

鹿山

壽作

天野

一麿

網野

一壽

飯田

新三郎

漆原

愛三郎

大熊

正長

大島貞七郎

鹿山

壽作

天野

一麿

網野

一壽

飯田

新三郎

漆原

愛三郎

大熊

正長

大島貞七郎

鹿山

壽作

天野

一麿

網野

一壽

飯田

新三郎

漆原

愛三郎

大熊

正長

大島貞七郎

鹿山

壽作

天野

一麿

網野

一壽

飯田

新三郎

漆原

愛三郎

大熊

正長

大島貞七郎

鹿山

壽作

天野

一麿

網野

一壽

飯田

新三郎

漆原

愛三郎

大熊

正長

大島貞七郎

鹿山

壽作

天野

一麿

網野

一壽

飯田

新三郎

漆原

愛三郎

大熊

正長

大島貞七郎

鹿山

壽作

天野

一麿

網野

一壽

飯田

新三郎

漆原

愛三郎

大熊

正長

大島貞七郎

鹿山

壽作

天野

一麿

網野

一壽

飯田

新三郎

漆原

愛三郎

大熊

正長

大島貞七郎

鹿山

壽作

天野

一麿

網野

一壽

飯田

新三郎

漆原

愛三郎

大熊

正長

大島貞七郎

鹿山

壽作

天野

一麿

網野

一壽

飯田

新三郎

漆原

愛三郎

大熊

正長

大島貞七郎

鹿山

壽作

天野

一麿

網野

一壽

飯田

新三郎

漆原

愛三郎

大熊

正長

大島貞七郎

鹿山

壽作

天野

一麿

岡田元茂 東京市目黒區自由ヶ丘一二五
加藤信一 東京市澁谷區美竹町三四

金子作蔵 南埼玉郡百間村字山崎三〇五
金子柳藏 東京市淺草區駒形町一五

木村安五郎 熊本市横手町一三〇四

岸野與賞 入間郡水富村上廣瀬

柴原外男 神戸市兵庫區北仲町四六

關根章 山形市香澄町八〇 高等學校官舍

田口貞之助 東京市澁野川區田端町四九八

田島豊 濱馬縣邑樂郡大箇野村大字飯野二三一五

高田源三 東京市世田谷區玉川奥澤町一ノ二九七

出井淳八 浦和市常盤町一ノ八〇

林龜治 (東京市目黒區駒場町八六一)

中村彌六 比企郡伊草村大字上伊草一四四六

永田二郎 北足立郡馬宮村字土屋五

西川市太郎 北足立郡志木町一六一五ノ一

細田仙太郎 入間郡宗岡村三三二五

正木貞一 東京市中野區高根町一九

矢島平次 旭川市一條通西三丁目

不眞會員朝倉省三 石野好彦 潤貢次郎

石下稻吉 東京市豊島區長崎仲町一ノ二四七七

米壽 小島正之 小谷野喜藏 關井龜之輔 田中千代松 野原琳次郎 福島守一

死亡會員古暮專藏 北足立郡片山村五三七六

福田勇 船津貢之助 山崎敏三 橋溝平吉

稻見越城 浦和市岸町二ノ一二九
内田繁由 京城府永樂町二ノ二六
岡田光吉 東京市小石川區指ヶ谷町六四
荻野榮藏 南埼玉郡三箇村大字三箇一四

昭和製藥株式會社支配人 東高商卒

醫師 東大醫卒
農、村會議員
縣社北岡神社々司 廣高師卒

金澤醫專卒 東大文卒
慶大理財卒

農、村會議員 合資會社田中電機製作所相談
役師、浦和產婆學校長、縣會 千葉醫專卒
議員 陸軍々醫中將、關東軍々醫部長 東大醫卒

肥料商 神戶塗料株式會社取締役、合
資會社申清組代表 海兵卒

農 東美術卒
九 大醫卒 京大法卒

農 陸軍軍醫大佐、醫師 九 大醫卒
農 陸軍步兵大佐 京城僕城金融組合理事長

眼科醫 技師 千葉醫專卒
陸士卒
鑿協專卒
カリフオルニア
大工卒
早大政經卒

第一回

二八

金子文左衛門
川羽田 隆

南埼玉郡鎌宮町久本寺六

日本郵船會社淺間丸船長

東商船卒

木原元三

川越市通町一三〇二

農、町長

早大高師卒

倉持峯吉

茨城縣猿島郡古河町五六三七

川越中學校長

千葉醫專卒

齊藤莊司

東京市板橋區大泉學園三三九一

醫師

綿糸問屋業（日本橋區小舟町）

明大法卒

清水彌太郎

北足立郡馬宮村大字飯田新田二五四ノ一

農

西脇銀行取締役

柴崎啓藏

東京市大森區田園調布三ノ三七ノ一

明治生命保險會社員

東高商卒

須田嘉三

入間郡東吾野村

不動産業者

農

鈴木豊藏

東京市淺草區山谷町四ノ五ノ一

農

辯護士

鈴木福三郎

浦和市岸町七ノ二五

農

東大法卒

野鳥仲次郎

北足立郡内間木村大字上内間木三一

農

明大法卒

畑高三郎

北足立郡上平村大字菅谷七四九

農

千葉醫專卒

林次左衛門

北足立郡上尾町二七五

農

明大法卒

船津頌二

東京市牛込區津久戸町一五

農

大法卒

山口順一

比企郡小見野村大字下小見野一八

農

明大法卒

天野美都造

北足郡新倉村二八九〇ノ二

農

大法卒

伊藤嘉一郎

北足立郡内間木村下内間木七九九

農

大法卒

井原正作

池田直矢 大熊正一 菊池徹 北田豊 小堀彌三郎

農

大法卒

高橋敏三

永島秀之助

長谷川松男 橋本喜代治 本多阿久吉

農

大法卒

宮覽

農

大法卒

凌子準三

北足立郡大宮町三六八二

農

大法卒

厚川清治

北足立郡戸塚村大字戸塚一九一

農

大法卒

内田忠次郎

北足立郡川田谷村二五八九

農

大法卒

内川管吉

北足立郡大宮町大字大門町四〇五三

農

大法卒

大貫清藏

北足立郡内間木村大字下内間木七九二

農

大法卒

大谷木六郎

入間郡山根村大字大谷木五七九

農

大法卒

岡田徳輔

北足立郡蕨町七一

農

大法卒

笠原廣次

東京市豊島區巢鴨町七ノ一七〇五

農

大法卒

梶清一

浦和市三四四三

農

大法卒

井藤嘉一郎

北足立郡上尾町英

農

大法卒

第五回

二九

第二回

（昭和三十七年三月 四九名）

旭川市長 岩倉鐵道學校、泰東商業學校

大法卒

北足立郡片柳小學校訓導

醫師

農

大法卒

千葉醫專卒

農

大法卒

岩倉鐵道學校、泰東商業學校

教諭

大法卒

川田谷信用利用購買販賣組合

農

大法卒

貴金属時計商

農

大法卒

慈惠醫專卒

農

大法卒

セメント聯合會主事

農

大法卒

仙臺醫專卒

農

大法卒

東京鐵道局勤務

農

大法卒

第五回

三〇

金井塙 善助 南埼玉郡蓮田町九六六

農林省、醫學博士
千葉縣專卒

木下周太 東京市淀橋區西大久保町二〇

農事試驗場昆蟲
東大理卒

熊木辰太郎 北足立郡戸田村大字上戸田二七

陸軍科學研究所屬託
材木商

安藏 福岡市薬研町一二

九州鐵道株式會社理事

景三 北足立郡戸田村大字新曾四七〇三

東高商卒

佐藤愛蔵 東京市王子區王子町一二七一

王子區役所會計課長

澁谷南陽 大阪市住吉區阿倍野筋二ノ二一

住友銀行本店支配人

鈴木榮太郎 浦和市岸町二八九八

東高商卒

強矢貢

東大農卒

秋父郡高篠村一一九八

農

田中保 70 bis rue U.D. des Champs, Paris 6e, France.

巴黎。ドートンヌ審查員
サロン。ナショナル會員

高橋泰雄 浦和市高砂町一ノ一六一

辯護士、衆議院議員

名古屋長藏 浦和市高砂町一ノ五〇

醫師、醫學博士、ドクトル。
メヂチネ

中田茂 東京市澁谷區代々木富ヶ谷一五七三

仙臺醫專卒

中野岩吉 兒玉郡仁手村久々宇一八

陸軍主計中佐、財團法人偕行
社主事

長島郷助 宇都宮市壽町一四

北大農卒

双木康 東京市豊島區雜司ヶ谷町一ノ四二一

農

野口茂樹 浦和市前地二四五

サロン。ドートンヌ審查員
サロン。ナショナル會員

松島義勝 北埼玉郡東村大字新川通一〇三七

辯護士、衆議院議員

湯澤謹次 東京市澁谷區柏木一ノ二二八

東大法卒

渡邊武彦 浦和市高砂町一ノ一五四

北大醫卒

宮崎一 浦和市高砂町一ノ一二八

早大專政經卒

武井昇 南埼玉郡江面村

北大農卒

不明会員 荒井平三郎 江本繁三郎

農

村山惣平 東京市目黒區下目黒四ノ八八四

帝國生命保險株式會社員
關西製鋼株式會社顧問

本橋政光 東京市世田谷區代田一ノ六五二ノ七

東大法卒

湯澤謹次 東京市澁谷區柏木一ノ二二八

海兵卒

渡邊武彦 浦和市高砂町一ノ一五四

九大醫卒

宮崎一 浦和市高砂町一ノ一二八

東大法卒

武井昇 南埼玉郡江面村

農

淺井長康 門司市大里町四〇七六 日糖社宅

東大法卒

安藤因治 神戶市灘區深田町五ノ五

東高工卒

池内茂 北葛飾郡戸ヶ崎村二二〇六

大高工卒

石井保 東京市荏原區中延町一〇三一

東大法卒

石村善助 門司市龍門町二ノ一九五七

京大工卒

白倉房太郎 北足立郡片柳村大字東新井三〇六

大高工卒

遠藤主計 北葛飾郡豊田村大字中里二一

農

第六回

(明治三十八年三月 五〇名)

不明会員 荒井平三郎 江本繁三郎

農

村山惣平 東京市目黒區下目黒四ノ八八四

帝國生命保險株式會社員
關西製鋼株式會社顧問

本橋政光 東京市世田谷區代田一ノ六五二ノ七

東大法卒

湯澤謹次 東京市澁谷區柏木一ノ二二八

海兵卒

渡邊武彦 浦和市高砂町一ノ一五四

九大醫卒

宮崎一 浦和市高砂町一ノ一二八

東大法卒

武井昇 南埼玉郡江面村

農

淺井長康 門司市大里町四〇七六 日糖社宅

東大法卒

安藤因治 神戶市灘區深田町五ノ五

東高工卒

池内茂 北葛飾郡戸ヶ崎村二二〇六

大高工卒

石井保 東京市荏原區中延町一〇三一

東大法卒

石村善助 門司市龍門町二ノ一九五七

京大工卒

白倉房太郎 北足立郡片柳村大字東新井三〇六

大高工卒

遠藤主計 北葛飾郡豊田村大字中里二一

農

第六回

三一

第七回

三四

石田信之助 北足立郡鳩ヶ谷町辻一一四二

石塚邦後 東京市杉並區天沼二ノ四一〇

大島卓爾 浦和市高砂町一ノ六七

奥富孝祐 東京市豊島區巢鴨町三ノ二六

金子義行 東京市江戸川区小岩町四ノ一七五〇

木下官一 群馬縣邑樂郡館林町二二八二

須田原覺太郎 静岡縣田方郡宇佐美村一七三七

向野顯一 東京市荒川區日暮里渡邊町一〇四〇

齊藤次郎 入間郡所澤町元幸町五七七

須田壬三 比企郡松山町四五八九

鈴木泰壽 浦和市仲町一ノ六三

竹越太三郎 荒谷市大字石原一七七七

西川武三郎 東京市品川區大井南濱川町一七四九

長谷川徳藏 北足立郡志木町一五九六

服部英一郎 東京市淺草區菊屋橋町一ノ一五

原貞治 東京市杉並區松庵北町一〇一〇

古川鉄一郎 東京市小石川區大塚坂下町一〇一

星野文郎 北足立郡大宮町大字大宮五七四

松本勝敏 東京市荒川區日暮里町二ノ六

三井眞春美 P.O.Box 40, Port Coquitlam, B.C.Canada.

茂木信一 千葉縣東葛飾郡野田町五七

山崎台作 北足立郡大石村大字小泉五〇

柳下泰吉 北足立郡白子村大字淺久保一八六七

柳下道政 北足立郡白子村大字淺久保一八六七

不明會員飯野融 鈴木聞一 本田思朗

堺會員五十嵐作之助 木村成一小山利一 駒崎昌藏 四關善輔 白子義影 瀬田英作

新井文策 都城市八幡町三三八二 カトリック教會内

池田康之助 東京市芝區西久保巴町四

今泉陸一 豊中市蓬萊通三六

笠原彦八 北足立郡鳩ヶ谷町一八二八

(明治四十一年三月)

四九名

農

財團法人埼玉共濟會専和園主事
カトリック教會勤務
慶大財務
日本農業株式會社企畫部長
鹿兒島高農卒

第八回

三五

農 東京株式取引所一般取引員

第一銀行吳服橋支店員

日東拓殖農林株式會社取締役

醫師、醫學博士

寫真業

銀行業

飲食業

醫師

所澤陸軍航空技術研究所勤務

醫師

富士身延鐵道株式會社取締役

酒造業

輸出金屬器加工業

醫師

東京控訴院部長判事

東大法卒

醫師(大宮診療所勤務)

東京醫專卒

農

醸造業

農

農

六高修

農

農

農

農

農

農

農

農

農

農

農

農

農

第一回

伊丹進 福島市荒町六二

伊藤治三郎 新潟市白山浦一ノ二四四

飯野良佐 八戸市駿町上手代森

飯村三郎 茨城縣結城郡石下町

池上隆一 浦和市岸町七ノ五八

池田四郎 北足立郡内間木村大字濱崎一〇七六

石川光三郎 東京市世田谷區經堂町三六七

稻見克己 (東京市中野區上町通四〇)

今泉利政 神奈川縣中郡大磯町山王町三六二

宇尾野宗尊 東京市世田谷區經堂町三七〇

内山平一郎 南埼玉郡荻島村三六〇

尾熊金太郎 北足立郡大宮町四〇八五

川鍋卯平二 北葛飾郡八代村中野二九三

小島愛助 北足立郡大宮町三七一三

小林邦明 大里郡深谷町一六〇

佐々木雄雄 東京市小石川區原町一三

阪脇矩夫 静岡縣濱名郡入野村入野親塚

北足立郡鴻巣町二六七六

須田邦太郎 北足立郡鴻巣町二六七六

鈴木富次 北足立郡與野町下落合一六八四

第二回

第一生命保険相互會社員

新潟中學校教諭

地方農林技師、青森縣水產試

驗場勤務

水產講卒

勤務入役、商

滿洲拓殖株式會社副參事(東京市)

越町區內幸町三大阪ビル内

北足立郡白子小學校長

安田銀行三田支店長

陸軍步兵中佐、滿洲國興安北

省海拉爾早淵部隊本部

陸士卒

大磯實科高等女學校教師

日本大學教授

日本大學教授

日本大學生

柏林大修

農

八代小學校長

崎師二部卒

飲食店業

東京都電燈株式會社駒込營業所

勤務

東京都遞信局工務課技手

東京都遞信官練卒

齒科醫

日本齒科卒

農

八代小學校長

崎師二部卒

飲食店業

東京電燈株式會社駒込營業所

勤務

浦和市仲町二ノ一四一

橋本眞松 奉天市雪見町五一ノ三號

古川道之助 神奈川縣三浦郡逗子町逗子一七九

森田三男 兵庫縣武庫郡魚崎町横屋内田四三

茂木正治 児玉郡仁手村大字上仁手一四四

増田幸藏 川口市本町四ノ二

古川道之助 神奈川縣三浦郡逗子町逗子一七九

細野英太郎 北葛飾郡松伏領村五六〇

野村勝 東京市四谷區鹽町三ノ五一

第一二回

四四

不明會員 清水英太郎 橋本 喜重 古川 正清

吉野松五郎

死亡會員 青柳 包吉 榎本 力藏 尾崎 金時 織田 正治 大熊 丈夫 大崎 忠一 川島 光爾

鈴木 齊 濱野 春男 濱田鶴右衛門 原 武治 松永 信吉

牟田 雄一

山下 一郎

赤尾 豊秋 北足立郡麻町四一二二ノ一

伊藤 軍治

川口市金山町六八

石井 治三郎

北足立郡大門村大字北原四三

大熊 権貢

北足立郡六庄村沼形二〇四

大熊正七郎

東京市豊島區上駒込町四一〇

岡田 長藏

勝木綱安蘇郡佐野町二六六二（北足立郡與

北川 宇吉

野町大字大戸四四三）

北川 宇吉

北足立郡野田村大字代山一〇八ノ二

清宮 一郎

東京市淀橋區西大久保町一ノ四五七

小森 寛一

東京市淺草區榮久町二五

齊藤 幹男

北足立郡大宮町大字大宮七〇六

高瀬 松太郎

北足立郡大宮町三六一〇

斯波 秀就

東京市蒲田區蒲田町一三三

杉谷 隆成

神戸市須磨區猪池町一ノ一

杉山 茂樹

北足立郡志木町一〇八〇

關應陽

名古屋市中區松元町三ノ二

曾根 不二丸

北埼玉郡原道村六〇二

高瀬 松太郎

北足立郡大宮町三六一〇

塙本 喜久司

北足立郡蕨町一六〇

徳永 文雄

釧路市黒金町一三ノ一九

永瀬 四助

川口市本町一ノ二〇

貫井 昌治

北足立郡六庄村別所一八七九

長谷川 喜一

東京市大森區田園調布二ノ七七四ノ一〇

長谷川 富蔵

名古屋市東區千種町高見三七ノ一九號

波田野 鑑

東京市世田谷區北澤町二ノ一一九

橋本 健

東京市牛込區早稻田鶴巻町八

橋本 喜久司
秋田市鶴山古川新町二〇
長谷川 富蔵
波田野 鑑

第一二回

第一二回

(明治十四年三月) 五四名

醫師

佐野高等女學校教諭

農物製造業

内務省東京土木出張所勤務

農

安田銀行盛岡支店長

發動機製作業

佐野高等女學校教諭

新潟鐵工所技師

野町小學校長

常磐石炭鑛業會幹事（丸ノ内）

明大修

東北工大卒

新潟鐵工所技師

堺師二部卒

三菱重工業株式會社取締役支配人

明大修

東京鐵道株式會社當任監查役

東北大工卒

東京鐵道株式會社取締役支配人

東高工卒

東京鐵道株式會社取締役支配人

明大修

東京鐵道株式會社取締役支配人

東高工卒

東京鐵道株式會社取締役支配人

明大修

東京鐵道株式會社取締役支配人

東高工卒

東京鐵道株式會社取締役支配人

明大修

第一回

五〇

大島正七郎 横濱市神奈川區泉町一八
金杉松次 北足立郡大宮町二五三〇
金森豊三 北足立郡三室村一五
黒須淺右衛門 川越市郭町三一八
篠 章 東京市足立區千住町二ノ三八
清水萬吉 南埼玉郡越ヶ谷町本町二ノ四六八六
鈴木繁次郎 福島市福島町江沼一三
戸賀崎義泉 横濱市中區蓬萊町二ノ二九
豊田友三 南埼玉郡八幡村大曾根二〇一

横濱第二中學校教諭 早大高師卒
浦和商業學校教師 埼師二部卒
農、村會議員
天幕防水衣商
中外商業新報市場部次長 慶大經卒
北足立郡草加小學校訓導 埼師二部卒
鐵道局書記、福島運輸事務所 勤務
勤務
鐵道局書記、福島運輸事務所 勤務
農
金澤市電氣水道局書記 大阪朝日新聞社京城販賣局主
任
大阪府立今宮職工學校教諭 東高工卒
昭和銀行本店員
農
鐵道省官吏、町會議員
成增合同迎送代表者
陸軍工兵少佐、陸軍砲工學校 早大商卒
東京電氣株式會社員
農士卒
東高工卒

直江晋一郎 金澤市梅木町東横丁七
長谷川義助 京城市船橋區成増町一六五
早船庫之助 大阪府泉北郡濱寺町大字船尾六二〇
船戸俊徳 東京市杉並區松庵南町六
細淵耕作 北足立郡六庄村沼影三四一
松澤英太郎 北足立郡大宮町櫻木町南二區
柳下千代松 東京市板橋區成増町一六五
山口甲子男 千葉縣千葉郡津田沼町久久田穢ノ口一三八五
山崎升彦 横濱市鶴見區東寺尾町一六一六
山野井豊 北葛飾郡新村高柳一五五
横山榮次郎 浦和市高砂町三ノ四
秋谷實 北足立郡大宮町三六八七
井上忠二郎 北足立郡大宮町東町三〇九〇
井原誠一 浦和市高砂町五ノ一五四
石井榮左衛門 北足立郡大門村大字北原一五五九
石井勝一 浦和市高砂町四ノ一七
石川清隆 石川義淨 北足立郡片柳村大字中川一七
石原佐代吉 高崎市旭町一一三
植野賢次郎 北足立郡戸田村大字下戸田三四〇〇ノ三

死亡員 有住庄之助 伊藤政吉 上田守 横本新平 坂井一義 白石章之助 杉山庫三郎
鈴木清太郎 中村德三郎 林源之助 林四郎 林聚博 船津隆之助 船津良之助
星野榮吉 星野重英 山崎仁治 山本敬事 横濱好三郎
不明員 安東徳次郎

農
醫師
愛知醫專卒

第一回
(大正三年三月) 五八名

秋谷實 醫師、醫學博士 東大醫卒
井上忠二郎 機關士
井原誠一 農
石井榮左衛門 保険代理業
石井勝一 健保
石川清隆 千葉醫專卒
石川義淨 東京鐵道局高崎驛勤務
石原佐代吉 東京鐵道局高崎驛勤務
植野賢次郎 材木商

第一五回

五二

白倉文次郎
北足立郡神根村新井宿二二
小野義名古屋市昭和區櫻山町三ノ六四
大野泰三北足立郡美谷本村大字内谷六八八ノ一
押田太郎群馬縣群馬郡塙川町鐵道官舍

農
横濱正金銀行名古屋支店員 東外語卒
埼玉縣農林技手
澁川驛長

農士卒

不賣會員 金野恭一郎

内務省土木出張所勤務

慈惠醫專卒

日本齒科卒

明治大學豫科教授

東大文卒

三和石炭商會員

慈惠醫專卒

東京鐵道局新橋運輸事務所勤務

日本齒科卒

智山派一乘院住職

慈惠醫專卒

三井生命保險株式會社員

日本齒科卒

法律書籍出版販賣業

慈惠醫專卒

安田銀行小石川支店員

日本齒科卒

太平火災海上保險株式會社員

慈惠醫專卒

早大商卒

日本齒科卒

智山派一乘院住職

慈惠醫專卒

鐵教習卒

日本齒科卒

智山派

第一六回

五四

稻田會員 石井 昇 内田 奎湖 上床 篤雄 大野 郁三 富永 四郎 秦 弘三 三上 後雄
 三宅第一郎 矢崎壽衛雄 矢作 和一 吉岡 絹彦 吉田 庸夫

第一六回

(大正四年三月) 四五名

遊馬 隆治 北足立郡與野町大字鈴谷四八八

天野 順義 東京市荒川區日暮里町三ノ一三九

天野 隆一 北足立郡六辻村大字辻一二九二ノ一

石神 平八郎 南埼玉郡岩槻町二三六八

石村 英藏 北足立郡蕨町三九九〇

猪垣 要 西宮市平松町二五

木原 信和 東京市中野區上高田町一ノ一五

瀬田 總一郎 高崎市弓町八五

齊藤 尊久 北足立郡六辻村大字別所一四九二

清水 甲子 北足立郡鳩ヶ谷町一一三三

鈴木 榮三郎 東京市本郷區本郷三ノ一ノ二〇

鈴木 島吉 北足立郡六辻村別所二〇三一

瀬戸 千秋 横濱市神奈川區南綱島町

竹内 悅郎 大同電力變電所内

中澤山村 富一 平塙府竹園町一

西川 健三 神戶市兵庫區北造瀬川町一〇八

蓮見 四郎 北足立郡大宮町大門町三六五〇

原口 真一 北足立郡大宮町四〇二三

田島 宽臺灣高雄州屏東郡東街歸來八七三

松本 知彦 靜岡市大岩宮下町五七

武藤嘉吉 東京市荒川區三河島町六ノ二三〇

森木 亮策 大連市楠町二五

森田 延作 門司市本村町二七五六

守屋 重蔵 北足立郡片柳村一四一九

農 農業士、府會議員、市會議員 東農大卒

商 農業士、府會議員、市會議員 日大法卒

商 農業士、府會議員、市會議員 村書記

第一七回

五六

柳井喜平 北足立郡中丸村北本宿五七四
渡邊榮太郎 浦和市高砂町五ノ一九六

關口倉吉 川口市本町一ノ一八
増田貞助 川口市本町一ノ二五

田中徳太郎 川口市十二月田町四五

不動尊福井 契吉 川口市本町一ノ一八
新井欣治 石川信友 小泉長六郎 鈴木萬雄
八角幸三 吉田惠

死後會員 福井 契吉 川口市本町一ノ一八
新井欣治 石川信友 小泉長六郎 鈴木萬雄
八角幸三 吉田惠

第一七回

癸丑年三月 四〇名

秋元勝一郎 東京市蘿野川區西ヶ原町九三六
秋谷良男 (北足立郡大宮町三六八七)

飯野義太郎 東京市豊島區西巣鴨町四ノ二四五
池内政一 入間郡宗岡村六三一

一ノ瀬雅雄 北足立郡土合村大字田島九
内田晃 水戸市元山町五九五四 腹山方

尾崎武 北埼玉郡忍町一五七

大澤禎耶 浦和市仲町五ノ八二
大野坦治 北足立郡美谷本村大字内谷一ノ三二

笠原久 北足立郡鳩ヶ谷町一八二一

門谷守二 東京市淀橋區下落合三ノ一三九九
金子菊次郎 北足立郡大宮町大字土手宿四二五

鴨田秀次 北足立郡上平村大字南三九六
川島武 北埼玉郡忍町大字忍六三一

小森三郎 北足立郡大宮町三八五三
齋藤富一郎 北海道空知郡富良野町

澤野小大郎 熊谷市箱田七三九
四浦雄 浦和市三九六六

鈴木近德 北足立郡大宮町 鐵道官舍七號之一
田中重之 東京市麹町區平河町一ノ三

高石幸三郎 川口市本町四ノ一七五
永瀬光吉 東京市王子區下十條町九五一

永山芳男 東京市神田區神保町一ノ四八
夏井清亮 北足立郡大宮町六三二

坂東貞市 北足立郡片柳村大字片柳一二六六

共營運送店員
鐵道信用組合專務理事、市會
鑄物業
荒物商
味增醸造業

凸版印刷株式會社勤務
醫學博士、大分縣立病院外科
部長(大分市竹町)
齊藤久孝事務所勤務
農

埼玉縣書記、浦和土木事務所勤務
茨城縣技手、縣農會技師
農

日本水產株式會社勤務
鳥取縣技手、商工課勤務
鐵道省經理局屬
農

北海道拓殖銀行支店員
貨物自動車營業
營業
日本水產株式會社勤務
農

熊谷中學校教諭
安田銀行本店員
鐵道省大宮工場技手
文部省社會教育局長
鑄物卸及銑鐵商
川口市永瀬鐵工所勤務
藥劑師
書籍商
農

天理大學
日本醫專卒
東大醫專卒
日本醫專卒
廣高師卒
安田養成卒
早大理工卒
東大法卒
中大經卒

水產講卒
水產講卒
日本醫專卒
日本醫專卒
日本醫專卒
日本醫專卒

東大經卒
東大經卒
東大經卒
東大經卒
東大經卒
東大經卒

廣高師卒
安田養成卒
早大理工卒
東大法卒
中大經卒
東大經卒

五六

第一七回

第一九回

六〇

星野金之助 東京市世田谷區玉川奥澤町二ノ五〇八
 細田市郎 横濱市中區臨町一ノ一一
 本田得次郎 横濱市神奈川區表高島町 内務省官舍
 宮崎博 浦和市岸町中丸二七〇九
 武笠敏 浦和市大字瀬ヶ崎三〇
 山口卯三郎 東京市荒川區尾久町富岡町三ノ二三七〇
 吉田貢 東京市芝區三田町一ノ四三

吉田

佐伊田

田

不廟會員

田中

弘治

豊田直

中村鴈太郎

堀川會員

青木

政治

大畑

春雄

岡村

藤次

高塚

得之助

高師

武

根岸

榮二郎

早船

健之助

前川

榮吉

松本

芳次

吉田

幸七

第十九回

(大正七年三月)
五七名

相澤靜治 北足立郡小室村一〇二四
 荒井方平 東京市蒲田區道塚町二七六
 飯島彰 浦和市岸町六丁目
 飯島千里 北足立郡戸田村二四三三
 石塚岩雄 新潟市山ノ下四二四一

岩井眞一

岩崎

健三

東京市上賀茂萩垣内二五

岩崎

健三

東京市淀橋區淀橋町七二六

岩崎

健三

東京市下谷區二長町一六八

岩崎

健三

北足立郡朝霞町大字膝折一八四八

岩崎

健三

北足立郡吉原町中三ノ四一

岩崎

健三

北足立郡戸田村二四三三

岩崎

健三

新潟市山ノ下四二四一

第一九回

六二

中村 喜一 北足立郡與野町六七一

中村桂太郎 永久一雄 永久一雄

北足立郡大宮町下町三〇六三

東京市王子區上十條町一四三一

北足立郡高砂町四二四一

浦和市高砂町四二四一

北足立郡上尾町五二

西野憲太郎 西野憲太郎

北足立郡根村一〇八

橋本安太郎 橋本安太郎

北足立郡大宮町二二二

濱野秀作 濱野秀作

北足立郡大宮町仲町

松原田進 松原田進

浦和市二〇五五

松田義作 松田義作

北足立郡蕨町四三五七

松本貞司 松本貞司

千葉縣長生郡茂原町六〇二

星野幸息 星野幸息

浦和市大字領家六九一ノ一

松下悟郎 松下悟郎

東京市荏原區中延町一九三

稻田宗正 稻田宗正

北足立郡蕨町二二五九

村磯賢隆 村磯賢隆

北足立郡美谷本村一七九

増田篤之助 増田篤之助

浦和市一六七二

新井津芳 新井津芳

東京市王子區上十條町一〇五一

榎本武義 榎本武義

宇都宮市大寛町二二五九

北澤和夫 北澤和夫

北足立郡美谷本村一七九

中田重三郎 中田重三郎

東京市王子區上十條町一〇五一

田耕作 田耕作

茨城縣行方郡小高村小高

飯田四郎 飯田四郎

東京市芝區三田四國町二二三

石岡利武 石岡利武

弘前市大字百石町二八

石村敏藏 石村敏藏

北足立郡蕨町三九九〇

遠藤隆策 遠藤隆策

浦和市大字本六五七

書籍文房具商

埼玉縣立圖書館司書

第百銀行淺草支店員

日本海上保險株式會社員

東京鐵道局田端保稅事務所勤務

東京鐵道局總務部經理課調查

日本赤十字社

醫師、醫學博士、日本赤十字社

醫師、醫學博士

東大醫卒

鐵道省大宮工場勤務

長生中學校教諭

農

帝國海上火災保險株式會社員

東京鐵道局川口驛勤務

千代田火災保險株式會社勤務

東京鐵道局尾久檢車區助役

北足立郡白子小學校訓導

東京鐵道局書記

日本加工織布株式會社勤務

東亞同文卒

舞造業

外務事務官兼領事內務事務官

上海總領事館勤務

日本齒科卒

吉林省下九台稅捐局副局長

小高小學校教員

外務屬、條約局第一課勤務

東外語卒

醬油釀造業

醫師

齒科醫

樂醫大卒

東京齒科卒

慶大經卒

川崎市立工業學校教諭

農林省生糸檢査所事務官兼神戶輸出生絲登錄所長

日東拓殖農林株式會社朝鮮派

早高文卒

大津 隆紹 朝鮮江原道春川邑花園町
大野 徹 北足立郡大宮町大字大宮三八一五

産主任
農業技術師、江原道廳農務課畜
業師
東大農卒

岡田 武 東京市芝區愛宕町
加藤 房吉 北足立郡桶川町字桶川一九〇

新潟醫大卒
惠醫大附屬東京病院内科勤務
惠醫大卒

小林 謙次郎 北足立郡大宮町四〇八二
佐野 貞一 楠和市常盤町二八一三二

米穀肥料商
廣島鐵道局工務部庶務課勤務
安田銀行小舟町支店勤務（東京市日本橋區小舟町）
日大商卒

清水 流吉 朝鮮京城府永登浦二七六
柴崎 一雄 東洋紡社宅

北足立郡鳩ヶ谷町大字前田三六八
盛岡市天神下
日大商卒

白井 長四郎 北足立郡大宮町大字大宮五九三
須賀 龜之丞 北足立郡大砂土村四三三

東洋紡織區域工場技術員
盛岡中學校教諭
日大高師卒

鈴木 長七郎 仁比郡松山町本町一
關根 義治 比企郡松山町本町一
富家 彰 神戸市灘區弓木町二八二一
永井 藤左衛門 北足立郡戸田村下戸田一七三六

鐵道省新小岩工場勤務
浦和商業學校教諭
金物商

中島 島精 横濱市中區本牧町三八七二〇
中村 友輔 東京市中野區氷川町七
中島 正巳 長野縣小縣郡丸子町一四一
日坂 盛太 北足立郡戸田村一三

千代田火災保險株式會社神戸支店勤務
住友生命保険株式會社員
西村建業所勤務（東京市麹町區丸ノ内海上ビル八階）
丸子農商學校教諭

日高 原義男 北足立郡上尾町一九七
引間 重郎 東京市淺草區馬道町一〇一
半田 比留間 田茂 兵庫縣武庫郡本山村北畑五〇二
深谷 昌浦 和市仲町三八七九

慶應義塾大學醫學部產婦人科
講師、醫學博士、神奈川縣醫
友會醫友病院婦人科醫長
東大醫學部皮膚科勤務、醫學
博士
齒科醫

日高 原義男 北足立郡戸田村一三
福田 勝藏 長崎市櫻馬場町東亞同文書院內
見方 茂 姫路市八代町一〇一
細井 良助 東京市芝區白金三光町一〇四
安川 喜一郎 浦和市常盤町五八四三
渡邊 和夫 北葛飾郡靜村伊坂一〇四五
渡邊總一郎 浦和市一八五九

慶應義塾大學醫學部
名古屋鐵道局名古屋運輸事務
所電力係
鋼鐵商
大阪商船株式會社臺灣航路蓬萊
丸事務長
齒科醫
東亞同文書院教授

金田味增株式會社販農
東北 大醫學
早大理工卒

日本齒科卒
東亞同文卒
早大商卒

田勝 增田 德二 姫路市八代町一〇一
田茂 逸見 方茂 増田 德二
笠孝 增田 德二
川喜 一郎 增田 德二
安川 喜一郎 增田 德二
渡邊 和夫 北葛飾郡靜村伊坂一〇四五
渡邊總一郎 浦和市一八五九

兵庫縣師範學校教諭
日刊工業新聞社東京支社勤務
(東京市京橋區銀座西二二二)
浦和第一小學校訓導
醫師
安田銀行本店員
蠶物業

第二回

六六

不動會員 碓井 春雄 北村 清 齊藤 文男 鈴木 露慶 矢崎 東五

秀吉 會田 輝平 青羽 勇二 江連 盛雄

道祖土一麿 根岸 二郎 水野 俊雄

淺子 茂助 神奈川縣三浦郡浦賀町大津七八六

井上 彦二 北足立郡戶塚村西立野二二

五十嵐 忠之助 浦和市仲町一ノ三八

石井 重光 銚子市本通一ノ一四九

石井 正雄 北足立郡大宮町一六六

石塚 一郎 浦和市大字本太四八

今泉 政吉 浦和市仲町三九〇六

宇田川 隆廣 北足立郡六辻村大字白幡一九九

内田 敬八 北足立郡志木町一六二九

金子 秀夫 浦和市高砂町一八九四

鎌田 賢北 北足立郡白子村一〇二一

木戸 和喜男 浦和市仲町一ノ四九

慈惠醫大卒

東外語卒

日本赤十字產院勤務、醫學博士

浦賀船渠株式會社員

明大商卒

酒類商

東京鐵道局經理課勤務

メリヤス製造業

川口市川口第一小學校教員

埼玉縣屬、農務課勤務

千葉醫大卒

醫師

土地測量業

僧侶

天臺宗大卒

水戸高校修

日大法文卒

東南大卒

日大薬卒

東京鐵道局上野運輸事務所勤務

東京鐵道局經理部審查課書記

日本硝子株式會社技師

農

東京鐵道局上野運輸事務所勤務

共同漁業株式會社新京丸船長

東京市王子區第二小學校訓導

大阪府警察部健康保險課屬

歩兵大尉第七聯隊步兵砲隊長

東京鐵道局大宮工場庶務課書記

地方農業技術師、長野縣經濟部

金蜜蜂勤務

六七

木南 新一 北足立郡大宮町土手宿一三五
熊谷信太郎 横濱市鶴見區東寺尾町一三一三
栗原健一 室蘭市深町 鐵道官舎

黒澤三郎 北足立郡美谷本村大字美女木三四三七ノ一
小泉正男 東京市豊島區西巢鴨二ノ二二一九
古要式郎 浦和市常盤町一ノ一二八

佐脇祥夫 大阪府三島郡吹田町三四〇一
齊藤道次郎 浦和市岸町二三七八
眞田健三 戸畠市中原町境川町一九九

篠田梯一 川口市横曾根一二五一
島田利明 大阪市住吉區湯里町三三九ノ一
白鳥正次 秋田市保戸野中野一五

關根隆蔵 北足立郡権水村大字島根一五六
田井武雄 兵庫縣伊丹町主基町五四三ノ三
高田善之 東京市杉並區和田本町六八〇

戸張幸一 北足立郡大久保村白嶺四八〇一
長崎次郎 北足立郡鴻巣町二四五〇ノ一
長瀬勇 長野市西長野町五

第二二回

六八

野々部明長 浦和市高等学校前
蓮沼勝長 神戸市灘區大石二番八号
濱野次郎 東京市目黒區自由ヶ丘六一
原田潔 新義州府麻田洞三八五 王子製紙株式會社宅
古橋才次郎 神奈川縣鎌倉町雪ノ下七〇三
星野廉 浦和市大谷塚一二二
細淵柳次郎 芙城縣那珂郡里廻町北山ノ上六八〇一
本多次郎 北足立郡小針村大字羽貫一〇二〇
前田常次郎 浦和市仲町三八〇
町田二郎 東京市澁谷區原宿一〇一〇〇
松澤兼四郎 北足立郡大宮町大字大宮二七七一
松澤義 喬南埼玉郡出羽村一二四
松本永世 浦和市大字下木崎二〇〇
宮崎亮 浦和市岸町一ノ一二九
森宗一 北足立郡大宮町東町四ノ三三四一
八木原由郎 稲父郡秩父町 秩父セメント會社々宅
矢田四真 浦和市三五五六
山岸光國 福岡市荒戸町五番町二二六
龍崎虎男 東京市杉並區天沼三ノ七四一
農務省運輸局線務課國際課動
鐵道省建設局計畫課屬
遞信省官吏
埼玉縣廳內務部商工課技手
鐵道省運輸局線務課國際課動
東京鐵道局大宮工場事務員
秩父セメント株式會社員
福岡縣衛生技師
鐵道省工作局技師
東高工卒
東大農實卒
金澤醫大卒
東大工卒

醫師、小泉製麻株式會社勤務
(神戸市灘區新庄家町)
新潟醫大卒
王子製紙株式會社朝鮮工場勤務
海軍少佐、横須賀航空隊教官
計理士
海兵卒、運用術
東北大工卒
青山學院卒
練航海卒
專大計卒

鶴尾壹一 船橋市五日市町二〇九
鶴田均三 北足立郡植水村島根六九二
齋藤忠康

田代

者

關田保男 北足立郡大宮町三六八〇

江口泰之助

田代

者

岡島盛三

田代

者

薄田敏男

田代

者

加藤清一郎

田代

者

加藤芳男

田代

者

片野恭平

田代

者

金子寛

田代

者

栗原猪一

田代

者

農業

田代

者

薬局經營

田代

者

早大專政經卒

田代

者

東藥專卒

田代

者

東商大卒

田代

者

東美術卒

田代

者

東大醫卒

田代

者

大宮尋高小學校教員

田代

者

東京府立第一商業學校教諭

田代

者

醫師

田代

者

新井光彌 北足立郡石戸村大字高尾二七五七
伊藤喜一 浦和市當盤町一ノ一三一
池田恭雄 北足立郡大宮町二九九四
石田大次郎 浦和市仲町三ノ五〇

田代

者

農業

田代

者

日本齒科醫學專門學校教授

田代

者

東大理卒

田代

者

中大法卒

田代

者

埼師二部卒

田代

者

海兵卒

田代

者

大宮尋高小學校教員

田代

者

東京府立第一商業學校教諭

田代

者

醫師

田代

者

第二二回

田代

者

農業

田代

者

日本齒科醫學專門學校教授

田代

者

東大法卒

田代

者

埼師二部卒

田代

者

海兵卒

田代

者

大宮尋高小學校教員

田代

者

東京府立第一商業學校教諭

田代

者

醫師

田代

者

第二二回

田代

者

農業

田代

者

日本齒科醫學專門學校教授

田代

者

東大法卒

田代

者

埼師二部卒

田代

者

海兵卒

田代

者

大宮尋高小學校教員

田代

者

東京府立第一商業學校教諭

田代

者

醫師

田代

者

第二二回

田代

者

農業

田代

者

日本齒科醫學專門學校教授

田代

者

東大法卒

田代

者

埼師二部卒

田代

者

海兵卒

田代

者

大宮尋高小學校教員

田代

者

東京府立第一商業學校教諭

田代

者

醫師

田代

者

醫師

田代

者

石塚安治
浦和市大字本太四四
石飛鐵太郎
北足立郡大宮町三六〇七
市川隆三
北足立郡大宮町仲町四〇一五
岩田基

農
日本醫大卒
醫師
和歌山中學校教諭(和歌山市)
東京鐵道局書記
鑄物製造業
埼玉縣社會教育主事補、僧侶
愛國生命保險株式會社支店勤務
陸軍々醫
日本醫大卒

宇田川初太郎
浦和市岸町二ノ九八
海老原好雄
東京市足立區梅田町一五四
鶴見愁成
浦和市大字針ヶ谷一五八
金子恭一
長岡市旭町一ノ一九八七
川村浩之助
(北足立郡六庄村白幡一八〇
金子忠次郎
北足立郡六庄村二七八
川村浩之助
石雄
北足立郡原村加茂宮七七五
川村浩之助
菊池俊雄
北友
北足立郡原村加茂宮七七五
川村浩之助
菊池俊雄
北足立區千住町五ノ六四
佐藤仁一郎
東京市蒲田區蒲田町四〇五二ノ二
佐藤龍雄
名古屋市東區池下町二ノ三八
坂寄恒吉
川崎市大師西町一三四

農
盛岡市天神町三
小島幸平
南埼玉郡越ヶ谷町本町二ノ四五六〇
佐藤仁一郎
北足立郡鳩ヶ谷町大字里
佐藤龍雄
北足立郡鳩ヶ谷町大字里
坂寄恒吉
東京市足立區千住町五ノ六四

中大法卒
大阪毎日新聞社映畫部勤務
醫學博士、日本赤十字社岩手
支部病院勤務
日本化學工業株式會社小松川
工場技手
工場技手
日本花旗栽培業
北海道拓殖技手、拓殖部林務
譲勤務
硝子金物類販賣業
株式會社間組下關支店勤務
農
廣島第二中學校教諭
味噌製造業
東京興信所宇都宮出張所主事
廣島第二中學校教諭
味噌製造業
日本齒科卒
大阪毎日新聞社會部記者
藥劑師
法政大學藥科教授(東京市麹
町區富士見町)
合同油脂株式會社勤務
浦高修

櫻井長四郎
川越市大字川越字鍛冶町九一五
澤口剛雄
靜岡市安東三ノ七七
篠竹藏
東京市豊島區西巢鴨四ノ三九四
清水澄
北足立郡鳩ヶ谷町大字里
須田忠次
札幌市北六條西九ノ二
鈴木啓
北足立郡桶川町六九
鈴木敏雄
下關市新町一ノ一二五七
高橋新之助
北足立郡歲町塙越三三八
瀬田四郎次
北足立郡大砂土村砂五八二
高野孫二郎
廣島市歲町一三四
高橋新之助
北足立郡歲町塙越三三八
高橋新之助
宇都宮市宮馬町二四一
渥澤政二
入間郡所澤町金山町一〇八五
瀧島彩司
兵庫縣武庫郡魚崎町横屋字川井二五三
照林好幸
北足立郡大宮町七二八
田頭敏
東京市目黑區上目黑町五ノ二五五八ノ二
名倉友次郎
兵庫縣川邊郡立花村東木大園
中島龍雄
北足立郡戶田村一九〇
長澤民治
東京市麻布區富士見町五三
野島靜雄
北足立郡內間木村六八九

第二三回

七二

福田卓爾 北足立郡與野町大字下落合一六四八
船津貞之助 北足立郡鳩ヶ谷町一八五九
矢作伊勢太郎 北足立郡根村根岸二二一四
星野助直 東京市日暮區自由ヶ丘一三五
森川一仁 北足立郡日進村大成一五六一
山村崎正 浦和市大字領家二五

四年修了會員
岩井良太郎 浦和市大字本太三七五
川面隆三 東京市麹町區麹町三ノ二ノ七
原田富一 東京市本郷區駒込東片町九六
町田俊一 北足立郡大宮町二九五三
不明會員 江刺眞實 大熊充哉 中村吉直 山本桂一郎

東京日々新聞記者 東商大卒
内閣情報部書記官 東大法卒
東京地方專賣局事業課長 東大法卒
第一銀行員 東商大卒
鐵道省技術員 日大高工卒
第四岩淵小學校訓導(東京市王子區) 東京工業大學団託
農業 東高工藝卒
歯科醫 日大齒科卒

死亡會員 小島慶三 小沼達 小谷野孝 佐橋勉 竹内晃 原田修作 肥留間幸右衛門
秋元武男 北足立郡美谷本村大字内谷
秋本幸平
淺田羊一 大阪市東淀川區三國町本町五七 美富久莊内
五十嵐孝作 浦和市高砂町一ノ六九
飯田正美 北足立郡六汎村文藏一七四六
池田新一 東京市豊島區駒込町一ノ二一五四
石井正徳 北足立郡戸田村大字上戸田二二二六
石塚光太郎 浦和市岸町三ノ一〇〇
今井正蔵 浦和市大字大谷場九
今泉榮政 北足立郡芝村大字小谷場三八
肉田彦二 北足立郡日進村大字大成五一四
小高武雄 北足立郡神根村大字新井宿四
小花伴 東京市王子區岩淵町二ノ三〇九
柳沼三郎 浦和市常盤町五丁目
金子吉衛 北足立郡蕨町一三
鎌倉竹三 東京市足立區千住橋戸町六一

慶大經卒
安東縣副參事官 内務局長(滿洲國安東公署)
キリスト教傳道者
煙草食料品商
農
飯留織物株式會社專務取締役
大川合名會主事
川口第三小學校訓導
藥劑師
武州銀行板橋支店勤務
農
東京鐵道局書記
文部圖書講卒
東商大卒
埼師二部卒
東藥專卒
明大商卒
慶大經卒
東大經卒

相川英四郎 (浦和市岸町七ノ五)
秋元武男 北足立郡美谷本村大字内谷
秋本幸平
淺田羊一 大阪市東淀川區三國町本町五七 美富久莊内
五十嵐孝作 浦和市高砂町一ノ六九
飯田正美 北足立郡六汎村文藏一七四六
池田新一 東京市豊島區駒込町一ノ二一五四
石井正徳 北足立郡戸田村大字上戸田二二二六
石塚光太郎 浦和市岸町三ノ一〇〇
今井正蔵 浦和市大字大谷場九
今泉榮政 北足立郡芝村大字小谷場三八
肉田彦二 北足立郡日進村大字大成五一四
小高武雄 北足立郡神根村大字新井宿四
小花伴 東京市王子區岩淵町二ノ三〇九
柳沼三郎 浦和市常盤町五丁目
金子吉衛 北足立郡蕨町一三
鎌倉竹三 東京市足立區千住橋戸町六一

第二三回

七三

第二三回

七六

原田力藏 岡山市島田八三
半田睦夫 廣島縣安佐郡原村
平井孝雄 大連市清水町一ノ四
深井一郎 大連市若菜町二〇ノ二
保坂澤健一 北足立郡大宮町三七八四

日清製粉株式會社岡山工場員 東大工卒
廣島中央放送局勤務 東大法卒
關東廳地方法院判官 京大法卒
大連商品取引信託株式會社勤務 慶大高卒

星野登喜八 北足立郡鳩ヶ谷町一八八三

上尾郵便局勤務 東大經卒
会社員 材木商 農業
桐タンヌ製作卸商

細井有三郎 南埼玉郡河合村馬込一四一六
細田吉太郎 北足立郡小室村四一七四

齒科醫 地方道路技師、埼玉縣土木課 東大工卒
勤務 農林省官吏 東大農實卒

松澤茂 北足立郡大宮町大字大宮二六六七
三宅第三郎 北足立郡六辻村根岸一九一四

日本コロンビア蓄音器會社員 東京齒科卒
東京市財務局地理課勤務 東大工卒

水村恒三 北足立郡美谷本村内谷四一九

埼玉縣衛生課技手 東大農實卒

村田恵治 北足立郡上尾町三三七ノ一
矢作幸吉 奉天市青葉町六〇ノ一一 扇利青葉ビル内

川口市川口第一小學校教員 東京齒科卒
日本コロンビア蓄音器會社員 大倉高商卒

山路平八郎 北足立郡大宮町三八七三
吉澤倫太郎

上尾郵便局勤務 東大農實卒
農林省官吏 東大農實卒

吉田龜治 北足立郡三橋村下内野六二七
吉田菊之助 北足立郡與野町大字下落合一六七一

川口市川口第一小學校教員 東京齒科卒
日本コロンビア蓄音器會社員 大倉高商卒

米田眞次 京城府初音町一三五

川口市川口第一小學校教員 東京齒科卒
日本コロンビア蓄音器會社員 大倉高商卒

伊藤泰助 東京市澁谷區向山町二九
中村謹治 川口市壽町一九九

海軍少佐 東京齒科卒
川口第二小學校訓導 東大農實卒

不明員 遠藤虎雄

海軍少佐 東京齒科卒
川口第二小學校訓導 東大農實卒

秋元貞三 東京市杉並區高圓寺町六ノ七〇三
秋山知三 大阪市旭區森小路町五ノ二四
淺子勝二郎 東京市大森區田園調布一ノ一〇九〇

大倉商事會社大阪支店員 東大高卒
慶應義塾大學豫科教員 東大文卒
市立高等女學校教諭 早大高師卒
教授 東京寫真專門學校助教 東大農實卒

新井玉作 旭川市五條通九丁目左九號
新井保男 東京市下谷區龍泉寺町六
有賀康雄 東京市京橋區新富町二ノ五ノ三
石井正恒 北足立郡植水村大字島根四二四

慶應義塾大學豫科教員 東大文卒
教授 東京寫真專門學校助教 東大農實卒
簡易保險局書記 明大商卒
東京鐵道局大宮工場勤務 明大商卒

第二四回

(大正十二年三月 八七名)

秋元貞三 東京市杉並區高圓寺町六ノ七〇三
秋山知三 大阪市旭區森小路町五ノ二四
淺子勝二郎 東京市大森區田園調布一ノ一〇九〇
新井玉作 旭川市五條通九丁目左九號
新井保男 東京市下谷區龍泉寺町六
有賀康雄 東京市京橋區新富町二ノ五ノ三
石井正恒 北足立郡植水村大字島根四二四

慶應義塾大學豫科教員 東大文卒
教授 東京寫真專門學校助教 東大農實卒
簡易保險局書記 明大商卒
東京鐵道局大宮工場勤務 明大商卒

七七

第二回

七八

市川幸得 尼崎市難波本町五ノ三〇〇
岩崎真平 東京市麹町區上二番町一ノ一 三井家別邸内
岩本武雄 浦和市岸町四ノ一四八
田平 北足立郡大宮町土手宿三五九
上木榮一
白木榮男 北足立郡土合村大字南元宿一〇一
小川信太郎 北足立郡戸田村七九四ノ一
尾崎太郎 浦和市常盤町一〇ノ七三
大中俊夫 浦和市本太二四三
大熊季雄 南埼玉郡柏間村二四五六
大島圭宇 北足立郡桶川町七七八
柏浦徳三 北足立郡大宮町四〇七八
加藤貞寅 北足立郡桶川町七五八
木内恒藏 北足立郡大久保村大字宿一九六
木原六郎 浦和市常盤町一四二
北西卯三郎 北足立郡大宮町七八七
齊藤俊介 哈爾濱市馬家溝士裸街八ノ二
澤田芳治 北足立郡芝村芝五一六
杉浦幸太郎 北足立郡鴻巣町二七三一ノ一
鈴木治助 東京府北多摩郡立川町仲町三一二七
田島要次郎 北足立郡上尾町大字下上尾
田中繁之助 横濱市磯子區西根岸馬場町九九
田部井誠一 大里郡深谷町本町一一一
田邊竹雄 (大坂市此花區櫻町三一九)
田村敦四郎 茨城縣猿島郡古河町南新町
高瀬虎藏 (樺太敷香郡敷香町)
武市猛 北足立郡大宮町宮町大通
出雲平八郎 金羅南道咸平郡咸平面箕閣里七九二 (浦和市常盤町八三九)
富田嘉吉 東京市王子區志茂町一ノ一三七〇
奈良岡弘 (北足立郡大宮町四〇一六)

日本徵兵保險株式會社大阪支
部社員 東大法卒
彫塑家 明大商卒
浦和商業學校教諭 烧師二部卒
石川縣金澤第三中學校教諭 東高師臨教卒
農業
瓦製造業
洋反物製造業
第八十五銀行板橋支店員 明大商卒
醫師 日本醫大卒
沼津區裁判所判事 東大法卒
醫師 東京醫專卒
肥料賣元賣捌
篩家具荒物商
町副收入役 埼師二部卒
京濱電鐵自動車修繕部員 東京齒科卒
東京鐵道局書記、大宮工場勤務 (北足立郡上尾町) 東大法卒
町役場書記 東高醫卒
大久保小學校訓導 中大法卒
齒科醫 東京齒科卒
北西酒造合名會社勤務 (北足立郡上尾町) 東大法卒
櫻瀬自動車株式會社勤務 東高醫卒
紙荒物木石炭商 葉商
齒科醫 農業
日本人絹バルブ株式會社勤務 拓大豫卒
日滿倉庫株式會社勤務 東大經卒
洋服商 九大法文卒
合勤務 早大專商卒
朝鮮全羅南道光州聯合金融組 早大專商卒
京大經卒
日本勸業銀行新潟支店員 大倉高商卒

第二回

七九

第二回

八〇

永島恒茂 東京市瀧野川區中里町五五

永島義一 北足立郡大谷村大字向山五四九

西村 淑 西村 淑

額賀 雄 武治 北足立郡大宮町宮町

野本正雄 東京市下谷區金杉下町三八

橋谷 峰 藤田宣 雄 福島縣西白河郡白河町二番町四六

船津 雄 群馬縣山田郡大間々町六ノ一四四四

保坂忠次郎 川口市金山町七一

堀内藤武 北足立郡六辻村別所一七二

町田戰三郎 東京市豊島區雜司谷七ノ一一一七

松丸岡三郎 東京市王子區志茂町三ノ一〇八

宮下宣清 北足立郡大宮町高鼻五六ノ二

宮本佐次 平 千葉縣東葛飾郡松戶町三ノ一三四七

武笠正雄 臺北市古亭町二一二(北足立郡三橋村三五六)

横田新之助 川崎市新城二三

横田隆教 吉岡好治 浦和市三七〇三

井本臺吉 寄田豊 富永龜太郎 濱田長十郎 萩島傳吉 西川信治 永瀬吉五郎 濱田長十郎 不明會員 加藤定吉 松本勝三

株式會社赤木屋賣業
蓄財研究所長

拓務省技師、南洋總土木課勤務
(南洋群島コロール島)

川口第五小學校訓導

僧侶

醣物製造業

東京區裁判所兼地方裁判所檢

事務官、醫學博士、東京警察病

院勤務

府中小學校訓導(東京府北多摩郡府中町)

步兵第七十三聯隊步兵砲隊長

陸軍步兵大尉

吳海軍工廠砲彈部技師

農機械業

礦物業

第二回

八一

淺草松屋勤務

農

水川神社福宜

日本大學齒科助教授

東京遞信局工務課勤務

美術雛人形製造販賣業

釀造業

渡良瀬水電株式會社勤務

鑄物工業

國際汽船株式會社勤務

大日本製糖株式會社東京工場

員

東京鐵道局運輸部庶務課勤務

福島高商卒

東京鐵道局秋葉原驛勤務

明大法卒

東京鐵道局大宮工場事務員

明大專商卒

鐵工業

松戶高等女學校教諭

臺北女子高等學院講師

早大高師卒

滋賀縣經濟部經濟再生課勤務

京大農卒

東大理卒

東大工卒

東大文卒

陸士卒

東大工卒

第二五回

八四

鈴木 武雄 北足立郡與野町上落合

仙田 倉雄 東京市荏原區中延町五四一

瀧上 猛男 浦和市當盤町五ノ一四四

平塚 越甫 次北足立郡與野町大字下落合一六五五

鳥海 喜平 北足立郡三室村四一二一

永瀬勝美 川口市本町一ノ一二

永田 昌吉 北海道網走郡網走町南七條西二丁目

萩原 考二 入間郡越生町一〇一〇

西村 春雄 浦和市常盤町四ノ五四

原田 正永 東京市王子區下十條町一五二五

原田 實 東京府北多摩郡武藏野町吉祥寺四

平山 常時 浦和市仲町四ノ五九

廣田 英二 北足立郡桶川町七八八

星野 幸藏 浦和市仲町二ノ六

星野 正一 浦和市仲町二ノ一四〇ノ一

細井 繁吉 川口市横曾根町八反目四一二

細井 敏夫 北足立郡谷塚村二七三

松崎 武男 長野縣上伊那郡伊那富村辰野一六二〇

松澤 正二 北足立郡野田村

松本 重三 北足立郡大宮町三八六九

水谷 實 北足立郡三橋村三二四八

水村 保倫 北足立郡大砂土村五〇八

森田 茂夫 北海道松前郡福島村字吉田町

森田 茂夫 札幌市南八條西一五丁目

矢島 蔭 蒼北足立郡上尾町愛宕一二八

日本利一 東京市下谷區上野町二ノ四

横内 武雄 東京市下谷區上野廣小路 野村ビル内

石塚 啓助 大連市聖德街一ノ八五

烟司 晋 東京市小石川區駕籠町二二五

昇華工會員

立教中學校教諭

藥劑師、友田製藥株式會社勤務

鐵道省經理局調查課普通統計掛

福岡中學校教諭

鐵道省官吏(隅田川驛貨物掛)

農

網走農業信用購買販賣利用組

合書記

高麗川小學校訓導(入間郡)

浦和市役所財務課勤務

福井小學校訓導(東京市淺草區)

東京文理科大學書記

齒科醫

東京高等工業學校講師

埼玉縣書記庶務課勤務

文房具商

浦和第一小學校訓導

齒科醫

野田小學校訓導

實商

鐵道省官房研究所勤務(東京市芝區齋崎町一)

武陽實業學校教諭

東京鐵道局秋葉原驛勤務

漁業協同組合書記

農

北海道拓殖銀行員

北足立郡宮原小學校訓導

和洋紙文房具商

自營

住友信託株式會社東京支店員

(東京市麹町區九ノ内一ノ二)

醫師、大連病院眼科勤務

東大理卒

第二六回

八六

大坂市電氣局技術部庶務課勤 早大法卒

守屋捷一 大阪市住吉區平野町一四九
平明會員 奥村敏次 柴山惣一 須浪浩治 中村敏男 若林光秋
死亡會員 石井五十二 大熊安治 桑田順弘 杉山昌三 關田智男 田中錦壽 戸賀崎宣輔
戸張宗次 野崎健太郎 橋本邦之介 原武男 深澤澄人 堀越數雄 増田敏光

吉野勇

第二六回

(大正十四年三月) 八三名

武州銀行川口支店員 農
飯塚賢三 川口市飯塚町三八 文房具商
淺香儀作 北足立郡三室村字道祖土三六〇 浦和市岸町郵便局經營
天沼英一郎 北足立郡桶川町大字桶川六七三 東大農卒
池田季之助 浦和市岸町六丁目 機織業
石村敬助 北足立郡蕨町三九六八 醫師
石村隆藏 北足立郡蕨町三九九〇 製材業
今村二郎 小倉市三萩野六九八 運動具商
内田博三 川口市本町一ノ三〇〇 日大卒
浦元力時 濱松市廣澤町二五二
大畑仁男 浦和市岸町二ノ八一

農
飯塚賢三 川口市飯塚町三八
淺香儀作 北足立郡三室村字道祖土三六〇
天沼英一郎 北足立郡桶川町大字桶川六七三
池田季之助 浦和市岸町六丁目
石村敬助 北足立郡蕨町三九六八
石村隆藏 北足立郡蕨町三九九〇
今村二郎 小倉市三萩野六九八
内田博三 川口市本町一ノ三〇〇
浦元力時 濱松市廣澤町二五二
大畑仁男 浦和市岸町二ノ八一

王子火工廠從業員

東京市財務局地理課勤務

神職

埼玉縣廳健康保險課屬

墨石營林署勤務

淺草區山谷正德小學校訓導

紡績機械用品株式會社勤務

(大坂市西區新町)

農

三省堂社員

清酒燒酎釀造卸問屋

武藤商會勤務

深川町組合病院眼科勤務

日本鋼管株式會社勤務

日本鋼管株式會社勤務

千葉醫科大學講師

千葉醫科大學講師

第二六回

八七

岡田勇
萩島忠治 東京市王子區上十条町一三三〇
加茂國雄 茨城縣猿島郡古河町五一二〇
柿沼四郎 浦和市仲町四ノ一〇二
金森一雄 岩手縣岩手郡榮石村
北川武保 北足立郡柏原町七三六
草刈忠 大阪府南河內郡柏原町六一七
國谷錦之助 北足立郡尾間木村大字井沼方九四
小島五六 北足立郡大砂土村土呂五四
小沼義雄 今治市二番町一四七
小林隆 東京市杉並區荻窪三ノ五五
小山又一 北足立郡指扇村大字指扇一七九八
兒玉幸太郎 北足立郡六辻村白幡二九二
齊藤正道 横濱市中區石崎町一ノ二五
眞田秀雄 東京市鶴町區鶴町二ノ四
鹽味福之助 北足立郡朝霞町大字溝沼一〇一
島田通男 千葉市長洲町二ノ八〇

第二六回

八八

須賀得四郎

東京市中野區本郷通二ノ一七六

鈴岡正三

東京市王子區王子町一ノ一八八

田口英雄

東京市豊島區雑司ヶ谷町一ノ三〇七

田中慶治

浦和市常盤町七〇五

田邊實光

東京市淀橋區百人町二ノ二二七

田畠頼治

東京市葛飾區本田淡ノ須町一〇〇

高橋章三郎

東京市葛飾區本田淡ノ須町一〇〇

高橋武男

北足立郡柳原染谷八一四

高橋行雄

北足立郡桶川町六三一

高柳四郎

北足立郡谷塚村三一三

竹藤芳郎

東京市赤坂區青山南町五ノ九六

千代延

○○ the Bank of Taiwan Ltd., No.31 Raffles Place, Singapore, S.S.

千代延

東京市王子區岩淵町一ノ四二一

高木長英

東京市中野區江古田一ノ二〇七四

並木悠平

北足立郡三橋村大字並木八七

日野一郎

北足立郡三橋村一九四一

平井一郎

北足立郡三橋村一九四一

平井三郎

北足立郡小室村四二一五

細川一郎

北足立郡大砂土村三五〇

堀川一郎

北足立郡大砂土村三五〇

松川一郎

北足立郡大砂土村三五〇

増田一郎

北足立郡大砂土村三五〇

山川一郎

北足立郡大砂土村三五〇

勝田一郎

北足立郡大砂土村三五〇

森田克己

北足立郡大砂土村三五〇

安田榮治

東京市濱野川區田端町一一一

滌橋第七小學校訓導

國際電話株式會社勤務

東京帝國大學醫學部附屬醫院

新潟縣農業局勤務

新潟鐵工所蒲田工場勤務

安東電報電話局勤務

千代田機械製錫株式會社勤務

大宮農商學校教諭

東京朝日新聞通信部記者

三井生命保險株式會社勤務

臺灣銀行シンガポール支店勤務

商工省燃料研究所勤務

浦和中學校教諭

埼玉縣書記浦和稅務出張所勤務

鐵道省運輸局自動車課勤務

農林省水產局海洋課勤務

早稻田大學專門部講師

農林省水產局海洋課勤務

昭和火災保險株式會社市内課

代理店係長

岡山縣穀物工業組合勤務

山市北方

鈴織物貿易商

國光生命保險株式會社勤務

(東京市京橋區銀座)

日本鐵道局大宮工場勤務

日本勸業銀行青森支店書記

流澤倉庫株式會社深川倉庫勤務

讀賣新聞記者

鐵道省大宮工場勤務

近海郵船株式會社大明丸乘組

日本鋼管株式會社勤務

株式相場觀測及ビルプロウカ

八九

第二六回

九〇

熊谷署詰巡查（熊谷市）

久雄
重次 北足立郡大宮町二九六七
安見
山崎市郎 大阪府三島郡千里村字片山天道二九三一
山田正次 東京市淀橋區百人町二ノ一七七
吉田勝治 北足立郡志木町二四八三
若海 洪 北足立郡土合村一八三四

（警視小島）
四年終了會員
稻澤修 東京市常盤町七七八
石川正夫 浦和市常盤町四ノ一〇六
稻澤亮 浦和市常盤町七七八
秋山雄太郎 神戸市灘區高羽楠ヶ丘一七
荒井 田中正夫 東京市中野區沼袋北一ノ五四五
榎本桃太郎 大阪市西成區粉濱本町四ノ五七
小口 静夫 東京市中野區沼袋町北一ノ五〇八
尾住秀雄 東京市板橋區下石神井町二二一六
向坂捨三 大阪市外枚方町字岡
眞木昌夫 北足立郡大宮町吉舎町三八九九
松岡清 臺灣高雄州東港郡東港街
山崎富雄

智山専門學校教授 東商船卒
佳友化學工業株式會社勤務 東大文卒
局勤務 東大法卒
大阪毎日新聞社英文毎日編輯 東大文卒
浦和商業學校教諭 東大文卒
東京市立第二中學校教諭 東大文卒
大坂毎日新聞社英文毎日編輯 東大文卒
東京開成中學校教師 東大文卒
臺灣總督府地方理事官、東港 麗大經卒
郡守 東北大法文卒
二等機關士、三菱商事船舶部 東大理卒
さんらも丸乗組（東京市麪町區丸ノ内二ノ四） 東商船卒
利根川秀吉

電機學校卒

東外語卒

陸軍軍醫大尉、第一師團軍醫

自轉車業

陸軍々醫學卒

川口市第一小學校訓導 東洋大卒

東洋大卒

明大政經卒

東大文卒

東大法卒

東大文卒

東大法卒

東大文卒

第二七回

九二

石川貞一 北足立郡與野町一七四

今泉移 奉天市若松町五六八四

白倉吉三 北足立郡神根村大字新井宿四

内村太郎 横濱市中區三春台一〇一

櫻本吉英 横濱市中區三春台一〇一

榎本善行 東京市澀谷區櫻丘町五五昭和寮内

小川洋 大連市山縣通二〇五 稅關官舍十一號

小熊友博 北足立郡片柳村大字中川四二

小田倉正 東京市目黑區自由之丘一七三

大井健三 東京市王子區志茂町一ノ八四三

大熊善四郎 東京市王子區志茂町一ノ八四三

大熊初太郎 吉林市北新開門外

岸嘉信 北足立郡宮原村大字吉野原一一二

岸川鐵太郎 北海道山越郡長萬部村

小寺安明 北足立郡内間木村濱崎一〇三〇

小林正雄 浦和市常盤町六ノ三五

古要桂次 (浦和市常盤町一ノ二二八)

菰田惟信 東京市世田谷區玉川與暮町二ノ六六九

櫻井春治 川口市横曾根町二五九六

里見達夫 浦和市岸町三五六四

清水正三郎 浦和市高砂町三ノ二三

新藤綱平次 北足立郡三橋村上小村田一七九

須崎三四 北足立郡内間木村大字上内間木七八九

須田俊後 北足立郡内間木村濱崎一二四五

高石昌五郎 川口市榮町一ノ二〇八五

高徳勝之助 川口市本町三ノ一〇二

高橋良夫 高橋真節 東京市大森區新井宿一ノ二三一〇

町役場吏員 南滿洲鐵道株式會社皇姑屯列
車區勤務

滿洲國財政部大連稅關副稅關

內務省地方法行政課勤務

關東學院中學部教諭(橫濱市)

北足立郡大谷小學校訓導

大學生在學

早大商卒

東北大法卒

培師專卒

東大法卒

東大文卒

第十一臨教卒

東京府第二道路出張所勤務

金物商

滿洲國軍需官、第二軍管區司

令部庶務科勤務

北足立郡七里小學校訓導

千葉醫科大學法醫學教室助手

史料編纂所勤務

石炭商

滿洲醫大卒

拓大商卒

東洋大卒

千葉醫大卒

東大文卒

明大法卒

拓大法卒

東京市荏原第四小學校訓導

病院勤務

滿洲醫大卒

浦和商業學校教諭

農

早大法卒

東物理卒

豐師二部卒

豐師二部卒

日大醫卒

東商大專卒

日大高師卒

申大商卒

東大工卒

九三

第二七回

第二七回

九四

辻村重良 北足立郡與野町下落合一〇六四

土屋申一 浦和市仲町四ノ一八

常見常夫 浦和市高砂町四ノ五〇

中川清 東京市神田區松永町一八

永堀善作 北足立郡六社村別所一二三五

新島延夫 千葉市登戸五ノ一四四

野口東一 葦中市木下町一ノ四

野原松之助 北足立郡大谷村地頭方五四六ノ一

平井靜夫 北足立郡日進村下大成二六八

平野義雄 東京市目黒區三谷町五一

深田一男 東京市本鄉區森川町七三

細瀬平治 北足立郡大砂土村一四六七

本間義夫 東京市北足立郡六社村沼影三三六

町田壽衛男 北足立郡大宮町二九三六

三須信安 松浦本三

森山谷 浩 北足立郡中丸村大字北本宿五四〇

矢部一郎 浦和市岸明ノ五

山崎平三 浦和市大字本太八三二

吉川捷 東京市淺草區南元町四九

力村晃太郎 浦和市常盤町五一六 小沼方

渡邊牛之助 北足立郡朝霞町大字臺五七一

長村利綱 浦和市仲町四ノ二六

熊井她的 住友信託株式會社東京支店員

重田光晴 静岡市泉町三ノ三

高久謙次郎 浦和市大字本太二四四二

松澤藤一郎 浦和市高砂町二ノ六七

龍崎立 三原市絲崎町東野二八一三

飯塚直次 川口市前川町一ノ二一四三

飯留穀物株式會社取締役

九五

東洋薑貢器株式會社營業部長
(東京市京橋區京橋千代田證)

拓大學助教授
藥劑師、日本赤十字社埼玉支
部勤務 東藥專卒

織物業
藥劑師、東京帝國大學醫學部附
屬病院都築外科教室勤務

千葉醫科大學助手
千葉醫科大學卒

帝國製糖株式會社工務部技手
藥劑師

東藥專卒
拓大商卒

拓大商卒
東藥專卒

第二八回

引間三雄 東京市本所區石原町二ノ二三

株式會社富島組東京支店勤務 日大法文卒

登場會員 伊藤 貞嘉

稻葉 松次

武井 弘

田代常三郎

鳥海 滉

死後會員 今井宇之助

大津 隆文

荻島滿之助

瀧澤 之幸

竹内 忠孝

長谷川順一

萩原 正司

平田 清一

平野 埼

本多 三郎

山本 朝光

吉田美代司

渡邊 新一

第二八回

(昭和二年三月) 一〇九名

相川宗治 浦和市高砂町

赤松則英 東京市王子區岩淵町二ノ二〇〇

雜穀商 東京光學機械株式會社技師

秋本房雄 北足立郡六辻村辻二五七六

農業 满洲國財政部大連稅關勤務

秋浅子 雄 大連市晴明臺一ノ一七 松下方

酒商 東京無線電機株式會社勤務

雨森浩 北足立郡野田村大字大崎三四二六

北足立郡大森區大森町二ノ一七三

日大工卒

五十嵐仁三郎 浦和市仲町一ノ三八

北足立郡大宮町高鼻四區一六〇

日大工卒

井上伊三郎 (北足立郡與野町二二七七)

北足立郡大宮町三六八一

日大高卒

伊藤信彦 (北足立郡大宮町三六八一)

大日本麥酒株式會社員

日大高卒

飯塚正哉 浦和市高砂町四ノ六九

日大高師卒

石田海彰 北葛飾郡栗橋町三五八七

日大齒科卒

市伊川三郎 室蘭市大町六九

福岡市役所都市計畫課勤務

日大高師卒

入江晴一 福岡市平尾町一六四 水野方

日大齒科卒

岩野十郎 東京市王子區稻付西町六九

日大齒科卒

内木英二 北足立郡土合村大字西堀一五〇一

日本赤十字社埼玉支部病院外科勤務

大正大文卒

内田太一 浦和市常盤町六丁目 前田方

陸軍省經理局主計課勤務

大正大文卒

梅澤九十九 南埼玉郡越ヶ谷町彌生町

南埼玉郡荻島小學校訓導

埼師二部卒

小川平義 浦和市高砂町四ノ一九

酒造業

日本赤十字社埼玉支部病院外科勤務

大正大文卒

小高岩夫 北足立郡大宮町大字大宮二九八六

日本赤十字社埼玉支部病院外科勤務

大正大文卒

大中健三 東京市目黒區上目黒四ノ二一五三

日本放送協會調查部勤務

早大專商卒

小花四郎 北足立郡大宮町二八八五

仙高工修

東大文卒

太田耕 (浦和市高砂町三八八九)

日本放送協會調查部勤務

早大專商卒

大貴清衛 大中間木村大字下内間木七九二

日本郵船株式會社シヤトル航

東商船卒

金森康次 金森康次 群馬縣多野郡新町二〇七

路照國丸機關士

東商船卒

金井尚夫 川口市壽町九六

新炭問屋

農業

九七

九六

第二八回

九八

金子今一 北足立郡上尾町三五〇

齊名武場

神山裕一 東京市杉並區西田町一ノ四二八

河邊武士

木下剛

北足立郡六辻村別所一八三五

北澤信佐

熊谷德巳

木重雄

暮田治

東京市小石川區白山御殿町一〇〇

黒須政之助

小出澤謙司

小林平七

小峯清

小峯長三郎

駒崎正胤

近藤昇一

酒井澄

澤井隆一

東京市牛込區馬場下町四七

渺由茂

鈴木靜三

鈴木達

關口貞雄

根三郎

浦和市仲町二ノ四〇

北足立郡六辻村大字辻二五五九

北足立郡鶴ヶ谷町一九三

高橋一世

北足立郡野田村大字大崎二一五五

高橋恒平

高橋忠德

高橋八太郎

竹内威

高橋利直

永瀬好二

永瀬利直

永瀬利恒

第二八回

一〇〇

野島利一 北足立郡内間木村上内間木三一

原田光治 北足立郡與野町七七五

平柳鉢谷 誠 息浦市仲町四六四

藤井一五郎 東京市板橋區板橋一ノ二四三九

船津弘治 北足立郡鳩ヶ谷町一八六六

星野知次 北足立郡植水村六三六

細淵清藏 北足立郡三室村大字沼影一三二

細淵美代治 北足立郡内間木村上内間木三一

眞木眞澄 東京市中野區大和町一四九 石上方

間山秀己 浦和市鍋ヶ窪一五七八

町田徳治 入間郡所澤町御幸町七四

町田路加 大里郡寄居町三八〇

松井富士雄 東京市王子區上十条町九八九

丸山秀夫 南埼玉郡岩槻町久保宿二五六六

宮崎鐵也 浦和市高砂町一ノ四七

持田庄三郎 浦和市常盤町二ノ五

森田盛藏 豊北市幸町一四五

商

東京鐵道局運轉部庶務課勤務 法大専商卒

浦和第二小學校訓導 埼師二部專卒

臺北市文武町三ノ二 甲三號官舍 東大法卒

東京市板橋區板橋一ノ二四三九 東高師卒

北足立郡鳩ヶ谷町一八六六 明文理大學在

早大理工卒

北足立郡植水村六三六 東洋大文修

農

產業組合中央會埼玉支會勤務 早大法卒

陸軍步兵大尉 陸士卒

白木屋勤務 明治學院卒

熊谷飛行學校所澤分教場附技 東高師卒、東文

手稿 寄居小學校訓導 陸士卒

日本寫真技術家協會員 陸士卒

新和小學校訓導(南埼玉郡新和村) 陸士卒

近衛第二聯隊附二等軍醫 群師專卒

埼玉縣書記、川越稅務出張所 阪大醫卒

勤務

總督府官房外事課勤務 埼師二部卒

理大物理卒

明治學院卒

大宮小學校訓導 陸士卒

農業試驗場勤務 東大農卒

東北大醫在學

婦製造業

大宮北小學校訓導

商會主(東京市麹町區九ノ内)

ビルディング三階三〇七號)

「ダイヤモンド」記者

省織秋葉原驛貨物係

大宮國濱洲縣安達鐵路局農事

試驗場勤務、監視、保安部建築

課技術係勤務

東京鐵道局池袋車掌區勤務

副醫師、新潟醫科大學眼科教室

北足立郡大宮尋高小學校訓導

堺師二部卒

農業試驗場勤務 東北大理卒

勤務

日蓮宗專任布教師

立正大文學

醫師、北海道顧技師

拓大修、日本科在學

東京市王子區第四岩淵小學校

堺師二部卒

守屋弘仙臺市本町末無常營莊內
矢澤長太郎 川口市榮町三ノ一五七
矢部金藏 北足立郡大宮町二七〇一ノ一
山岡靜雄 東京市澁野川區西ヶ原町三四七
山崎光夫 東京市澁野川區西ヶ原町三四七
吉田正儀 東京市王子區上十條町銀座通り魚鈴市場前
吉川忠雄 北足立郡大宮町下町三區三一四九
吉田倫恒 浦和市岸町六ノ九二
吉田正儀 北足立郡大宮町下町三區三一四九
若山美知 新潟市寺浦通二ノ二六三仁篤寮内
吉田倫恒 北足立郡鴻巢町二七三五ノ一
吉田倫恒 北足立郡鴻巢町二七三五ノ一
佐藤純夫 清村達郎 南埼玉郡浦生村
齊藤義廣 若山美知 北足立郡上尾町五六〇
齊藤義廣 北足立郡上尾町五六〇
齊藤義廣 札幌市南六條西十六丁目眞下方
谷誠助 北足立郡根村大字神根一八九〇ノ一

第二十九回

山崎肇 川口市金山町一九七
木康之 川口市本町三ノ四
殿太郎 川口市本町一ノ六六
倉康太郎

理髮業
會社員
機械業

正義 沢田力成 恭 佐藤春
土橋眞 中磨小一郎 服部 幸吉 星野弘

東京省三澤田信夫田口進
島村修爾山崎捷治

第二十九回
〔昭和三年三月〕 一二〇名
赤尾省三北足立郡蕨町九四四

東京瓦斯會社地盤營業所勘定

秋山定雄
山形縣西田川郡溫海
淺子俊一 北足立郡野田村大字
新井喜四郎 南埼玉郡岩町二六

新潟鐵道局溫海驛勤務
農耕地整理組合管見

新井保亮 北足立郡大砂土村西
舊名賀太郎
井上堅太郎 北足立郡大宮町三七

大宮農商學校教諭
南埼玉郡岩槻小學校教員

石井誠次郎 北足立郡大宮町一六
石井正男 北足立郡神根村木曾
石井隆次 捕印市屋町三ノ八五

濟和中學校發譜

石堂明信 東京市本所區千歲町

組上二之更正書

岩田正三 東京市向島區寺島町二ノ二
内田登已久 浦和市神明台七五

鋼鐵商岡田菊次郎商店
(東京市本所區國橋塚)
東京市下谷區高等小學校訓導

榎本四郎 入間郡宗岡村四九四
遠藤盛一郎 東京市豊島區池袋町

農業支社
會社員(淺野物產株式會社)

小川真平 北足立郡大宮町高麗
大泉来吉

無綫拉手
代々木高等小學校訓導（東京）
市澁谷區

大瀧桂作 北足立郡大砂土村
岡野松五郎 北足立郡上尾町八之
岡村繁 川口市本町一ノ二

藥劑師 漢造業
東京市下谷區役所戶籍兵事課
兵事係勤務

加藤 謙 藏 東京市本郷區富士前
笠原 友 彦 北足立郡鴻ヶ谷町一
金井 庄 一 北足立郡三橋村三

東京帝國大學醫學部產婦人科教室勤務農

金子幸治（北足立郡蕨町）

官吏
浦和商業學校教諭

金子 賀加木
田幹雄 北足立郡大宮町三
上林義郎 浦和市仲町四丁目

東京市第一日暮里小學校訓導 豊師二部卒
武州銀行本店員
名古屋陶磁器輸出組合勤務
社會政策學院卒
東商大卒

第二十九回

10

第二十九回

一〇四

鐵道職員

慶大醫在學

河野重治
北足立郡大宮町二七五九
河野弘
神奈川縣逗子櫻町山六三一
草間幹夫
浦和市岸町五ノ五〇
伊地知方
木村延秋
北足立郡高砂町三八三二
木澤喜作
北足立郡大宮町仲町五區二四四三
木場尙次
浦和市常盤町四ノ四五

北澤喜作
北足立郡大宮町仲町五區二四四三
北足立郡大宮町三八三一
黒澤忠治
北足立郡大宮町三八三一
澤信一
仙臺市北五十人町六四
秋保方（秩父郡秩父町本町）
藤好尙
佐野良治
北足立郡大宮町益裁村
藤増雄
南埼玉郡蓮田町二八七一
清志村正作
北足立郡大久保村七一三
清水基夫
福岡市鳥飼本町一ノ七
口芳郎
北足立郡大宮町五二八
里村千秋
東京市中野區宮園町五ノ二
志村正作
北足立郡大久保村七一三
塙味常吉（北足立郡朝霞町一一〇一）
修北足立郡與野町下落合

阪口芳郎
北足立郡大宮町五二八
東京市中野區宮園町五ノ二
山田方
北足立郡大久保村七一三
福岡市鳥飼本町一ノ七
北足立郡土舍村大字田島一一〇一
白井諭吉
(北足立郡土舍村大字田島一一〇一)
白石諭吉
(北足立郡土舍村大字田島一一〇一)
須賀眞吾
東京市岸橋區柏木二ノ二七一
川澄（北足立郡大宮町七八四）
助川澄（北足立郡大宮町七八四）
木方一
浦和市仲町二ノ二六
柳昭次
東京市品川區大井庚塚町四七〇一
園勝浦和市岸町七ノ二三
下幸雄
南埼玉郡平野村根金六三二
坂本韓治
北足立郡歲町一六〇
元覺順
北足立郡新倉村二九一六
友信雄
浦和市常盤町一ノ六七
尾良憲
北埼玉郡元和村大字下新井九五五
名古屋信雄
川口市壽町九九
中村清照
浦和市岸町四ノ六

河野重治
北足立郡大宮町二七五九
河野弘
神奈川縣逗子櫻町山六三一
草間幹夫
浦和市岸町五ノ五〇
伊地知方
木村延秋
北足立郡高砂町三八三二
木澤喜作
北足立郡大宮町仲町五區二四四三
木場尙次
浦和市常盤町四ノ四五

北澤喜作
北足立郡大宮町仲町五區二四四三
北足立郡大宮町三八三一
黒澤忠治
北足立郡大宮町三八三一
澤信一
仙臺市北五十人町六四
秋保方（秩父郡秩父町本町）
藤好尙
佐野良治
北足立郡大宮町益裁村
藤増雄
南埼玉郡蓮田町二八七一
清志村正作
北足立郡大久保村七一三
清水基夫
福岡市鳥飼本町一ノ七
口芳郎
北足立郡大宮町五二八
里村千秋
東京市中野區宮園町五ノ二
志村正作
北足立郡大久保村七一三
塙味常吉（北足立郡朝霞町一一〇一）
修北足立郡與野町下落合

阪口芳郎
北足立郡大宮町五二八
東京市中野區宮園町五ノ二
山田方
北足立郡大久保村七一三
福岡市鳥飼本町一ノ七
北足立郡土舍村大字田島一一〇一
白井諭吉
(北足立郡土舍村大字田島一一〇一)
白石諭吉
(北足立郡土舍村大字田島一一〇一)
須賀眞吾
東京市岸橋區柏木二ノ二七一
川澄（北足立郡大宮町七八四）
助川澄（北足立郡大宮町七八四）
木方一
浦和市仲町二ノ二六
柳昭次
東京市品川區大井庚塚町四七〇一
園勝浦和市岸町七ノ二三
下幸雄
南埼玉郡平野村根金六三二
坂本韓治
北足立郡歲町一六〇
元覺順
北足立郡新倉村二九一六
友信雄
浦和市常盤町一ノ六七
尾良憲
北埼玉郡元和村大字下新井九五五
名古屋信雄
川口市壽町九九
中村清照
浦和市岸町四ノ六

河野重治
北足立郡大宮町二七五九
河野弘
神奈川縣逗子櫻町山六三一
草間幹夫
浦和市岸町五ノ五〇
伊地知方
木村延秋
北足立郡高砂町三八三二
木澤喜作
北足立郡大宮町仲町五區二四四三
木場尙次
浦和市常盤町四ノ四五

北澤喜作
北足立郡大宮町仲町五區二四四三
北足立郡大宮町三八三一
黒澤忠治
北足立郡大宮町三八三一
澤信一
仙臺市北五十人町六四
秋保方（秩父郡秩父町本町）
藤好尙
佐野良治
北足立郡大宮町益裁村
藤増雄
南埼玉郡蓮田町二八七一
清志村正作
北足立郡大久保村七一三
清水基夫
福岡市鳥飼本町一ノ七
口芳郎
北足立郡大宮町五二八
里村千秋
東京市中野區宮園町五ノ二
志村正作
北足立郡大久保村七一三
塙味常吉（北足立郡朝霞町一一〇一）
修北足立郡與野町下落合

阪口芳郎
北足立郡大宮町五二八
東京市中野區宮園町五ノ二
山田方
北足立郡大久保村七一三
福岡市鳥飼本町一ノ七
北足立郡土舍村大字田島一一〇一
白井諭吉
(北足立郡土舍村大字田島一一〇一)
白石諭吉
(北足立郡土舍村大字田島一一〇一)
須賀眞吾
東京市岸橋區柏木二ノ二七一
川澄（北足立郡大宮町七八四）
助川澄（北足立郡大宮町七八四）
木方一
浦和市仲町二ノ二六
柳昭次
東京市品川區大井庚塚町四七〇一
園勝浦和市岸町七ノ二三
下幸雄
南埼玉郡平野村根金六三二
坂本韓治
北足立郡歲町一六〇
元覺順
北足立郡新倉村二九一六
友信雄
浦和市常盤町一ノ六七
尾良憲
北埼玉郡元和村大字下新井九五五
名古屋信雄
川口市壽町九九
中村清照
浦和市岸町四ノ六

片倉製絲紡績株式會社員
(姫路市北條町)
東洋精機株式會社員
入間郡農會技手
大宮工業學校教諭
淺野スレート株式會社門司支
會社員（門司市白木崎）
店員（門司市白木崎）
近海郵船株式會社臺灣航路吉
野丸三等運轉士（東京市麹町
區丸ノ内二ノ一六）

農
福岡縣立農事試驗場勤務
山田產婦人科病院勤務
農
農事試驗場研修
東大工卒
農事試驗場研修
東洋大倫卒
東洋大經卒
上智大新聞卒
阪大醫在學
日大高工卒

崎玉縣廳土木課土木技手兼道
路技手
自動車工業株式會社勤務
市瀧野川第二小學校訓導（東京
市瀧野川區）
村書記

計理士、川口市役所會計課勤務
専大計卒
僧侶
自動車工業株式會社勤務
崎師二部卒
門卒
東洋大、智山尊
新灰商
南埼玉郡柏壁高等女學校教諭
東農大卒
千葉醫大在學

鎮島田光彌春
島村裕一
白井三五郎
白井諭吉
白石諭吉
須賀眞吾
川澄（北足立郡大宮町七八四）
助川澄（北足立郡大宮町七八四）
木方一
浦和市仲町二ノ二六
柳昭次
東京市品川區大井庚塚町四七〇一
園勝浦和市岸町七ノ二三
下幸雄
南埼玉郡平野村根金六三二
坂本韓治
北足立郡歲町一六〇
元覺順
北足立郡新倉村二九一六
友信雄
浦和市常盤町一ノ六七
尾良憲
北埼玉郡元和村大字下新井九五五
名古屋信雄
川口市壽町九九
中村清照
浦和市岸町四ノ六

運送業
内務省都市計畫局都市計畫課
勤務
東大工卒

一〇五

第二十九回

永瀬政雄 北足立郡六辻村自曆四三七

永堺喜美藏 大連市山縣通一九五 海務協會内

長尾利一 北足立郡六辻村別所一九八四

並木 隆合事務所内 中華民國上海紹興路八一二號 上海購買組

野崎正雄 東京市小石川區小日向臺町三ノ八三

野村春雄 浦和市四一五 北足立郡尾間木村大字中尾一八八

長谷川 菲北足立郡尾間木村大字中尾一八八

濱野元介 北足立郡大宮町益袋村 藤樹園

林泰助 北足立郡日進村大字大成三四二

東角井光臣 北足立郡大宮町大字鼻一

福留實 兵庫縣武庫郡大庄村西端字南川六二八

星野賢一 比企郡松山町材木町二ノ四一九三

細淵卓造 北足立郡蕨町四三六四

眞木昇 北足立郡六辻村沼影二九六

増田一男 北足立郡大宮町大字吉鋪町三八九九

町田一 北足立郡大宮町四〇五四

三浦亮 東京市王子區王子町一〇六七

三上重恭 北足立郡安行村一〇五二

北足立郡六辻村自曆四三七

北足立郡大宮町大字吉鋪町三八九九

北足立郡六辻村沼影二九六

北足立郡大宮町大字吉鋪町三八九九

笛目小學校訓導(北足立郡) 東商船卒

船員(大連汽船株式會社籍)

理化學研究所勤務

上海購買組合事務員

陸軍醫科士官學校教官

日大專工卒

北足立郡芝小學校訓導

第一臨教卒

農

盆栽業、支那鉢業

東京鐵道局大宮工場倉庫課勤

水川神社主典

大阪府技手、堺市築港所勤務

松山中學校教諭

齒科醫

日本鋼管株式會社技術部調查

掛勤務(川崎市)

武州銀行大宮支店員

醫師、東京慈惠會醫院勤務

園藝業

第七高等學校造士館教授

東大理卒

東大法卒

東大農在學

東大法卒

東大農卒

東大醫卒

東大齒科卒

赤羽町

川口第四小學校訓導

鶴見瓦斯株式會社員

常磐小學校訓導(東京市日本橋區)

製糖工場勤務(台中洲北斗郡)

二林庄源成農場

東京鐵道局田端驛勤務

拓大卒

病院勤務

東醫專卒

齒科醫

味噌醸造業

京大農在學

大正大專卒

日大法文卒

日大醫卒

日大齒科卒

日大醫卒

陸軍三等軍醫、滿洲國濱江省

陸軍步兵中尉、千葉縣習志野

陸軍戰車學校教導隊附

四年修了會員

第二九回

一〇七

大庭弘

浦和市仲町

外務屬

第一生命保險株式會社勤務

東大法卒

大正大專卒

日大醫卒

日大齒科卒

第三〇回

一〇八

濱田治雄 川口市横曾根町三三五九

林村勢一郎 清北足立郡三橋村大字並木一九四一

矢部俊夫 札幌市北五條西一四丁目 三上敬造方

矢島忠實 川口市榮町三ノ一七一

不動貞木村史郎

死亡會員岩井武夫 小林敏雄 五島良徹 島田重藏

松村巖 矢部酉三 山崎誠之 橫尾治雄

死亡會員岩井武夫 小林敏雄 五島良徹 島田重藏

松村巖 矢部酉三 山崎誠之 橫尾治雄

死亡會員岩井武夫 小林敏雄 五島良徹 島田重藏

松村巖 矢部酉三 山崎誠之 橫尾治雄

米穀商 松本高等學校教授
北海道帝國大學植物學教室副
手
東大理卒
北大農卒
日大醫卒
醫師

米穀商

松本高等學校教授

北海道帝國大學植物學教室副

北大農卒

日大醫卒

醫師

更生小學校訓導(東京市向島區)

培師二部卒

法大佐、サンマテオ、シニア、コントラサウザ

鐵道省經理局勤務

齒科醫

農業

橫濱稅監鑑查部勤務

齒科醫

商工省燃料局勤務

農業

橫濱稅監鑑查部勤務

齒科醫

大日本製糖株式會社大林庄大

所勤務(臺南州嘉義大林庄大

湖)

齒科醫

北足立郡指扇小學校訓導

陸軍技手、奉天長尾部隊

日大齒科卒

第一生命保險相互會社財務課

橫濱稅關鑑查部勤務

第三船隊第二十三驅逐隊乘組

海軍中尉

會社員

勤務

美劑師

日大齒科卒

橫濱高工卒

早大理工卒

早大文卒

東大齒科卒

高千穗高商卒

日大專卒

日大齒科卒

日大齒科卒

日大齒科卒

日大齒科卒

日大齒科卒

日大齒科卒

日大齒科卒

會澤富雄 川口市横曾根町三三五九

石井一郎 松本市幸町九九〇

新井武夫 北足立郡大石村大字小泉

新井武雄 東京市荒川區三河島町四ノ三三三八

伊藤謙三 北足立郡與野町七一

飯塚修 横濱市中區伊勢町一ノ二 大勢館内

池上俊郎 北足立郡大宮町三七八二

北足立郡日進村大字櫛引二二八

池田仲太郎 浦和市岸町七ノ六

石井一臣 北足立郡大宮町三〇八九

石井幸 C浦和市本太二四〇四

石川夏吉 川口市壽町九七

石川安造 幸天市商埠地 陸軍官舍五二ノ八

石塚寛 東京市板橋區中村町三ノ五六七

池田俊夫 池田仲太郎 浦和市岸町七ノ六

石井一臣 北足立郡大宮町三〇八九

石井幸 C浦和市本太二四〇四

石川夏吉 川口市壽町九七

石川安造 幸天市商埠地 陸軍官舍五二ノ八

石塚寛 東京市板橋區中村町三ノ五六七

池田仲太郎 浦和市岸町七ノ六

石井幸 C浦和市本太二四〇四

石井守之(浦和市仲町四ノ一五)

石川城 東京市淀橋區淀橋町三三四

稻村香一郎 東京市豊島區池袋町二ノ一一七七

今井守之(浦和市仲町四ノ一五)

入江敏雄 浦和市高砂町四ノ五八

内木精一 北足立郡土合村大字西堀一五〇一

海野幸夫 千葉縣五井町 星野保方(浦和市本太七九九)

遠藤丈四郎 長野縣北安曇郡陸鄉村六五六

小川勇司 北足立郡大宮町土木宿三七九

小澤誠一 北足立郡桶川町八二一

小尾上一男 浦和市常盤町四ノ八一

大隅眞一 北足立郡桶川町本町一四二六

自轉車業

一〇九

第三〇回

一一一

高水由太郎 東京市杉並區方南町七九
高山敏一 北足立郡小室村七九四三
鷹木信雄 浦和市一四一八

武井與一郎 北足立郡與野町大字大戶一二

塙田恒治 北足立郡大宮町三六〇七

土屋重祥 北足立郡芝村四四

鳥海濟 北埼玉郡元和村大字北下新井九五五

中西和宜 吳市西本通七之四 山下方

中村正節 三原市西宮町

野澤統司 (浦和市仲町三ノ五九)

野原原律 北足立郡日進村大字大成三二二五

野間寛一 北足立郡大宮町大字大宮三五九五

羽部與一 浦和市高砂町二ノ一七一

原口金五 浦和市高砂町五ノ一四九

原田太一郎 北足立郡三橋村一〇四七

坂東順 北足立郡片柳村一二六六

林義雄 北足立郡三橋村大字並木一九九八

平田福壽 東京市下谷區山伏町五一 篠田方

平野壽 浦和市仲町一ノ六三 鈴木方

福島靜雄 浦和市四〇七七

藤森千代丸 東京市小石川區大塚坂下町一八五

星野輝吉 東京市東區龜戸町三ノ一二五 山本方

前島好文 北足立郡桶川町六四一

増田三男 北足立郡尾間木村中尾二〇六

三友次郎 児玉郡本庄町三九九五

見富宗平 北足立郡片柳村南中丸

宮崎英夫 浦和市高砂町一ノ四七 渡邊方

松本好敏 浦和市常盤町一四八 渡邊方

宮本好敏 浦和市常盤町一四八 渡邊方

山村田一郎 浦和市二二一九

矢部文雄 南埼玉郡日勝村六三九

第四校田小學校訓導 (東京市
荒川區) 埼師二部卒
女子師範學校附屬小學校訓導 埼師二部卒
埼玉縣廳土木課勤務 日大工卒

農 濃

明大卒

色染業

浦高理卒

吳海軍工廠砲彈部勤務

米高工卒

帝國人絹株式會社三原工場員

東商大卒

花咲小學校訓導 (横濱市中區)

花咲町 埼師二部卒

醫師 東京警察病院内科勤務

昭和醫專卒

新發田歩兵第十六聯隊第三中隊附陸軍步兵中尉

陸士卒

酒造業

埼玉縣經濟部勤務

菓子商

農

北足立郡大宮西小學校訓導

埼師二部卒

陸軍軍醫學校勤務

建築業

日大専科卒

醫師

埼玉縣廳勤務

東洋海上火災保險株式會社勤務

日大文修

警視廳巡查、牛込區早稻田署

昭和銀行川口支店勤務

大倉高商卒

東京市江戸川區小松川小學校

豐師二部卒

訓導

日大在學

監督燃料商

大倉高商卒

接骨業

熊谷飛行學校經理部勤務

高千穗高商卒

第一生命保險相互株式會社勤務

東大法卒

東京瓦斯會社員

醫師

慈惠醫大卒

第三十一回

六

石井 達 川口市上青木町一五八四
石井 敏夫 北足立郡六道村白幡 金子貞吉方
石井 利幸 浦和市本太三七一

北足立郡旭ヶ谷小學校訓道
藥劑師、藥局開業

增補二部錄

石田秀文 京都市東山區東風町二四 智山專修
察内
石村直助 北足立郡蕨町九三五

京都市立四條商業學校教員
機業

東大文卒、京大
學院在學
桐生高工修
日大專工卒

宇田 敏夫	上原 裕	京都市左京區淨土寺町
植西賢一郎	北葛飾郡栗橋町三四二	
内田 一耶	入間郡所澤町五七三	
遠藤 周雄	甲府市伊勢町七六甲府	
小川 泰一	横濱市中區西戸部町	
小熊 正吉	北足立郡大宮町三六八	
滝見 慎雄	浦和市大字針ヶ谷二五	
大作 茂	浦和市常盤町四ノ二〇	
大谷 保治	北足立郡大宮町大字下	
大田 垣弘	浦和市四六七七	
大成 明	北足立郡三橋村九七四	

(桐生市清水町五三六) 輸出絹織物岩崎精練工場勤務
酒類商 歯科醫 久喜高等女學校教諭
三菱重工業株式會社勤務 鐵道省大臣官房研究所勤務
鐵道職員

京大工在學

農業兼算策製造業	南洋軍技術研究會所會計課動植物 標本大廠鐵道株式會社總經理
東京電氣株式會社員	南洋漁業會社勤務
扶桑海上火災保險株式會社	南洋漁業會社勤務
務部勤務	(釋太惠須取町)
海軍中尉、軍艦三隈乘組	
會社員	
橫濱第三中學校、橫濱市立 修商業學校教諭	
青森縣廳經濟部勤務	
武州銀行本店勤務	
西貢丸乗組(大阪商船株 式會社)	
東京鐵道局大宮機關區勤務	
東京商業學校、大宮高等 校講師	
東京日々新聞校正係	
體師(福岡縣浪倉郡寶珠 款設所勤務)	

東北大法文卒	早大商卒	明大法在學
早高工卒	東大法在學	
早大商卒	大倉高商卒	
東海卒	東商大專卒	
東商大專卒	東大法卒	
東物理卒	高松高商卒	
明大法卒	東商船卒	
東商船卒		
帝國美術卒		
東醫專卒		

第三回

一六八

澤野久雄 東京市淀橋區戸塚町一ノ四至 曙アパート内

やまと新聞學部記者

早大文卒

鶴谷周太郎 北足立郡大宮町三八七七

鐵道從業員

第一早高修

島根光正 東京市深川區門前仲町一ノ六 橋本方

石川島造船所勤務

長薪水產株式會社千代田工場

東農大卒

白石仁 北足立郡土合村大字田島一一〇

浦和第一小學校訓導

埼師專卒

諭訪忠三郎 東京市中野區野方町一ノ六三四

農林省畜產局勤務

日大專法卒

杉木榮士 東京市王子區上十條一〇六一

日本鋼管株式會社設計課勤務

日大工卒

田中庄一郎 浦和市高砂町一ノ一〇〇

森永製菓株式會社員(東京市芝區田町)

明大專商卒

田村進 北足立郡大宮町櫻木町七七六

J O A K 技術合格者會北部委員N.R.A會員

日大工卒

高井正雄 東京市淀橋區角筈町三ノ二一

東京電燈株式會社川越支社浦和出張所勤務

電機學校卒

高橋庄次郎 北足立郡蕨町旭町四九七四

紐育コンソルタム海上火災保険株式會社勤務

東歐醫修

高橋敏男 浦和市岸町六ノ一一八

川口市公益質屋勤務

東京地方遞信局勤務

竹村亥代三 北足立郡大宮町仲町二八八五

東京藥劑師、東京醫學專門學校藥理學教室助手

東藥專卒

武井正山口縣玖珂郡麻里布町好村方

帝國國立病院助手

國工

谷口次郎 東京市木鄉區丸山福山町五

横濱高工卒

東大工在學

竹村喜平 川口市本町三ノ一四

東京地方遞信局勤務

東藥專卒

並木庄兵衛 北足立郡大和田町大字野火止三五

花井園藝業

府立園專卒

中井川正 社宅 横濱市中區本牧町八聖殿下

三井物產株式會社

東商大專卒

中村一雄 神戶市灘區赤坂通七ノ四七

三井物產株式會社橫濱支店勤務

長岡高工卒

名古屋邦房 川口市壽町九九

神戶製鋼所勤務

橫濱高工修

内藤甲一 横濱市中區本牧町八聖殿下

花卉園藝業

物理在學

中井千明 北足立郡六辻村大字別所二〇五四

帝國生命保險株式會社員

早大商卒

根岸正三 淵和市高砂町一ノ六一

帝國徵兵保險相互會社外事課

早大商卒

波多野伴 北足立郡大宮町一二四八

富士大專卒

早大專商卒

馬場俊平 浦和市常盤町四ノ四四

佐藤千明

長岡高工卒

龍島武夫 满洲國興安東省札蘭屯四道街

佐藤千明

東大農實卒

肥留間好 北足立郡三室村大字道祖土五四二

佐藤千明

早大專商卒

平川博朗 (Edo. Francesco Cane, U.S.A.)

佐藤千明

九大工在學

細谷裕之助 (Edo. Y. M.C. A. 1409 Sutter St., San Francisco, Calif., U.S.A.)

米穀商

ニアル・コウジ・サトウ

細谷裕之助 (Edo. Y. M.C. A. 1409 Sutter St., San Francisco, Calif., U.S.A.)

米穀商

ニアル・コウジ・サトウ

細谷裕之助 (Edo. Y. M.C. A. 1409 Sutter St., San Francisco, Calif., U.S.A.)

米穀商

ニアル・コウジ・サトウ

細谷裕之助 (Edo. Y. M.C. A. 1409 Sutter St., San Francisco, Calif., U.S.A.)

米穀商

ニアル・コウジ・サトウ

細谷裕之助 (Edo. Y. M.C. A. 1409 Sutter St., San Francisco, Calif., U.S.A.)

米穀商

ニアル・コウジ・サトウ

細谷裕之助 (Edo. Y. M.C. A. 1409 Sutter St., San Francisco, Calif., U.S.A.)

米穀商

ニアル・コウジ・サトウ

細谷裕之助 (Edo. Y. M.C. A. 1409 Sutter St., San Francisco, Calif., U.S.A.)

米穀商

ニアル・コウジ・サトウ

第三回

110

堀口正吉 浦和市高砂町二三五八

吳服商

明大專商卒

町田政男 北足立郡六社村別所一八三六

農

松尾博厚 (浦和市當盛町七ノ五九)

法大經卒

松澤明 北足立郡片柳村六九五

東北大工在學

松村常吉 浦和市仲町三ノ八五

海軍經理卒

松坂英彦 (私父郡秋父町大字大宮一六八九)

東北大醫在學

三隅文吾 宇部市岬町

潔軍主計中尉、第五驅逐隊附

見留正三 北足立郡大宮町土手宿九

宇部鐵工所社員

綠川瑞樹 浦和市鹿島疊二〇一七

東京府齒科醫師會健康保險部

武藤泉一 浦和市仲町五ノ八一

勤務

山村井竹雄 浦和市岸町一ノ一〇五

埼玉縣技手、農務課勤務

山村木一 夫 東京市豊島區池袋町二ノ一一一五

東大農實卒

茂木望月 正名 川崎市南幸町三ノ一三六〇

橫濱專卒

守谷勝治 北足立郡大宮町大字大宮三八〇四

東京動產火災保險會社員

森田義治 北足立郡大宮町八九五

東京高等齒科醫學校副手

森永俊夫 浦和市高砂町一ノ四五

武州銀行京橋支店勤務

矢島三千男 矢島義 北足立郡日進村大字大成一六三三

天神運輸商事合資會社員

柳田實 寶 德島縣那賀郡富岡町東神町 鈴鹿方

東京電氣株式會社勤務

柳田藤吉 浦和市本太二五〇九

田中忠雄 大阪府守河内郡八尾町山本 住友自勝寮内

渡邊竹二 北足立郡朝霞町大字岡六四五

田中航空機器製作所勤務

青羽英五 大阪市住吉區阪南町西二ノ三一 二葉莊内

新嘉坡總務處(東京市板橋區

山田彦三郎 北足立郡大宮町三七九七

帝國農會勤務 (東京市赤坂區

北足立郡朝霞町大字岡六四五

澠池三會堂內)

四佐藤了曾
田中忠雄 大阪府守河内郡八尾町山本 住友自勝寮内

西川武吉郎 北足立郡志木町一五九六

那賀川改修事務所勤務

瀧澤一雄 川口市本町二ノ七八

齒科醫

堺野海野幸正 小峰正一 清水正一 鹽野正男 篠原正 白井政之助 千葉正

燐造業

遠見博司 (留和六年三月) 一三八名

第三二回

一一一

阿部正一 浦和市常盤町七ノ二一
青木圭太郎 京都市左京區聖護院東町二 鈴岡方

赤嶺泰士 浦和市常盤町六ノ二五
秋松正一 北足立郡與野町四三四

新井勉 仙臺市北七番丁八五 阿部方
横須賀市田浦町深浦四二〇五 石渡若吉方

新居忠男 (浦和市三三二四) 入間郡飯能町二二
井上真治 伊藤喜久雄 東京市王子區赤羽町二ノ五〇四

飯島俊雄 東京市四谷區東信濃町一
石井童嘉 浦和市本太一三八三

石岡晃 (浦和市本太二四〇) 東京市市原區東信濃町一
石川正二 清洲國哈爾賓市馬家溝永和街

石川俊元 川口市壽町一三四
石村健輔 (北足立郡歲町九三九)

板垣正明 浦和市常盤町五ノ六
市川喜一 浦和市岸町四ノ一七七

市川定彦 (北足立郡上平村一四二)
北足立郡大宮町七七六

出井旭 浦和市岸町五ノ五二
稻田耕作

市内 岩井 大内 (新義州府常盤町三ノ一)
北足立郡大宮町七區

内田正二 東京市深川區越中島町 東京高等商船學校内
技松敏邦 京都市左京區吉田本町四 坂東方

遠藤德世 浦和市常盤町六ノ二〇
大熊正三郎 東京市向島區寺島町七ノ一九九 清岡方

大島英夫 仙臺市袋町二二 加藤方
大谷英仁 北足立郡大宮町一二二四

大塚後夫 (仙臺市米ヶ袋十二番丁一二) 木戸寮内
(東京市芝區三田小山町一)

大野三郎 北足立郡大砂土村土呂六七
大畑平八郎 北足立郡與野町一ノ二四一

大畠知已 (浦和市一六四五)
押田平八郎 北足立郡與野町一ノ二四一

大谷合 健神戶市難波區御後町三丁目 日吉處アパート内
(鹿兒島縣熊毛郡種子島西之表町西町)

大塚武知 (折本兼完) 增田方 鹿兒島縣鶴土助手

大塚武知 (折原量平) 北足立郡大宮町四〇一三ノ一
恩賜久雄 川口市本町一ノ一四一

大畠知已 (浦和市一六四五)
大畠知已 (農林省勤務)

大畠知已 (浦和市一六四五)
大畠知已 (農林省勤務)

大畠知已 (浦和市一六四五)
大畠知已 (農林省勤務)

大畠知已 (浦和市一六四五)
大畠知已 (農林省勤務)

第三二回

一一二

簡易保險局勤務 (東京市芝區
赤羽町) 東北大醫在學

立大豫修
東京遞信局書記補
浦高理卒

東北大醫在學
木部都市計畫課勤務
神奈川縣技手、神奈川縣廳土
木部都市計畫課勤務

日大工卒
大原簿記卒
清酒醸造業

東京鐵道局上野驛勤務
埼玉縣總務部會計課勤務
廣島縣比婆郡山內東村格致中

明大政經卒
東大醫在學
東京鐵道局上野驛勤務
埼玉縣總務部會計課勤務
廣島縣比婆郡山內東村格致中

早大專商卒
東高師卒
滿鐵從業員

東京鐵道局大宮驛勤務
獨立山砲兵第一聯隊第五中隊
附 東京鐵道局御徒町驛勤務

陸士卒
早大專政經卒
東大法卒

神山晃一 横濱市保土ヶ谷區星川町六二八 川瀬方

壽百貨店員

東北大法文在學

神田惠吉 (浦和市三六九〇)

竹材商

北島重治 東京市淺草區向柳原町一ノ五

特殊電氣製作所勤務

日大專工卒

久米信雄 濱和市常盤町一ノ一〇九

埼玉染織株式會社勤務

東高工藝卒

熊木昂

昭和米肥株式會社勤務

昭和大專卒

栗原隆治 南埼玉郡河合村大字馬込一八一

縣山武鄉櫻芝驛前) 千葉

黒住一夫 川崎市南幸町二ノ一四六四

大正海上火災保險株式會社勤務

早大專政經卒

小林啓一郎 神戶市灘區宮山町二ノ四一 江口方

帝國興信所編算部勤務

東商大專卒

籠宮慎次 北足立郡大宮町七〇九

富岡中學校教諭

日大專卒

佐久間吉夫 群馬縣北甘樂郡富岡町七市 西川方

浦和市仲町二丁目

東大文卒

齊藤龍明 喜浦和市仲町二丁目

浦高文卒

健北足立郡大宮町一ノ七九一 川田方

立敎學院基督教傳道師

立大宗卒

北足立郡大宮町高島二〇ノ一

業部東京出張所勤務

慶大經在學

齊藤初衛 北足立郡大宮町六二九

東商大專卒

坂里見 正東京市芝區二本楓木町二二 大村方

旅館業

慶大工在學

齊藤龍明 北足立郡與野町下落合一六五〇

業部東京出張所勤務

慶大經在學

多岐後雄 浦和市岸町一ノ六〇

通信省電務局規畫課勤務

慶大文在學

白坂嘉浦和市常盤町一四七〇

立敎學院基督教傳道師

慶大文在學

杉浦章 北足立郡鳩ヶ谷町大字鳩ヶ谷一八四六

大日本セルロイド株式會社營業部

慶大文在學

杉本正雄 浦和市常盤町四ノ九一

弘電金勤務

法大高商卒

關根健次 北足立郡志木町一五八八

大北火災保險株式會社勤務

慶大高商卒

千田恒二郎 大分市米屋町 長崎屋方

大分中學校教諭

東高師卒

田島良平 (東京市牛込區砂土原町三ノ二一埼玉學生誘掖

共司漁業株式會社漆丸乘組

慶大高商卒

高島貞 (東京市千代田区北澤町三ノ九九〇)

(戸畠市沙井端)

水產譜卒

高田誠 浦和市常盤町一ノ八〇

洋畫家

二科哲學在學

高橋時夫 北足立郡野田村二一八六

大審院民事部雇

申大法卒

高上文男 横濱市保土ヶ谷星川町六五〇 内田

理髮業

慶大文在學

高村寅吉 横濱市保土ヶ谷星川町六五〇

三菱重工業株式會社造船所勤務

早大商卒

高橋時夫 北足立郡大宮町仲町二八八八

専賣局收納部第二技術課勤務

日本齒科在學

高橋時夫 横濱市保土ヶ谷星川町六五〇

鐵道從業員

東農大卒

高橋時夫 横濱市保土ヶ谷星川町六五〇

櫻謹製株式會社勤務

法大專法卒

高橋時夫 東京市中野區新井樂師町二九二

酒悅商店員

法大高商卒

常見正富 東京市中野區元黒門町五 堀江方

埼玉縣學務部社會課勤務

法大專法卒

第三三回

一三〇

家里正治 北足立郡原市町瓦葺三七四

川口市役所吏員

國大文在學

池田善次郎 浦和市岸町七ノ六
石井秀治 浦和市本太二三九六
北足立郡六込村文藏六六

農

弘高文卒

石井正利 佐世保市金比良町
内北足立郡神根村木曾呂二三九
市内舍内市常盤町七ノ六三

東京府土木部第三道路出張所

米高工卒

石川喜夫 三原市帝國人造絹糸株式會社三原工場寄宿
市内浦和市常盤町七ノ六三

鐵道職員(東京鐵道局田端驛)

東美術在學

石鍋米壽 北足立郡日進村大字大成七七
今宿滋一郎 浦和市一〇八三

勤務海軍少尉

日本大工卒

石井榮一 川口市大字前川六〇
岩崎敏一 北足立郡原市町原市二三四三

軍艦川内乘組

日大工卒

岩崎寛一 北足立郡與野町七〇七
岩田謙三 浦和市仲町四ノ八二

海兵卒

慶大法在學

宇佐美節 浦和市常盤町四ノ七〇
植木秀太 (浦和市常盤町六ノ三五)

早大法在學

日本醫大在學

梅澤昇 (浦和市仲町二ノ六八)
白井啓 東京市杉並區高圓寺町一〇四四六 奥津方

商

慶大法在學

小川正二 北足立郡大宮町大門町四〇五三
大島治雄 (浦和市常盤町六ノ三五)

貴金屬時計商

桐生高工在學

小川照次 東京市瀧野川區中里町四六一
大島治雄 (浦和市常盤町六ノ三五)

金山府廳稅務課勤務

早大專商卒

大谷義夫 北足立郡宮原村加茂宮
大島呈吉 (浦和市常盤町六ノ三五)

不二建物株式會社勘務

東工專在學

大谷隆武 朝鮮江原道春川邑花園町
大島呈吉 (浦和市常盤町六ノ三五)

東京鐵道局上野驛從業員

日本醫大在學

大谷千雄 東京市牛込區東五軒町一九 中田方
大谷千雄 (北足立郡六込村自舎五二)

早大法在學

桐生高工在學

奥田安喜蔵 北足立郡蕨町蕨四六六八
奥田重藏 (北足立郡蕨町蕨四六六八)

農

早大商在學

笠井時治 北足立郡蕨町三九八二
笠井時治 (北足立郡蕨町三九八二)

東京鐵道局上野驛從業員

早大商在學

金森正三 浦和市常盤町二ノ九二
金子堅太郎 (北足立郡與野町四五〇ノ二)

埼玉縣總務部會計課勤務

埼玉大專卒

金子三郎 満洲派遣北安鐵十川部隊渡邊隊內
神尾勝正 浦和市本太四五七

北足立郡大宮北小學校訓導

東京鐵道局御徒町驛勤務

川口依武 (浦和市岸町五ノ四四)
川田一男 (北足立郡與野町上落合七七二)

農

東大醫在學

片岡文三 北足立郡原市町原市一〇六〇
金子三郎 (浦和市常盤町二ノ九二)

鐵物業

豐師專卒

第三三回

一三一

川村正信
浦和市仲町一〇五
(仙臺市伊勢屋横町八
山^谷方
(東京市芝区高輪南町三〇)

第三三回

一三四

關根保雄 浦和市高砂町一九四
田原幹一郎 東京市王子區上十條町一一四五
高橋彌一郎 北足立郡與野町一〇六九
高橋尉光 北足立郡大谷村中新井三四

高橋收作 北足立郡野田村大字大崎二四五一

高山政勝 新京老松町七 吉川商店支店內

竹ノ谷光一郎 川口市本町一ノ九二

築根進 北足立郡大谷村三二八九

土屋常次郎 北足立郡美谷本村三二五六

常木利次 滋賀縣愛知郡愛知川町 久角方

寺内重次 浦和市常盤町五ノ一三

寺田光壽 北足立郡大宮町高鼻一三〇四

富田照山 久 (北足立郡大宮町櫻木町五五八)

鳥海正三 川口市元郷町一九二〇

鳥尾良章 浦和市二〇一七

中島壽雄 仙臺市東三番町 道交會自治寮内 (東京市王

子區稻付西町二ノ一二)

中村岩雄 浦和市三九七二ノ二

新島通弘 千葉市登戸五ノ一四四

東市鐵道局大宮工場機關庫員

富國兵保險相互會社員

大倉高商卒

/

東京鐵道局田端驛勤務

深川郵便局通信事務員 (東京

市深川區)

農、花卉栽培業

/

同店員

/

早大商在學

/

日大醫在學

/

日大專卒

/

滿洲醫大在學

/

東大經在學

/

早大專商卒

/

慈惠醫大在學

/

昭和醫專在學

/

東大醫在學

/

東大經在學

/

東高工卒

/

早大高商卒

/

京大農在學

/

日大專卒

/

日大專商卒

/

昭和醫專卒

/

東大醫在學

/

東大經在學

/

關根保雄

浦和市高砂町一九四

東京市王子區上十條町一一四五

北足立郡與野町一〇六九

北足立郡大谷村中新井三四

北足立郡野田村大字大崎二四五一

新京老松町七 吉川商店支店內

竹ノ谷光一郎 川口市本町一ノ九二

北足立郡大谷村三二八九

北足立郡美谷本村三二五六

北足立郡知美谷本村三二五六

北足立郡大宮町櫻木町五五八

北足立郡大宮町高鼻一三〇四

北足立郡大宮町櫻木町五五八

北足立郡大宮町高鼻一三〇四

北足立郡大宮町櫻木町五五八

北足立郡大宮町高鼻一三〇四

第三三回

一三六

前川

浩 北足立郡鳩ヶ谷町一七五九

東大醫在學

町田

正信 北足立郡六辻村大字別所

慶太在學

松岡

光男 浦和市前地三四八

明大法在學

松澤

正次 浦和市高砂町三八八五

東大法在學

松田

倉光 (浦和市常盤町五ノ一〇八)

京大法在學

松永

忠直 (浦和市仲町三ノ八五)

桐生高工卒

松本

正信 (浦和市仲町三ノ八五)

東鐵

教卒

松本

義助 (浦和市仲町三ノ八五)

昭和

ア工業會社員

三浦

太郎 (南埼玉郡平野村一一四)

東京鐵道局

田端驛勤務

笠田

孚 (南埼玉郡平野村一一四)

東京齒科

卒

宮下

一男 (馬來半島ジヨホール州シンガポール・ヒーチ
ロード十九号ソントリーディナーツ三五公司)

會社員

柳澤

清一 (北足立郡鳩ヶ谷町一六七三)

東京鐵道局

川口驛勤務

宮野

三郎 (浦和市高砂町四〇五三)

東京鐵道局

川口驛勤務

柳田

昌彦 (宮野三郎)

農林業

農業

柳本

守 (川口市青木町三ノ二四七五)

農業

農業

吉岡

英男 (浦和市岸町一ノ四八)

農業

農業

吉川

孝男 (入間郡吾村北川九四三)

農業

農業

吉田

喜八郎 (川口市壽町七三)

農業

農業

鶴崎

雄四郎 (大阪市北區小松原町四九)

農業

農業

鶴崎

雄四郎 (阪急アベート内)

農業

農業

鶴崎

雄四郎 (東京府北多摩郡武藏野町西鎌二九六)

農業

農業

鶴崎

雄四郎 (浦和市仲町一八七〇)

農業

農業

鶴澤

義輝 (仙臺市北八番町八三)

農業

農業

鳥田

淑雄 (佐藤方)

農業

農業

永井

靖 (落合方)

農業

農業

宮崎

一輔 (東京市杉並區阿佐ヶ谷五ノ三八)

農業

農業

鶴澤

義輝 (浦和市仲町二ノ七八)

農業

農業

不動

中島 康二 義智 誠

鐵道從業員

第三回

一四〇

岡田謙 東京市中野區氷川町三

萩島傳一郎 川口市横曾根町八七七

加藤克己 沖和市仲町二ノ一四〇ノ一

加藤武夫 北足立郡鳩ヶ谷町前田四八二

加藤達男 北足立郡中丸村大字北中丸八六

鹿取豊彦 北足立郡六庄村白幡番場二五

柳山健 北足立郡六庄村大字白幡一二

片野正一郎 浦和市高砂町五ノ四四

金森敏 浦和市岸町七ノ四五

金子勝敏 雄 川田早苗

河邊源之助 河野嘉三

木下明 水原元孝

岸川正文

小暮達次郎

小池久武

小泉勝彦

小林健志

小沼文彦

小林一雄

木場宗次郎

古要恒三郎

兒島光雄

越場武士

齊藤清次郎

茂見義高

第三回

日本齒科附屬病院勤務

一四一

東大經在學
國大文在學

岩淵高等小學校訓導（東京市
王子區）

大日本電力株式會社工務部勤
務（東京電燈株式會社大宮變電所
勤務）

埼玉縣廳學務課雇用

大日本電力株式會社工務部勤
務（東京電燈株式會社大宮變電所
勤務）

埼玉縣廳學務課雇用

大日本電力株式會社工務部勤
務（東京電燈株式會社大宮變電所
勤務）

浦和第五小學校訓導

岩城硝子製造所研究部化學室
化學工助手

浦和水路部第四課勤務

千葉縣農林技手

東大經在學
國大文在學

岩淵高等小學校訓導（東京市
王子區）

大日本電力株式會社工務部勤
務（東京電燈株式會社大宮變電所
勤務）

埼玉縣廳學務課雇用

大日本電力株式會社工務部勤
務（東京電燈株式會社大宮變電所
勤務）

浦和第五小學校訓導

岩城硝子製造所研究部化學室
化學工助手

浦和水路部第四課勤務

千葉縣農林技手

第三回

一四二

清水正三 北足立郡宮原村吉野原一二四一

東京市淺草區日本堤小學校教員

清水武嘉 東京市深川區三好町三ノ一 宇野方

東京市深川區役所勤務

白田信忠 浦和市高砂町三五四〇

北足立郡大門小學校訓導

須藤高文 東京市王子區稻付町西町六ノ三三

培師二部卒

鈴木辰男 浦和市岸町三ノ四五

東京齒科在學

鈴木千代吉 浦和市常盤町一一五

埼師二部卒

關口正久 前橋市向町八三

東大醫在學

關口吉孝 (浦和市仲町五ノ一九一)

前橋鐵絲工場榮養食共同配給

相馬幹郎 浦和市高砂町四ノ五一

組合榮養改善指導員

染谷喜與司 浦和市高砂町一ノ八三

榮養學校卒

田村昌次 茨城縣筑波郡北條町三九

東商船在學

高橋勝 川口市下青木町一ノ四一〇二

日大專工卒

高橋典秀 浦和市常盤町一ノ八〇

日本無線電信電話株式會社勤務

高橋重治 入間郡古谷村古谷上

東大專工卒

高橋一 北足立郡內間水村宮戸七八八

東商船在學

高橋一 北足立郡下尾町三四一

日大專工卒

竹内榮一 東京市芝區西久保八幡町二六 水谷方

東大專工卒

竹内榮一 北足立郡下尾町三四一

東大專工卒

竹内榮一 東京市王子區下十條町二一七一

東大專工卒

高橋重治 東京府並木町二一〇 菅根崎方

東大專工卒

高橋重治 東京市王子區赤羽町四ノ二〇七一

東大專工卒

高橋重治 七六) 桐生高工寄宿寮内(北足立郡六辻村白幡番場

東大專工卒

高橋重治 北足立郡蕨町四五一五

東大專工卒

高橋重治 神戶市林田區房王寺町一ノ五六

東大專工卒

高橋重治 北足立郡六辻村大字文藏一八九二

東大專工卒

高橋重治 北足立郡六辻村大字文藏一八九二

東大專工卒

高橋重治 北足立郡六辻村三ノ三三

東大專工卒

高橋重治 北足立郡土合村大字南元宿一九九

東大專工卒

高橋重治 東京市蒲田區北糀谷町二二七三 飯田方

東大專工卒

高橋重治 東京市品川區西品川町三ノ八八二

東大專工卒

高橋重治 浦和市常盤町五ノ一〇五

東大專工卒

第三回

一四四

西野 次郎 東京市淺谷區代々木西原町九六七

東京市石川島造船所勤務

日大高工卒

野崎 幸久 浦和市本太七九二

東大醫在學

萩原敏秀 浦和市岸町三ノ六四

千葉醫大在學

蓮橋村秋雄 浦和市岸町四ノ一〇九

明治學院商在學

原漁見典雄 浦和市本太二四二三

慶大醫在學

原田隆資 浦和市高砂町四ノ六二

浦高理卒

原田政治 博北足立郡上尾町一九七

北足立郡與野町七七八

早大政經在學

半平井忠雄 東京市王子區王子町一〇六二

埼師二部卒

平野勝義 北足立郡加納村大字小針領家一八三五

陸士在學

福島尚道 北足立郡大宮町二八六八

慶大醫在學

古澤弘 北足立郡大宮町四ノ一九三

早大理在學

福島俊次 浦和市岸町七丁目

中大法在學

福島尚道 北足立郡大宮町二八六八

智山專在學

細畠真取 北足立郡小室村

東大醫在學

細畠正行 北足立郡本鄉區森川町七三

東大醫在學

細畠英夫 北足立郡六辻村大字沼影三五

明治學院商在學

堀口正三 北足立郡大宮町大字大宮三五八九

慶大醫在學

増子靜夫 北足立郡大宮町大字大宮二九三九

早大法卒

増田清 北足立郡六辻村大字根岸八三二ノ一

千葉醫大專卒

田保行 北足立郡立大宮町土手宿四〇四

早大法卒

田保英夫 浦和市常盤町六ノ三一

千葉醫大專卒

松本政典 (東京市瀧野川區上中里町二〇)

早大法卒

松本守義 北足立郡三橋村並木一六七八

千葉醫大專卒

澤千勝 北足立郡大宮町三一〇二

早大法卒

富守見富之 北足立郡柳村大字南中丸三四

千葉醫大在學

水谷董 蒼浦和市岸町六ノ三八

早大專卒

茂手木利一 北足立郡大宮町下町三九七六

早大商在學

守屋望月保男 浦和市常盤町六ノ一二

早大專政經卒

守屋信雄 南埼玉郡河合村馬込二九七七

慶大法在學

森守屋寅雄 北足立郡片柳村字片柳一七〇五

早大專政經卒

森守屋信雄 浦和市常盤町七ノ二八

慶大法在學

第三回

一四六

慶大文在學

森 繁 正 北足立郡神根村根岸
（北足立郡片柳村字南中丸） 東京市王子區上十條町一八六

會社員 商
富商鑄物工場勤務 川口市元

帝國美術修

矢 部 敬 司 東京市目黒區柿木坂一五八
（北足立郡片柳村字南中丸） 馬場方

會社員 藥劑師

慶大法在學

矢 部 健 三 浦和市岸町七ノ七
（北足立郡片柳村字南中丸） 安村方

會社員 東京都市遞信局現業調查課勤

橫商專卒

矢 部 克 已 浦和市三橋四二 加島方
（北足立郡片柳村字南中丸）

鐵道省工作局工場課勤務

申大法在學

山 崎 正 雄 北足立郡大門村字差間五四
（北足立郡片柳村字南中丸）

川口市增平工場勤務

東藥專卒

吉 田 良 治 東京市王子區稻付西町一ノ五四
（北足立郡片柳村字南中丸） 山田方

鐵道省工作局工場課勤務

浦高理卒

横 溝 定 之 東京市下谷區人谷町三七四
（北足立郡片柳村字南中丸）

東京都市遞信局現業調查課勤

浦高文卒

渡 邊 英 俊 東京市下谷區人谷町三七五
（北足立郡片柳村字南中丸）

鐵道省工作局工場課勤務

專大經在學

横 溝 順 之 浦和市木太八一二
（北足立郡片柳村字南中丸）

鐵道省工作局工場課勤務

東大法在學

渡 邊 後 雄 浦和市常盤町七ノ六七
（北足立郡片柳村字南中丸）

鐵道省工作局工場課勤務

東大法在學

渡 邊 豪 静岡市音羽町一七六
（北足立郡片柳村字南中丸）

鐵道省工作局工場課勤務

東大醫在學

磯 部 昌 一 北足立郡大宮町二九二
（浦和市四四六）

東大法在學

浦高理卒

今 井 真 夫 北足立郡大宮町二九三
（浦和市四四六）

東大法在學

浦高文卒

金 志 衛 北足立郡大宮町二九四
（浦和市四四六）

東大法在學

專大經在學

金 志 賀 二 北足立郡大宮町二九五
（浦和市四四六）

東大法在學

浦高文卒

須 加 是 武 東京市荒原區中延町旗ノ臺一二四五
（浦和市四四六）

東大法在學

東大經在學

高 山 淨 東京市荒原區中延町旗ノ臺一二四五
（浦和市四四六）

東大法在學

立大文在學

高 山 邦 雄 東京市荒原區中延町旗ノ臺一二四五
（浦和市四四六）

東大法在學

東大醫在學

松 本 稔 東京市荒原區中延町旗ノ臺一二四五
（浦和市四四六）

東大法在學

東大醫在學

金 子 健 藏 川口市金山町四三
（浦和市四四六）

東大法在學

浦高理卒

不 明 會員 小 谷 野 信 太 郎 戶 倉 正 彦 芳 井 芳 真
（浦和市四四六）

東大法在學

浦高文卒

阿 部 正 五 浦和市常盤町七ノ七八
（浦和市四四六）

東大法在學

浦高文卒

青 木 茂 大連市山吹町七〇 大日寮
（浦和市四四六）

東大法在學

浦高文卒

秋 山 勉 大連市山吹町七〇 大日寮
（浦和市四四六）

東大法在學

浦高文卒

第三回
（昭和九年三月） 一六名

東商大專在學

浦高理卒

大 機 條 業 川口市金山町四三
（浦和市四四六）

東大法在學

浦高文卒

第三回
（昭和九年三月） 一六名

浦高理卒

浦高文卒

第三回

一四七

鶴山通太郎 浦和市常盤町四ノ八一
荒井巖 京城府光熙町二ノ三〇三 東明館内
有江一雄 北足立郡大宮町一二五一
伊藤三郎 札幌市北七條西十七丁目一 調訪邊方
伊藤長邦 水戸市花小路
伊藤英雄 (東京市王子區赤羽町二ノ五〇四)
飯田晶 北足立郡蕨町四五二四

浦和市岸町二ノ三二
浦和市花小路
(東京市王子區赤羽町二ノ五〇四)

北足立郡六社村文藏二四七
東京市王子區岩淵町二ノ二九二
池田辰男 北足立郡内間木村濱崎一〇七六
池田俊之 浦和市仲町四ノ一四四
石井寅松 浦和市高砂町一ノ四六
石井克己 浦和市高砂町四〇四〇
右井一彦 浦和市仲町一六八
右井卓 (東京府青山前原學校寄宿舍内)
右井亨 (東京府青山前原學校寄宿舍内)
右井彪 (北足立郡日進村大成四一四)

浦和郵便局勤務
大藏省專賣局勤務

慶大在學
東外語在學
桐生高工在學
早大専商卒

北大工在學
日大専工在學
水高理在學
東大醫在學

北足立郡内間木村濱崎一〇七六
浦和市仲町四ノ一四四
浦和市高砂町一ノ四六
浦和市高砂町四〇四〇
浦和市仲町一六八
(南埼玉郡牛久町大字高處五九)

浦和郵便局勤務
大藏省專賣局勤務

慶大在學
東外語在學
桐生高工在學
早大専商卒

北大工在學
日大専工在學
水高理在學
東大醫在學

北足立郡内間木村濱崎一〇七六
浦和市仲町四ノ一四四
浦和市高砂町一ノ四六
浦和市高砂町四〇四〇
浦和市仲町一六八
(南埼玉郡牛久町大字高處五九)

浦和郵便局勤務
大藏省專賣局勤務

慶大在學
東外語在學
桐生高工在學
早大専商卒

北大工在學
日大専工在學
水高理在學
東大醫在學

北足立郡内間木村濱崎一〇七六
浦和市仲町四ノ一四四
浦和市高砂町一ノ四六
浦和市高砂町四〇四〇
浦和市仲町一六八
(南埼玉郡牛久町大字高處五九)

浦和郵便局勤務
大藏省專賣局勤務

慶大在學
東外語在學
桐生高工在學
早大専商卒

北大工在學
日大専工在學
水高理在學
東大醫在學

北足立郡内間木村濱崎一〇七六
浦和市仲町四ノ一四四
浦和市高砂町一ノ四六
浦和市高砂町四〇四〇
浦和市仲町一六八
(南埼玉郡牛久町大字高處五九)

浦和郵便局勤務
大藏省專賣局勤務

慶大在學
東外語在學
桐生高工在學
早大専商卒

北大工在學
日大専工在學
水高理在學
東大醫在學

北足立郡内間木村濱崎一〇七六
浦和市仲町四ノ一四四
浦和市高砂町一ノ四六
浦和市高砂町四〇四〇
浦和市仲町一六八
(南埼玉郡牛久町大字高處五九)

浦和郵便局勤務
大藏省專賣局勤務

慶大在學
東外語在學
桐生高工在學
早大専商卒

北大工在學
日大専工在學
水高理在學
東大醫在學

北足立郡内間木村濱崎一〇七六
浦和市仲町四ノ一四四
浦和市高砂町一ノ四六
浦和市高砂町四〇四〇
浦和市仲町一六八
(南埼玉郡牛久町大字高處五九)

浦和郵便局勤務
大藏省專賣局勤務

慶大在學
東外語在學
桐生高工在學
早大専商卒

北大工在學
日大専工在學
水高理在學
東大醫在學

北足立郡内間木村濱崎一〇七六
浦和市仲町四ノ一四四
浦和市高砂町一ノ四六
浦和市高砂町四〇四〇
浦和市仲町一六八
(南埼玉郡牛久町大字高處五九)

浦和郵便局勤務
大藏省專賣局勤務

慶大在學
東外語在學
桐生高工在學
早大専商卒

北大工在學
日大専工在學
水高理在學
東大醫在學

北足立郡内間木村濱崎一〇七六
浦和市仲町四ノ一四四
浦和市高砂町一ノ四六
浦和市高砂町四〇四〇
浦和市仲町一六八
(南埼玉郡牛久町大字高處五九)

浦和郵便局勤務
大藏省專賣局勤務

慶大在學
東外語在學
桐生高工在學
早大専商卒

北大工在學
日大専工在學
水高理在學
東大醫在學

北足立郡内間木村濱崎一〇七六
浦和市仲町四ノ一四四
浦和市高砂町一ノ四六
浦和市高砂町四〇四〇
浦和市仲町一六八
(南埼玉郡牛久町大字高處五九)

浦和郵便局勤務
大藏省專賣局勤務

慶大在學
東外語在學
桐生高工在學
早大専商卒

北大工在學
日大専工在學
水高理在學
東大醫在學

北足立郡内間木村濱崎一〇七六
浦和市仲町四ノ一四四
浦和市高砂町一ノ四六
浦和市高砂町四〇四〇
浦和市仲町一六八
(南埼玉郡牛久町大字高處五九)

浦和郵便局勤務
大藏省專賣局勤務

慶大在學
東外語在學
桐生高工在學
早大専商卒

北大工在學
日大専工在學
水高理在學
東大醫在學

北足立郡内間木村濱崎一〇七六
浦和市仲町四ノ一四四
浦和市高砂町一ノ四六
浦和市高砂町四〇四〇
浦和市仲町一六八
(南埼玉郡牛久町大字高處五九)

浦和郵便局勤務
大藏省專賣局勤務

慶大在學
東外語在學
桐生高工在學
早大専商卒

北大工在學
日大専工在學
水高理在學
東大醫在學

北足立郡内間木村濱崎一〇七六
浦和市仲町四ノ一四四
浦和市高砂町一ノ四六
浦和市高砂町四〇四〇
浦和市仲町一六八
(南埼玉郡牛久町大字高處五九)

浦和郵便局勤務
大藏省專賣局勤務

慶大在學
東外語在學
桐生高工在學
早大専商卒

北大工在學
日大専工在學
水高理在學
東大醫在學

北足立郡内間木村濱崎一〇七六
浦和市仲町四ノ一四四
浦和市高砂町一ノ四六
浦和市高砂町四〇四〇
浦和市仲町一六八
(南埼玉郡牛久町大字高處五九)

浦和郵便局勤務
大藏省專賣局勤務

慶大在學
東外語在學
桐生高工在學
早大専商卒

北大工在學
日大専工在學
水高理在學
東大醫在學

北足立郡内間木村濱崎一〇七六
浦和市仲町四ノ一四四
浦和市高砂町一ノ四六
浦和市高砂町四〇四〇
浦和市仲町一六八
(南埼玉郡牛久町大字高處五九)

浦和郵便局勤務
大藏省專賣局勤務

慶大在學
東外語在學
桐生高工在學
早大専商卒

北大工在學
日大専工在學
水高理在學
東大醫在學

第三五回

一五〇

押川兼正 廣 廣島縣江田鳥村 海軍兵學校第十五分隊內

金子章吾 東京市王子區志茂町三ノ二四〇四

金子七五三 北足立郡戸田村大字下戸田一七六六

金子仁三郎 北足立郡片柳村三九九

川口俱武

浦和市岸町五ノ四四 北足立郡大久保村大字宿一八八ノ一

木内五郎

栗本璋 平 浦和市高砂町一ノ一三五 小笠原方

北島龍之介 京都市右京區桂艮町一五
（秩父郡秩父町一五四九）

熊黒須一郎 北足立郡原市町字瓦葺九六一

桑原弘 浦和市三〇〇四

小河原修 北足立郡六辻村大字根岸一

小林健次郎 浦和市二六五

小林次郎

小峰友吉（北足立郡大宮町大宮九〇六）

齋藤博（浦和市岸町一ノ一二三）

齋藤忠男 東京市芝區芝公園内四號地

齋藤正敏 東京市王字區稻付町四ノ七二八

齋藤勝夫 川口市横曾根町一二五二

鶴原節 桐生市天神町 桐生高工寮内

鶴原柳治 北足立郡芝村大字芝五〇二四

島村武二 北足立郡大宮町櫻木町南二區七七六

島村保雄（北足立郡上平村大字上）

新藤忠男 北足立郡土合村大字關二二一

須之部量寬 浦和市常盤町八ノ四

諫訪一郎 北足立郡芝村字大芝六三〇三 宮田方

鈴木辰郎 浦和市本太七八三

鈴木隆次 大阪府三島郡吹田町 聚雲莊

鈴木木（入間郡越生町六九八）

鈴木正一 北足立郡大宮町大字大宮二九三一

鈴木哲也 東京市荒川區南千住町四丁目 鐵道官舍

海兵在學 東高蠶絲在學 日本齒科在學 東美術在學 東商船在學

東京鐵道局大宮工場勤務 三隣無煙灰株式會社伊勢崎工場 勘務（群馬縣伊勢崎町一三四六）

稻穀染料店京都支店勤務 入間郡坂戸小學校訓導

浦和市役所勤務 東京鐵道局浦和驛從業員

竹町小學校訓導（東京市下谷區竹町）

天龍製錬所分析係（北海道上川郡上川村天幕）

滿洲哈爾賓戶澤部隊氣付宮野

北足立郡屋間木小學校訓導

堺師二部卒

明大專商在學

豊師二部卒

堺師二部卒

慶應義塾大學

桐生高工在學

電機學在學

水產講習所寄宿寮內

明大專商在學

桐生高工在學

專大專商在學

明大商在學

橫濱高商在學

靜高理卒

日大宗在學

日本光學工業株式會社大井工場勤務

國大文在學

國大齒科在學

國大文在學

國外語在學

第三五回

一五二

官吏 日大専商卒
事務員 日本ビストンリンク株式會社

浦高文在學

米高工在學 東京鐵道局田端機關庫勤務

東京鐵道局端驛勤務

大倉高商在學

日本高拓卒

慶大醫在學 日大商在學

東商大專在學 莓鴨高商卒

北大豫在學 中大法卒

東大法在學 東高工藝在學

中大在學 水產講在學

新潟鐵道局長野工場事務係 帝國ミシン株式會社員

第一早高在學 第一早高在學

新高理在學 浦高文卒

明大專政經在學 慶大醫在學

東大法在學 浦高文卒

中大在學 東大法在學

新潟市北十二條西二ノ二 埼玉武藏寮内

第一早高在學 新潟市北十二條西二ノ二 埼玉武藏寮内

新潟鐵道局大宮工場計算科勤務 公吏(浦和市役所勤務)

東京鐵道局大宮工場計算科勤務 公吏(浦和市役所勤務)

東京鐵道局大宮工場計算科勤務 公吏(浦和市役所勤務)

青山學院神在學 東醫專在學

東大法在學 申大經卒

東京鐵道局上野驛勤務 東京鐵道局上野驛勤務

東京鐵道局上野驛勤務 東京鐵道局上野驛勤務

戸 芳平 浦和市岸町五ノ四二
由 邊幸藏 川口市本町一ノ三七 布施方
田 菊義勝 浦和市仲町四ノ七八
田 村正吾 (米澤市 米澤高等工業學校寄宿舍白楊寮内)
田 村夏男 (北足立郡大宮町大字大宮五二二)
田 村夏男 (北足立郡大宮町下町三區三一二)
田 村夏男 (東京市澀野川區田端町中里 鐵道官舍一號)
高 橋一男 (浦和市常盤町一ノ四七)
高 橋一男 (北足立郡蕨町大字蕨四七八六)
高 橋一男 (北足立郡片柳村染谷八一四)
高 橋一男 (北足立郡大宮町高算七一)
高 宮 驕浦和市岸町四ノ五四
高 森 武一 北足立郡六辻村大字別所一ノ三一
武 井 男二 北足立郡與野町大字大戸一二
内 龍彦 浦和市仲町四ノ七九
野 政雄 (長野市綠町一五八 小林方)
近 田裕 (北足立郡大宮町櫻木町五一六)
種 倉友直 (東京市杉並區阿佐ヶ谷三ノ三〇七)
手 島立男 (東京市世田谷區玉川奥澤町一ノ七六)
照 山守三 (北足立郡大宮町五五八)

戸 張良作 北足立郡大久保村白鍊四八〇
由 遠山孟平 浦和市高砂町三七三六
藤 堂良知 浦和市高砂町四ノ一八〇
田 富田圭一 浦和市仲町二ノ一〇
田 四郎 (札幌市北十二條西二ノ二 埼玉武藏寮内)
部 正仲 (新潟市北十二條西二ノ二 埼玉武藏寮内)
尾 大吉 (庚塙町一三)
良 吉 (東京市牛込區山吹町二二三 天心館方)
孝 知 (東京市王子區袋町三ノ五八九)
春 中原英典 浦和市當盤町二ノ一六一
春 中村利美 北足立郡三橋村上小村田五〇八ノ二
春 永見昌司 (東京市漆谷區綠ヶ岡町二二 青山學院神學部)
春 中川哲男 (北足立郡馬宮村土屋五)
春 中川芳春 (北足立郡六辻村大字大宮一ニ九三)
口 野口忠正 (北足立郡大宮町大字大宮三七八〇)
口 野口忠正 (北足立郡大宮町大字大宮三七八〇)
島 龍島 (北足立郡大宮町大字佐知川五二八)
島 龍島 (北足立郡大宮町大字佐知川五二八)

第三六回

一五六

山本 嘉彦 淀川市本太二二八六
柳唯一 東京市本所區錦糸町一ノ六 鐵道官舍二六號

東藥專在學
東醫專在學

湯澤啓次 浦和市高砂町二ノ四〇

米穀商

吉岡和彥 浦和市常盤町四ノ四九
吉田定一 東京市深川區越中島町
(南埼玉郡蓮田町一三三) 東京高等商船學校內

東京鐵道局田端驛勤務

渡邊武夫 浦和市高砂町一ノ一五四ノ一

東美術在學

桃木健治 浦和市高砂町四ノ八七

東大工在學

不明會員 阿久津美穂
死亡會員 鈴木信雄

野澤剛三 星野嘉一郎 山口裕

大倉高商在學

相島直一 北埼玉郡加須町一四

會田康二 北足立郡大門村大字大門一五九一

青木泰 (甲府市元城尾町) 山梨高等工業學校寄宿寮

赤嶺剛 (浦和市高砂町四ノ一四二)

秋庭敏助 (北足立郡大宮町仲町三五九四)

東京鐵道局隅田川用品庫勤務

山高工在學

淺香榮 北足立郡三室村大字道祖土三六〇
天谷駿一郎 東京市中野區富士見町六〇

井山重利 (東京市目黒區綠ヶ丘三三九八南洲アパート内)

新居浩 (横須賀市田浦町深浦四二〇五 石渡方)

安藤利男 (浦和市常盤町六ノ二九)

井上賢三郎 (入間郡飯能町二二)

井原緣三 (北足立郡與野町四七)

五十嵐信夫 (北足立郡第七高等學校造士館東寮内 (浦和市岸町五ノ五〇))

伊地知弘毅 (鹿兒島市第七高等學校造士館東寮内 (浦和市岸町五ノ五〇))

伊藤信一郎 (北足立郡野田村大崎一八三二)

伊藤長次郎 (川口市元郷町二三三三)

井賢一 (浦和市本太一五六六ノ一)

石塚保 (横須賀市追浜町三ノ一四七六 遠藤方)

石岡浩 (浦和市本太二四〇)

石貝登 (北足立郡蕨町九三五)

石田隆二 (北足立郡鳩ヶ谷町大字里三四二)

石塚正雄 (北足立郡三橋村小村田)

市川功 (北足立郡大石村井戸木二五六)

第三六回

一五七

農 (北足立郡大門小學校教員)

府立園藝卒

印刷業 (横須賀海軍工廠勤務)

農 (明大法在學)

桐生高工在學 (第一早高在學)

横濱高工在學 (高等精密工卒)

陸士在學 (東高工藝在學)

高等精密工在學 (大倉高商在學)

日大專工在學 (大倉高商在學)

府立園藝卒 (高生高工在學)

四年藝子會員

第三回

一五八

市來乙純 淳和市仲町三九二〇

稻垣治郎兵衛 東京市王子區稻付町五ノ九七〇

犬飼信親 八王子市平岡町一五 遠藤方

今村木信雄 北足立郡土合村南元宿一〇一

市内田成穂 浦和市本太三七五

白木信雄 北足立郡大宮町一五 遠藤方

市内田成穂 浦和市仲町七〇二

市内田成穂 浦和市高砂町三ノ三七

市内田成穂 浦和市仲町一八八二

市内田成穂 浦和市金山町一五〇

市内田成穂 浦和市大宮町一五七

横濱高工在學

武藏高工在學

豊師二部卒

四高理在學

早大專在學

日大齒科在學

高等精密工卒

埼師二部在學

浦高理在學

高知高在學

東工專在學

浦高理在學

高知高在學

特殊製鋼株式會社勤務

東京合同運送會社秋葉原支店

埼玉縣廳總務部會計課勤務

横濱高工在學

武藏高工在學

豊師二部卒

四高理在學

早大專在學

日大齒科在學

高等精密工卒

埼師二部在學

浦高理在學

高知高在學

浦高理在學

第三六回

一六〇

柏實 北足立郡與野町大字下落合一六六六
木南昌之 橫濱市中區東ヶ丘町八 相澤方、北足立郡三
村吉 橫濱市上小村田 橫濱市中區東ヶ丘町一ノ七六
岸正 東京市本鄉區森川町一ノ五、昭和館内

子區赤羽町 陸軍被服廠勤務（東京市王
橋村上小村田） 橫濱市中區赤羽町

高工藝在學 東高工藝在學
高商在學 明治藥專在學

熊井九二也 北足立郡桶川町一八三
栗原忠道 北足立郡大宮町上天沼二五四
黑澤理一 浦和市常盤町五ノ一二〇
須春雄 北足立郡大宮町二八九四ノ一
池源吉（浦和市常盤町五ノ三五）

東京鐵道局大宮驛從業員
浦和市太田達道

熊谷永直 北足立郡桶川町一八三
栗原忠道 浦和市太田達道

東京鐵道局大宮驛從業員

小島喜八郎 浦和市太田達道二一六六
小島晉一 東京市王子區下十条町九九七
小島嘉基（北足立郡春闌村大字深作四一九二）

株式會社東光商會員

小島嘉幸 川口市大字下青木一四ノ一
小林信助（北足立郡春闌村大字深作四一九二）

第八十五銀行成增支店勤務

小島嘉顯 北足立郡大宮町六ノ二五 帶刀方（浦和市仲町四
五〇九）

日本マクネシカム株式會社社勤務

坂卷謙二 南埼玉郡柏壁町元町一七七一
塙間恒雄 浦和市市岸町七丁目 齊藤方

上海日本總領事館警察署巡查

澤田茂 北足立郡大宮町櫻木町九〇七
澤村勸一郎 浦和市大谷場一五九五 吉原方

桐生高工在學

坂卷謙二 南埼玉郡柏壁町元町一七七一
塙間恒雄 浦和市市岸町七丁目 齊藤方

日本マクネシカム株式會社社勤務

埼玉縣廳人事課勤務

横商專在學

早大專在學

東農大學在學

高等精密工學

日本齒科在學

東京計器製作所勤務

富士電機製造株式會社勤務

日本ビストンリング株式會社勤務

昭和鐵道卒

浦高理在學

東京齒科在學

第二早高在學

浦高理在學

東鐵教育卒

早大專商在學

蓮見武雄 浦和市本太二四二三
 濱島真夫 浦和市常盤町六ノ六二
 伴長治 浦和市高砂町三ノ六五
 林肥塚弘典 北足立郡與野町中里六
 平柳行藏 博川口市本町四ノ三二
 塚肥柳宗行 蔡歲三郎 浦和市常盤町四ノ五二
 塚肥柳宗行 蔡歲三郎 浦和市本太六七三
 福井清夫 浦和市岸町六ノ九〇
 藤沼真邦 東京市北六番町第一高等學校武道寮内(北
 足立郡大宮町大門町三八〇三)大澤方(南埼玉
 郡蓮田町字上閨戸三九八六)
 古澤厚貞 浦和市前地三七三
 別所規一 北足立郡與野町大戶四一六
 邊見慎一郎 浦和市仲町四ノ五二
 細田風一 北足立郡六辻村白幡二八
 星野謙二 北足立郡與野町七三三
 益岡久雄 浦和市高砂町五ノ一七
 吉田勝 浦和市常盤町九ノ一九四
 吉田一、二、三 北足立郡六辻村別所一八三四
 町田實 浦和市鈎ヶ谷六七五
 町田實 浦和市鈎ヶ谷六七五

松永千秋

新潟高等學校 六花寮内
 浦和市常盤町五ノ二〇八

松村喜三郎

北足立郡芝村九三二

松本光

福島市外臺ノ前町一一加藤方

三阪儀一

(北足立郡大宮町高鼻五六)

松本秀雄

浦和市岸町六ノ五九ノ一二

丸山光俊

浦和市太田窪一三七五

森谷兵衛

東京市王子區上十條町一一七六

矢島德美

浦和市仲町三ノ一六

矢部徳治

北足立郡片柳村宇中丸九七九

山崎文一

北足立郡與野町大字下落合一六六八

山田英雄

浦和市高砂町三ノ七

吉江眞澄

浦和市針ヶ谷 北浦和驛鐵道官舍

吉澤貞之助

東京市世田谷區北澤町四ノ三二二

渡邊忠淳

浦和市仲町四ノ一七〇

職工

新高理在學

福島高商在學

慶大豫在學

海兵在學

福島高商在學

善隣高商在學

福島高商在學

慶大高在學

東高齒在學

朝石灰岩工場電氣係(朝鮮威
 鎮北道慶興郡上下面灰岩洞成)

慶大高修

1東京野球協會員(東京セネタ)

日大豫修

東商大專在學

四年然子會

北足立郡植水小學校教員

浦高文草

東大法在學

東大法在學

立大經在學

海兵在學

法大源在學

東大法在學

上 村 秀 太 北足立郡大宮町三八三五
 大 内 芳 郎 浦和市岸町二八八一 大關齒科醫院內
 須 之 部 量 三 浦和市常盤町八ノ四
 高 橋 卓 郎 分隊內 廣島縣安藝郡江田島村 海軍兵學校第二十二
 土 屋 春 久 (浦和市仲町四ノ一八)
 永 瀬 勝 敏 川口市本町一ノ一〇〇
 細 潤 正 氣 北足立郡六辻村沼影二七〇
 渡邊 直 次 郎 浦和市本太三一
 上 村 秀 太 北足立郡大宮町三八三五
 大 内 芳 郎 浦和市岸町二八八一 大關齒科醫院內
 須 之 部 量 三 浦和市常盤町八ノ四
 高 橋 卓 郎 分隊內 廣島縣安藝郡江田島村 海軍兵學校第二十二
 土 屋 春 久 (浦和市仲町四ノ一八)
 永 瀬 勝 敏 川口市本町一ノ一〇〇
 細 潤 正 氣 北足立郡六辻村沼影二七〇
 渡邊 直 次 郎 浦和市本太三一

死亡會員 細川 保彥

第三七回

(昭和十一年三月) 一五二集

青木 孝二 郎 北足立郡大宮町四〇五九

赤松 幹 美 北足立郡六辻村根岸一〇二六

龜山 光 男 (浦和市常盤町四ノ八一)

天沼 錠 一 川口市錦町一五四

新井 士 郎 北足立郡川田谷村三三七〇

鐵道從業員

神宮皇在學

東高工藝在學

東商船在學

橫濱高工在學

水高理在學

第一早高在學

東物理在學

東鐵教在學

水高理在學

第一高理在學

東鐵教在學

城北補在學

東洋大在學

有賀陽一 郎 宇治山田市 (楠部神宮皇學館精華寮内)
 (北足立郡大宮町高鼻)
 五十川 義 彦 東京市王子區稻付町四ノ七三六
 伊藤 進 六 川口市元郷町二五一七
 伊藤 英 男 浦和市岸町三ノ八三
 伊藤 弘 完 (北足立郡桶川町七四六)
 池 田 豊 北足立郡尾間木村一二七五
 石 井 真 一 浦和市岸町四ノ九
 石垣 秀 光 (東京市目黒區駒場町一高寮内)
 石塚 松 司 浦和市本太四八
 市 川 江 浦和市岸町二ノ七七〇
 稲葉 榮 治 浦和市本太三七五
 今 泉 泰 成 (北葛飾郡栗橋町二九一七)
 今 井 武 清 浦和市岸町四ノ一五
 岩 井 清 北足立郡大宮町大門西側五
 上 原 醒 千葉縣東葛飾郡二川村

第三七回

第三七回

一六八

植西繁三 東京府北多摩郡谷保村中和寮内(北葛飾郡聚
内田駿一 橋町) 東京市荒川區日暮里町三ノ三七

東商大專在學
横商專在學

江口頼彦 北足立郡猿目村大字下筈目三〇七
遠藤陽三 東京市小石川區高田老松町一八〇四
内田亨 浦和市常盤町四ノ五九

大井正夫 浦和市本太一〇三四

大河原真雄 東京市目黒區鷺島町第一高等學校申寮二番室

大木啓雄 東京市王子區神谷町二ノ四七

大熊郁 浦和市仲町二ノ一二

大澤純

東京市王子區稻付西町六ノ三一

岡田喜八郎 浦和市常盤町二ノ五七

大野用博 浦和市仲町一六六九

青鹿衆治 北埼玉郡東村旗井七五

岡上孝 浦和市常盤町七八

岡田赳夫 北足立郡大宮町高鼻一八九

押田義章 北足立郡安行村原一六二九

笠原輝雄 北足立郡鳩ヶ谷町一七七八

金子一雄 北足立郡蕨町四七六四

金子活二 北足立郡大宮町高鼻一八九

金子一雄 北足立郡大宮町高鼻一八九

金子表三 浦和市常盤町五ノ一一五

金子活二 北足立郡蕨町一三

金子表三 浦和市常盤町五八一

柏井利勝 浦和市常盤町五八一

岸村恵生 北足立郡志木町一七七

川井利勝 北足立郡志木町一七七

柏井計助 北足立郡與野町六六五

岸村恵生 北足立郡六社村別所一七三五

川井利勝 北足立郡志木町一七七

小坂秀治 浦和市本太前地三〇二

小島龍一 浦和市常盤町三ノ九六

小西勇 浦和市常盤町四ノ三七

小沼清 浦和市高砂町四ノ一八七

小林慈夫 北足立郡與野町下落合三五三之一

商

僧侶、南光院住職
海軍技術研究所造船研究部
(東京市目黒區三田町一三)

横濱高工在學

一高文在學

酒類商

礪灰商

大東文在學

東商大專在學

東音學在學

培師二部在學

弘高文在學

三重高農在學

浦高文在學

城北補在學

東藥專在學

東物理在學

浦高文在學

東商專在學

東高工藝在學

第三七回

一七〇

小林眞夫

浦和市仲町五ノ四〇

板橋稅務署勤務

拓大豫在學

兒玉一郎

浦和市岸町一ノ五九

中大法在學

陸豫士在學

兒山董

東京市牛込區本村町（陸軍醫科士官學校第九

日本神學校在學

後藤治郎

川口市本町三ノ二

日本醫大在學

越場主計

浦和市仲町六四

明大商在學

齊藤達也

浦和市高砂町一ノ九一

日本外語在學

澤田浩

北足立郡日進村大字大成一五〇

東洋大學在學

鹽野谷正三

北足立郡植水村島根七三一

廣島縣江田島海軍兵學校第八分隊內（南崎

鎮目忠信

東京市王子區稻付町四ノ七二八

廣島縣江田島海軍兵學校第八分隊內

須永勝正

北足立郡日進村大成三二五

東京市保險局衛生課雇

新藤博

浦和市岸町一ノ六〇

東京市區岩淵町二ノ一七四

神保慶長

東京市深川區越中島

東京鐵道局上野車掌區勤務

須永勝正

北足立郡日進村大成三二五

東京鐵道局田端驛勤務

須木貞一

北足立郡與野町一七二三

東京鐵道局田端驛勤務

鈴木時雄

浦和市大谷湯八二

吳服商

鈴木正明

（北足立郡大宮町下町三二八）

東京鐵道局田端驛勤務

根駿

東京市王子區王子町一〇一

東京鐵道局田端驛勤務

根順

南埼玉郡河合村大字川島七六六

東京鐵道局田端驛勤務

根堯卓

北足立郡大宮町宮町二區

東京鐵道局赤羽驛勤務

口讓

東京市大森區久々原町一一八四

海兵在學

橋治郎

浦和市常盤町三ノ一〇七

日本齒科在學

橋肇

北葛飾郡早稻田村大廣戶

武藏高工在學

竹内正

北足立郡大和町一ノ二三

武藏高工在學

井友三

北足立郡與野町大戶一一

武藏高工在學

井圭彦

京城府大和町一ノ二三

武藏高工在學

井内靖彦

廣島市上柳町三七

武藏高工在學

井千綿健

北足立郡大宮町大字大宮九〇七

武藏高工在學

島潤一

浦和市岸町二七一三

武藏高工在學

島尾英一

北足立郡與野町大字中里一三三

武藏高工在學

遠山正一

北足立郡上尾町四三

武藏高工在學

里久夫

北葛飾郡幸手町二五一

武藏高工在學

中村紀郎

北足立郡大宮町大字大宮三八二二

武藏高工在學

中村善雄

浦和市前地二三八

武藏高工在學

米穀商

浦和市岸町二ノ一三

東京鐵道局下十条電車區勤務

東京鐵道局下十条電車區勤務

第三八回

一七四

横江 雄二 浦和市岸町二ノ一一四

吉岡 進 川口市元郷町二ノ二〇七一

吉岡 徳 浦和市仲町四ノ四一

吉見 正仁 浦和市仲町三八六ノ一

米澤 松一 東京市足立區子住河原町二二

力丸 俊男 茨城縣猿島郡境町四九
(北足立郡大宮町下附三區三〇九四)

六城 雅龜 浦和市仲町四ノ八九

渡邊 健一 (浦和市高砂町四ノ二三)

波邊 忠守 (浦和市仲町四ノ一〇四)

綿貫 十郎 浦和市常盤町五ノ一二四

境税務署勤務

慶大高在學
東物理在學
明治學院在學
日大醫在學

浦高理在學
陸豫士在學

國大豫在學
東商大專在學

國大豫在學
橫高工在學

佐藤 鈴木 早苗 渡邊 忠明

本多 宇喜久郎 (南埼玉郡鶴宮町下新井三八五ノ一)

阿佐見嘉男 北足立郡六庄村二〇五一

日年賃十台

國士在學

第三八回 (昭和十二年三月) 一七四名

阿佐見嘉男

北足立郡六庄村二〇五一

我妻 元雄 浦和市岸町八ノ一九四

青木 寛 浦和市高砂町四ノ一九二

青山 保男 北足立郡六庄村別所一六二八

淺子 龍次 北足立郡六庄村別所一〇九一

姉崎 敬郎 川口市壽町五八九

荒井 盛光 浦和市太田塚八一一

栗木 正民 東京市荏原區下神明町五五一

井上 静二 熊谷縣猿島郡古河町西鷹匠町五三〇〇

飯山 哲雄 浦和市高砂町四ノ一一

上野 隆夫 浦和市岸町七ノ五八

北足立郡大宮町大字大宮三三六一

浦和市本太二三九五

川崎 貞安 鎌倉市本町二ノ三九

今田 行俊 浦和市岸町三ノ八四

岩崎 椎人 浦和市常盤町四ノ一三

岩田 邦太郎 浦和市仲町四ノ一四五

宇治 達郎 北足立郡大宮町高鼻四六

東京鐵道局隅田川驛勤務

山口製作所勤務

東工專修在學

浦中補在學
埼師二部在學

日大豫在學

浦高文在學

浦中補在學

千代田火災保險株式會社勤務

國際ボナル在學

東京鐵道局大宮機關員勤務

浦中補在學

浦高理在學

第三八回

一七六

植野晴一 北足立郡戸田村下戸田二二一

磨田寛之 北足立郡植水村飯田三六〇

内田安太郎 浦和市岸町四ノ一七

梅堀清一 南埼玉郡越田町四三四五

遠藤英六 北足立郡三室村二二六

遠藤丈吉 北足立郡日進村字中大成一一一

小川薰 浦和市下木崎五七〇

大川薰 浦和市岸町一ノ一四

大島熊勇 浦和市高砂町五ノ一六〇

大島義治 北足立郡大宮町二九七七

小島隆二 北足立郡大砂土村字土呂一一七五

太畑専一郎 浦和市高砂町五ノ一三九

太畑泰彦 浦和市仲町四ノ一四三

長田折原勤治 東京市浦野川區田端新町三ノ一二

恩田禮二 浦和市岸町二八二四

加藤操 浦和市常盤町一七八

加藤義雄 北足立郡小針村小針内宿一六八六

東京鐵道局大宮工場勤務
浦和稅務署勤務

東商大豫在學

中野無線在學

浦中補在學

青山學院在學

日本醫大在學

陸探士在學

日本醫大在學

鎌篠原謙一 浦和市本太五五三
川島哲郎 東京市淀橋區諏訪町一七三 太陽館方
川村正孝 (美城市猿島郡古河町六軒町五二八〇)
片倉達郎 東京市杉並區天沼町二ノ三三三
片倉敬一郎 浦和市常盤町三ノ七五
勝正一 浦和市常盤町六ノ一
金谷精二 北足立郡大宮町大字大宮一〇八二
上關彥司 北足立郡大宮町高鼻二四三
岸井孝次 (北足立郡大石村大字中分)
岸井澤正彦 浦和市岸町六ノ七四
草刈夫 (浦和市岸町四ノ一四〇)
小暮義治 東京市荒川區日暮里町八ノ八二四
小島知行 浦和市常盤町三ノ九二
小島幸雄 北足立郡植水村中野林四一三
小林勇 浦和市仲町四三三八

第三八回

一八〇

常松重男 浦和市本太一三八〇
手島篤二 浦和市常盤町七ノ一五八

農
寺尾光羨 北足立郡與野町中里一六二
川口市横曾根町一三九六

浦高文在學
桐生高工在學
浦和市本太一四〇六
浦和市駒場八五

遠山和善 富永吉三
中里公一
中野泰一郎
中村蓋世
永見哲也

北足立郡六庄村別所一八三六
北足立郡六庄村自幡五三
北足立郡大宮町大字大宮一二九三
一北足立郡大和田町七二五

桐生高工在學
水產譜在學
浦中補在學

成田一
西川浩
西崎廣直
西原尤之
沼崎一
沼邊愛一
納口鐵雄
野口清治

北足立郡大宮町櫻木町鐘塚
東京市瀧野川區田端町三八〇
（浦和市岸町四ノ一〇）
（浦和市常盤町五ノ五一）
浦和市常盤町六ノ四
川口市幸町一ノ一
北足立郡大宮町仲町二九一六

浦中補在學
東京鐵道局官吏
陸豫士在學
第一早高在學

寺尾永吉
寺尾永山
寺尾永吉
永山菊次郎
永山菊次郎

北足立郡六庄村自幡五三
北足立郡大宮町大字大宮一二九三
（浦和市元郷町一八四六）
（浦和市元郷町一八四六）

浦高文在學
浦中補在學

寺尾永吉
寺尾永山
寺尾永吉
永山菊次郎
永山菊次郎

北足立郡六庄村自幡五三
北足立郡大宮町大字大宮一二九三
（浦和市元郷町一八四六）
（浦和市元郷町一八四六）

浦高文在學
浦中補在學

寺尾永吉
寺尾永山
寺尾永吉
永山菊次郎
永山菊次郎

北足立郡六庄村自幡五三
北足立郡大宮町大字大宮一二九三
（浦和市元郷町一八四六）
（浦和市元郷町一八四六）

浦高文在學
浦中補在學

寺尾永吉
寺尾永山
寺尾永吉
永山菊次郎
永山菊次郎

北足立郡六庄村自幡五三
北足立郡大宮町大字大宮一二九三
（浦和市元郷町一八四六）
（浦和市元郷町一八四六）

浦高文在學
浦中補在學

寺尾永吉
寺尾永山
寺尾永吉
永山菊次郎
永山菊次郎

北足立郡六庄村自幡五三
北足立郡大宮町大字大宮一二九三
（浦和市元郷町一八四六）
（浦和市元郷町一八四六）

浦高文在學
浦中補在學

寺尾永吉
寺尾永山
寺尾永吉
永山菊次郎
永山菊次郎

北足立郡六庄村自幡五三
北足立郡大宮町大字大宮一二九三
（浦和市元郷町一八四六）
（浦和市元郷町一八四六）

浦高文在學
浦中補在學

寺尾永吉
寺尾永山
寺尾永吉
永山菊次郎
永山菊次郎

北足立郡六庄村自幡五三
北足立郡大宮町大字大宮一二九三
（浦和市元郷町一八四六）
（浦和市元郷町一八四六）

浦高文在學
浦中補在學

寺尾永吉
寺尾永山
寺尾永吉
永山菊次郎
永山菊次郎

北足立郡六庄村自幡五三
北足立郡大宮町大字大宮一二九三
（浦和市元郷町一八四六）
（浦和市元郷町一八四六）

浦高文在學
浦中補在學

寺尾永吉
寺尾永山
寺尾永吉
永山菊次郎
永山菊次郎

北足立郡六庄村自幡五三
北足立郡大宮町大字大宮一二九三
（浦和市元郷町一八四六）
（浦和市元郷町一八四六）

浦高文在學
浦中補在學

寺尾永吉
寺尾永山
寺尾永吉
永山菊次郎
永山菊次郎

北足立郡六庄村自幡五三
北足立郡大宮町大字大宮一二九三
（浦和市元郷町一八四六）
（浦和市元郷町一八四六）

浦高文在學
浦中補在學

寺尾永吉
寺尾永山
寺尾永吉
永山菊次郎
永山菊次郎

北足立郡六庄村自幡五三
北足立郡大宮町大字大宮一二九三
（浦和市元郷町一八四六）
（浦和市元郷町一八四六）

浦高文在學
浦中補在學

寺尾永吉
寺尾永山
寺尾永吉
永山菊次郎
永山菊次郎

北足立郡六庄村自幡五三
北足立郡大宮町大字大宮一二九三
（浦和市元郷町一八四六）
（浦和市元郷町一八四六）

浦高文在學
浦中補在學

寺尾永吉
寺尾永山
寺尾永吉
永山菊次郎
永山菊次郎

北足立郡六庄村自幡五三
北足立郡大宮町大字大宮一二九三
（浦和市元郷町一八四六）
（浦和市元郷町一八四六）

浦高文在學
浦中補在學

寺尾永吉
寺尾永山
寺尾永吉
永山菊次郎
永山菊次郎

北足立郡六庄村自幡五三
北足立郡大宮町大字大宮一二九三
（浦和市元郷町一八四六）
（浦和市元郷町一八四六）

浦高文在學
浦中補在學

寺尾永吉
寺尾永山
寺尾永吉
永山菊次郎
永山菊次郎

北足立郡六庄村自幡五三
北足立郡大宮町大字大宮一二九三
（浦和市元郷町一八四六）
（浦和市元郷町一八四六）

浦高文在學
浦中補在學

第三八回

一八二

福田健太郎 北足立郡大宮町高鼻三區三六八六

藤井 潔

北足立郡六之村大字白幡二八

浦和市常盤町六丁目

細田登喜雄

北足立郡六之村大字白幡二八

浦和市本二〇〇

細田哲生

神奈川縣橋本郡橋本村

海軍無線電信所官舍

細田沼久雄

川口市本町一ノ五四

浦和市常盤町六丁目

増永田進

南埼玉郡蓮田町二八九七

浦和市岸町二五五五

増永田宏

浦和市岸町二五五五

浦和市岸町二五五五

増永田久夫

浦和市岸町二五五五

浦和市岸町二五五五

第三八回

品川稅務所勤務(東京品川區)

浦高理在學

浦中補在學

一八三

慶大高在學

國立高在學

第一早高在學

川端研究所在學

在校生 第四學年

一八八

第三學年

在校生 第三學年

二九〇

重康和田
茂

秦野	正	弓削	三郎	義隆	昌雄	岩田	健
半田	好雄	藤井	鐵一	宮田	稔	岡田	大
畠山	博	藤岡	文雄	村井	俊夫	稻垣	中
伴長道		星野	櫻之助	吉井	正美	和田	勇
林		細田	茂生	村勢	楠太郎	伊藤	仁三
林瀬	修	堀	昇	吉田	重康	岡田	昭
林重	弘	マの部		吉田	茂	岡田	博
林林	弘	牧野	保行	森田	榮雄	岡野	光夫
林保	一郎	増淵	靜夫	森山	宗	宇都宮	輝彦
林雅	之	町田	正夫	秋田	弘	岡上	俊雄
早津	順久	松永	信成	矢作	朋夫	牛木	興哉
原田	義雄	松永	泰輔	矢吹	晋一	宇都宮	輝彦
林		松橋	直	柳澤	鐵雄	輝彦	大
樋口	重孝	松村	廣	赤松	重美	岡上	俊雄
平木	秀宣	松本	亮	石川	忠雄	岡田	泰公
平野	節夫	松原	二郎	山口	高陽	小沼	清志
廣兼	茂	山根	一郎	會田	富生	長田	泰公
の部		山野	英	青木	善吉	泰公	健
三尾	雄治	イの部		石川	敏	泰公	健
三浦	金之助	井上	淳	小野	滿津男	岡田	大
三尾	雄治	ウの部		今泉	浩平	岡田	大
福田	隆二	オの部		今村	昌輔	岡田	中
の部		生澤	鶴壽	飯塚	完二	岡田	中
の部		大	龍	大澤	利彦	岡田	中
の部		本	登	川島	賢三	岡田	中
の部		木	草	鶴澤	巖	岡田	中
の部		村	慈	笠原	恒雄	岡田	中

在校生 第二學年

三鳳 雄治

在校生 第二學年

卷二

木下	廣	鴻森	勅	坂本	康	手島	節三	根岸	秀夫	日高	晋
木南	清	後藤	英一郎	定形	千春	關根	征市	平田	源一郎	平野	啓一
清宮	俊雄	近藤	太郎	關口	尚男	トの部	ノの部	トの部	ノの部	平柳	芳郎
北浦	敏男	近藤	武彦	柴崎	飲一	先崎	元彦	唐司	定尙	野口	哲男
北野	朝男	佐藤	信	鹽原	和夫	曾根	道太郎	桺鍾	秀夫	馬場	好文
北爪	由二	佐藤	藤	清水	義夫	タの部	ナの部	馬場	茂	藤井	英雄
菊地	俊男	佐野	彰	鳥森	純一郎	中島	俊彦	馬場	好文	藤澤	英雄
君ヶ袋	眞一	佐野	松嘉	進藤	四郎	田中	宏謨	原	俊一	藤原	亥八雄
クの部	クの部	クの部	クの部								
小早川	充	佐波	伸夫	篠原	晃三	田中	伸二	申田	甲子雄	長谷川	一夫
小松	重壽	齊藤	和夫	白井	昌一	田村	仲二	申島	大介	藤田	惠一
小室	秀雄	齊藤	益夫	進藤	四郎	田村	一郎	中島	大介	原田	尚信
小島	良一	齊藤	善三郎	田中	俊彦	田村	博	中村	俊作	福島	有光
坂	部	阪	恒久	竹内	繁	田中	宏謨	中津原	正	昌弘	昌弘
小板橋	惣一	鈴木	吉雄	永橋	文祥	立川	宗正	中山	章	別府圭二郎	別府圭二郎
西野	貞一	鈴木	斐夫	蓮見	俊光	西内	敬明	中川	昌諦	西川	眞三郎
西屋	南	鈴木	登貴治	蓮見	俊光	古戸	惇	濱田	清次	西川	眞三郎
番場		鈴木	義夫	津吹	好則	西内	敬明	花俟	忠一	星野	猪一郎
		鈴木	忠雄	西野	貞一	西内	敬明	加哲	雄	星野	猪一郎
		鈴木	義夫	阪	直	西内	敬明	邊見	隆三	土屋	貞一
		鈴木	義夫	小早川	充	西内	敬明	福田	昌弘	西野	貞一
		鈴木	義夫	小早川	充	西内	敬明	萩原彌四郎	別府圭二郎	小板橋	惣一
		鈴木	義夫	小早川	充	西内	敬明	別府圭二郎	別府圭二郎	坂	部

第一學年

在校生 第一學年

一九三

在校生 第一學年

一九四

小林 章二郎	神山 隆	鯉沼 正	近藤 正夫	柴多 登	田中 昇	鹽野 政明	田中 富安	野原 浩	黒川 孝照	前島 義治
小林 進	三男	篠崎 甲子男	大	代 淳吉郎	田中 幸衛	島野 光司	新藤 貞文	神保 形三	豊田 壽	長谷川 嶽
北雄		佐々木一衛	高橋 敏晴	高橋 安光	高橋 徳	杉浦 吉太郎	新藤 貞文	神保 形三	長谷川 嶽	平澤 十三夫
和一		佐々木順一	高橋 敏晴	中尾 壽一	高橋 徳	高橋 徳	高橋 徳	高橋 徳	増田 豊	増田 義七
清水	早乙女繁雄	佐々木秀男	高橋 敏晴	中川 三與三	高橋 徳	高橋 徳	高橋 徳	高橋 徳	増田 豊	増田 義七
北雄		佐々木繁一	高橋 敏晴	橋本 雅彦	高橋 徳	高橋 徳	高橋 徳	高橋 徳	増田 豊	増田 義七
和一		坂部 政	鈴木 康之	竹内 英治	竹内 英治	瀧澤 隆美	瀧澤 隆美	瀧澤 隆美	馬場 一夫	馬場 一夫
田中	田島 關根	三瓶 益太郎	武田 正男	中島 克己	中島 克己	中里 耕久	中里 耕久	中里 耕久	平野 正也	平野 正也
田中	一三	櫻田 関根	鈴木 康之	竹田 豊嗣	竹田 豊嗣	瀧澤 隆美	瀧澤 隆美	瀧澤 隆美	町田 健	町田 健
田中	武夫	坂部 政	鈴木 康之	中島 克己	中島 克己	中島 克己	中島 克己	中島 克己	松井 優郎	松井 優郎
トの部	寺澤 一	田島 關根	三瓶 益太郎	竹田 豊嗣	竹田 豊嗣	瀧澤 隆美	瀧澤 隆美	瀧澤 隆美	馬場 一夫	馬場 一夫
トの部	仁田 三夫	櫻田 関根	鈴木 康之	中村 威	中村 威	中村 威	中村 威	中村 威	町田 健	町田 健
トの部	野口 喬一郎	坂部 政	鈴木 康之	原田 参平	原田 参平	原田 参平	原田 参平	原田 参平	松本 繁	松本 繁
トの部	牛田 靖夫	田島 關根	鈴木 康之	原田 東助	原田 東助	原田 東助	原田 東助	原田 東助	松本 繁	松本 繁
トの部	林 晋	櫻田 関根	鈴木 康之	針谷 英世	針谷 英世	針谷 英世	針谷 英世	針谷 英世	松本 繁	松本 繁
トの部	程塚 孝一	坂部 政	鈴木 康之	藤田 宏	藤田 宏	藤田 宏	藤田 宏	藤田 宏	松本 繁	松本 繁
モの部	桃木 茂夫	田島 關根	鈴木 康之	佐藤 敬章	佐藤 敬章	佐藤 敬章	佐藤 敬章	佐藤 敬章	松本 繁	松本 繁
モの部	茂田 井洋一	櫻田 関根	鈴木 康之	三宅 也澄	三宅 也澄	三宅 也澄	三宅 也澄	三宅 也澄	松本 繁	松本 繁
モの部	茂夫 茂夫	坂部 政	鈴木 康之	星野 茂	星野 茂	星野 茂	星野 茂	星野 茂	松本 繁	松本 繁
モの部	茂夫 茂夫	田島 關根	鈴木 康之	宮澤 幸雄	宮澤 幸雄	宮澤 幸雄	宮澤 幸雄	宮澤 幸雄	松本 繁	松本 繁
モの部	茂夫 茂夫	櫻田 関根	鈴木 康之	三輪 光砂	三輪 光砂	三輪 光砂	三輪 光砂	三輪 光砂	松本 繁	松本 繁
モの部	茂夫 茂夫	坂部 政	鈴木 康之	宮澤 幸雄	宮澤 幸雄	宮澤 幸雄	宮澤 幸雄	宮澤 幸雄	松本 繁	松本 繁
モの部	茂夫 茂夫	田島 關根	鈴木 康之	宮本 裕	宮本 裕	宮本 裕	宮本 裕	宮本 裕	松本 繁	松本 繁

補遺
(會報編纂中移動分)

特別會員

富山一郎 東京市品川區五反田四之一三
簡井六一郎 愛知縣岡崎市六供町甲越二一
高嶋貞

兩角誠英
正會員
第三〇回
金澤市上胡桃町五二ノ四官舎

米山雄治 大連市星ヶ浦清風寮

遼刊満洲評論記者
（大連市大廣場東拓ビル）

浦高文萃

一九五

總會記事 其他

十一月三日生憎兩天のため常任幹事協議の結果遂に總會を延期することに決定。但しその爲め山本知太郎氏石川清隆氏其他數名の方々に御迷惑を掛けたことを申譲なく存じます。十一月五日母校運動會當日母校工作室に第十四回總會を開く。一時過ぎ開會出席會員數名。會計報告(別紙參照)の後出征會員諸君の御苦勞に感謝の意を以ていさゝか御慰問の品を發送することを決定。本年は時局の折柄有志懇親會は之を中止。

右決定に基き、十一月二十九日出征會員中本會にて部隊名調査済の諸君に發送。猶出征會員にて部隊名不明の者、其他當會にて出征の有無不明の會員については分明次第御送りする事を致して居ります。又東京支部では支部長土屋其治氏の御骨折にて同様繪葉書其他僅の御慰問品と御見舞文を贈呈。尙同支部の名にて戰死者御遺族に弔詞呈上。

又豫て御後援をいたゞきました新校舎も御蔭を以てこの程無事落成、去る九月二十四日移轉致しました。時節柄落成式の儀は之を取止めますが、新校舎參觀御希望の方は來春二月十一日午後一時御來校下さい。なほ寄附金會計報告は其の節御報告申上げる筈につき御諒承を乞ふ。

記事編纂につき本年度は索引を省きました。

會計報告(至昭和十二年十一月三十日)

收入の部

四四八・二五	前年度繰越金
一・〇〇	下鄉特別會員御寄附
五二二・〇〇	卒業生會費
三〇・〇〇	四年修了會員會費
五五・五〇	浦和信用組合定期預金利子
九・二二	同 當座預金利子

合計 一〇六五・九七

別に 一五〇〇・〇〇

浦和信用組合定期預金

支出の部

一三・七五	懇親會費用
一二・〇〇	總會費用
一二二・一八	會報發送費
一六・〇〇	會報發送封筒代

會計報告

一九八

二七五・三七	會報作製費
六二・四七	通信費
四〇・〇〇	弔慰金
五・〇〇	使丁退職金
四〇・二八	事務費
一二・〇〇	小使年末手當
一九・〇三	雜費
合計 六三八・〇八	來年度繰越金

故

櫻井先生遺兒教育資金現況

二三七・一九

昭和十一年十月末日現在高

九一・〇〇

櫻井武雄氏へ支拂

三・五七

昭和十二年度利子

一五六・七六

昭和十二年十月末日現在高

支那事變
戰死會員

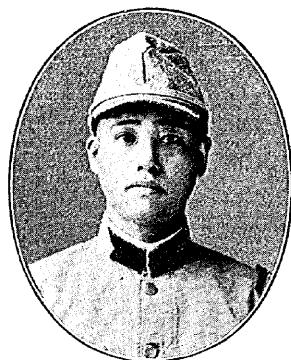
思

ひ

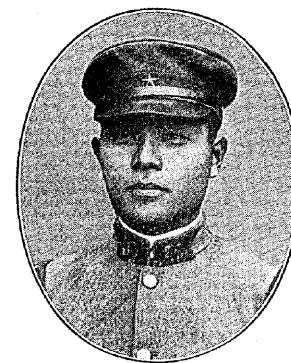
出

皇國の爲 護國の鬼となり給へる會員六柱の英
靈に對し 此處に謹んで哀悼の意を表するとと
もに御靈の永に安らかならんことを祈り奉る

浦和中學校 同窓會



第三二回 小谷野 孝君



第三〇回 櫻井 道雄君



第三〇回 大野 信行君



第三一回 白井政之助君



第三二回 小山 永久君



第三一回 千葉 正君

小谷野 孝君

君が、埼玉縣北足立郡三橋村の名門林健治郎氏の七男として生れたのは、明治三十五年十月三日であった。ついで同村の小學校に入學したが、温厚な性質の君は上級生からも下級生からも敬愛せられ、成績も亦極めて優秀で、同校の模範生であつた。

浦中の生徒となつてからは、君の德性は愈々發揮せられた。其の學習態度は、所謂才氣煥發といふ様子は些もなく、誠に着實なもので、歩一步向上を目指すといふ風であつた。品行方正、成績優良な生徒であつた事は言ふ迄もない。

大正十年三月浦中を卒業するや、直に山形高等學校文科に入學を許可されたが、君の平生の努力を知る者はむしろ當然の事とした。東北の學都でも、黙々たる勉學を續け、大正十三年東京帝國大學經濟學部の難關を見事突破した。國家最高の學府にて専門の學術の研鑽を行ふ事三年、昭和二年三月經濟學士の稱號を得、愈々社會に一步を踏み出した。

君の實務に對する修業は、埼玉農工銀行で始つた。君の銀行に於ける勤勞振は、學校時代の勉學態度と少しも變らず、眞面目其のものであつた。

同年一月歩兵第四十九聯隊に入隊し、皇軍の中心たるべき嚴重なる訓練を受け陸軍步兵伍長に任官同年十一月除隊した。其後、現浦和市長たる小谷野家に迎へられ同家人となり、又勤務先の農工銀行も日本勸業銀行に合併同行浦和支店となる等、一身上にも、勤務上にも變化があつた。

今般、支那事變の起るや、召集を受け八月二十五日勇躍出征の途に就き、東洋平和確立のため上海戰線で奮戦の際、無念にも敵弾を顔面に受け野戰病院にて療養中、遂に十月十九日歿した。齡三十六、一死報國の覺悟で出征したとはいへ誠に哀悼に堪へないものがある。

次に同憲岩井良太郎君の追悼文を掲げる。

上海戰線に華と散つた小谷野孝君を偲ぶ

第二十二回 岩井良太郎

小谷野君が上海戰線で祖國のために殉じたのは九月十日過ぎであつた。所屬は谷川部隊、上海總攻擊のとき、例の復旦大學方面の攻略を敢行した勇猛部隊である。彼は上海攻擊の準備まさに成り、總攻擊に着手した途端に、殘念にも不起の重傷を負ふてしまつた。顔面部に無残の敵弾を蒙り、野戰病院に後送された後、四、五日にして護國の英靈として永久に天界に去つたのである。三十六年の生涯を、江南の秋風に送られて、痛ましくもまた華々しく終つたのである。

小谷野君と私とは、同郷同學の友達である。戦歿の報を得て感慨無量、痛惜の念を禁まざることが出来ない。單に戦死の榮譽を稱えるといふことではなしに、腕白小僧時代からの友達として、率直な氣持ちでかれに關する若干の思ひ出を語つてみたいと思ふ。

かれの生家は、大宮町在三橋村の隨一の舊家、德望家の林家である。長兄林龜治氏は浦中の大先輩、

兄弟數人皆浦中出身者だ。私の家とは數町距つてゐるだけで、私自身も同家の恩顧を蒙つてゐる。小學校は私が一年上級だが、田舎のことだから同級生と同じやうに親しい友達だ。その頃——二十數年前——私の小學校では、上級生になると藁で繩を糾うことを練習させた。かれが困つてゐたので私が教へてやつたのを、今でも覚えてゐる。小學校では、敢へて神童と稱めるほどではないが、勿論優等生、中學に入つてからも良い成績であつた。

浦和中學では私と同級であつた。私が落第したわけでは無く、高等科をやつてから入學したためだ。中學までは二里近くあつたが、その頃は大部分のものが、テクで通學した。——いまから思ふと馬鹿なことだつたが。夏の暑い日などは相當にコタへたので、浦高の裏手の松林の中でトグロを巻き、饅頭か何かを買つて來ては、吾々田舎通學生一同が車座になつて漫談したものである。その頃、かれと何を語つたかは、今全く記憶が無い。ただ一つ覚えてゐるのは、小學校以來十年間も毎日會つてゐながら、彼と私の間には一度も喧嘩をした経験が無いといふことだ。いま回想してみても、不愉快な印象を受けた記憶は絶無である。これは獨り私ばかりでなく、彼と交際をもつた凡ての人に共通したことでは無いかと思ふ。それほど彼は温良で、親みのもてる男であつた。

卒直にいへば、彼は鋭さとか、霸氣に秀でてゐる男ではなかつた。だが他人から嫌はれる頑固さやケチな陰險な心は微塵もなく、穏和で親切で、誰にも好感を持たれる男であつた。征途に上の前、「おい、どうだ」と聞いたら「自分には飛び抜けた軍功をたてる積りはない、だが他人に後れを取らないだけには、充分努める積りだ」といつた。戦争ばかりでなく、これが彼の人世のあらゆる方面における態度で

は無かつたかと思ふ。

四

浦中卒業後、山形高校を経て東大經濟學部を卒業、農工銀行(現勸銀浦和支店)に就職した。それから一ヶ月ほどして、農工銀行には最も必要な一定の金利による元金年賦償還の代數式の説明の相談を、私のところに持ち込んで來た。級數の造作もない問題だ、といふことだけは二人共知つてゐたが、さてその解き方をすつかり忘れてしまつたので、二人で三、四時間苦心惨憺したが、遂に解らず仕舞ひに終つたことがある。

農工銀行に入つて後、私の書いた下らない著書を數冊寄贈したが、その度にどうしても代價を受取つて呉れ、といつて承知しない。ただで貰つては氣の毒だから、といふのが彼の主張で、結局蜜柑箱か菓子折かをいつも持ち込み、私は不必要の儲けを何回か獲得した。かれの善良な物堅い心は、すべてこの調子だつたのである。

祖國のために殉じた彼の生涯は、何ものにも譬へ難い至高至純のものだ。私はかれの在りし日の姿を眼底に思ひ浮べつつ、この蕪雜な一文を草する。かれは早く父母に別れ、長兄に絶対の信頼をおいてゐた。病院でまさに地上に永別せんとしたとき、微かに「兄……、兄……」と叫んだといふ。果して何を語らうとしたのであらうか。(十二月九日)

大野信行君

君は明治四十三年五月二十七日浦和市に生れ、埼玉縣女子師範附屬小學校を経て、大正十三年四月本校入學、昭和四年三月第三十回生として卒業され、同年四月日大文科豫科に入學、九年三月同大學法文學部を卒業の所、十年一月には野戰重砲兵第二聯隊に入隊、十一年十一月に滿期除隊され、その後軍務に精勤の故を以て精勤章、善行證書、下士官適任證書を授與された。而本年三月よりは東京都市遞信局管下芝郵便局通信事務員として勤務中であった。

櫻咲きやがて散り、晩春初夏と移り行く自然の營みは年々歳々の事ながら、變り行くのは人の世の姿果然、北支の風雲急を告ぐるや、盛夏八月一日君亦應召(現職の儘)、二日入隊、十一日には早くも勇躍北支に出征されたのである。

その後彼地にあつて數々の戦闘に於いて赫々たる武勳を示し、十一月三日明治の佳節に當つては津浦沿線德縣附近の陣營に於いて砲兵伍長に任官されたが、その後亦激戦幾合、同月二十四日黃河畔に於いて壯烈なる戦死を遂げらる。

即ち、同日未明觀測所○○山頂にて戦闘中、午後一時頃、盛んに飛來せし敵彈は測板にて點検中の君の腹部に命中、附近の軍醫治療施設せしも重傷の爲、後送手當を加へんとして宿營地○○地に行きし時、午後二時十分「○隊長殿殘念です。」の一語を残して逝かれたのである。

同日砲兵軍曹に任せられ、又通信書記補に任官された。

君は性明朗快活、しかも小事に動せざる豪壯の風が有つた。浦中時代は野球選手であつた。而又一面親兄弟を思ふ暖い心の持主でもあつた。砲煙彈雨の戰地から兩親或は長兄に宛て送られた愛情細やかな手紙は之を證して餘りあるであらう。

以下その中の一、二を掲載、以て君を偲ぶものである。

英靈永へに安らかなれ。

激戦後の便り（九月二十八日附）

滄縣に昨二十七日到着いたしました。本市は市制が施行せられてゐる街故、相當大きい處ですが、支那町の事故、日本の比ではありません。百貨店等があり支那人にとつては殷盛な所なのでせう。電燈も北支に来て初めて當市で見られました。住民は殆んど避難して居り、街は留守と云つた具合です。

日中の北支にも秋が訪れ、尾長鳥の様な秋鳥がしきりに鳴いて居ります。朝夕の風は肌を冷めなく叩いて来ます。夜分は「オンドル」を焚いて冷氣に備へて居ります。

滄州の戰闘の激烈であつた事は前便でお知らせしましたが、友軍の犠牲も〇〇だけで〇〇名を數えて居ります。敵軍（四十軍三十九師）の死者は私共が數へただけで〇〇〇餘、累々として積つて居ります。〇〇〇〇〇〇慘々たるものであります。十里風、生ぐさし新戰場の詩の味ひがぐつとせまつて来ます。征馬爲めに進まず、人も亦高粱の荒野を遠く望み語る言葉もありません。

目下濟南より北上の中央軍を迎へ撃つ爲めに〇〇に行軍します。

内地からは手紙一本も、手許に來ませんので少し淋しい様です。勿論慰問袋等の姿も見ません。

唯悪い泥道を一日〇里の行軍能力で進んで行く非常な難攻をして居るのです。

百度の暑さは、濕氣のない北支では内地のそれの様に堪えがたいものではありません。悪水と泥土道と偏食だけに困つて居ります。黃色の泥水を呑み、それを炊事に用ひて居る次第です。

内地の土木工事は完璧に近いものと感じました。

今後とも大いに御奉公致します。内地に在る皆様も切角御身體を大切に。

最後の便り（十一月十五日附）

（前略）當地の寒さは霜も相當深く朝は薄氷を見ます。然し日中は氣持良い陽が訪れてくれます。上海の戰闘は内地より御送り下された新聞で承知しました。又久し振りで埼玉版が見られて家に歸つた様な懐しい想ひがしました。瞬間でものんびりした内地氣分になる事が出来ました事を感謝申上ます。早速本部に居る浦和より出征の戰友に持つて行つて共に喜び合ひました。先日子供達（註、長兄の子供達）の手紙が同封されて來たのには躍ばかりに嬉しく感じました。將來に向つての事、現在の戰況或は目下の部所は色々の關係で書く事が出来ませんが、少しも御心配無く、自分も元氣ですから御安心下さい。

いよいよ、張り切つて暴戾支那を懲す爲め奮闘します。そして伍長になつた自分として献身的の御奉公をして、決して後れを取る様な事はしません故御休心下さい。

（中略）昨夜左の句を読みました故書いて見ませう。

三日月の影もつめたき歩哨かな

果てしなくつゞく廣漠たる北支の平野、静かに寝る戰友を護る歩哨、降る様にまたよく星、一寸内地では味へぬものがあります。

兄さんも御身體を大切に餘り無理せぬ様御願ひ申上ます。

老父母様も呉れぐも御長生の程を乍蔭祈つて居ります。(下略)

(註、右は十一月二十四日、即ち奇しくも戰死の當日配達された。)

嗚呼！大野信行君

第三十回 宮崎英夫

今になつて、つくづく大野の事を考へて見るに、彼は生前人に慰められることの嫌いな男であつた様に想ふ。と云ふよりは僕達交友十五ヶ年間に於て、僕達はいつも慰められる側に立ち、彼は常に慰める方の側にあつたと云ふ方が正しいかも知れぬ。

親愛なる大野信行よ！ 今度こそ僕達が君を慰める番だ！

身長五尺五寸を超へ、體重亦十七貫を降らさる堂々たる體躯に、秀いでたる眉、心持ち上向きのがつちりと腰をすえた小鼻、ギヨロリと光る眼、紺が入りで懐手をして歩るいて来る所など、まるで西郷南洲も斯くやと思はれるものであつたが、その藏する心たるや、全く天使の如くやさしく、誰からでも好かれるものを持つて居た。

大野は亦いつも朗かな男であつた。それについてこんな想出がある。
僕達は丁度今から十年前の浦中の野球部の選手であつた。部長に現浦商校長の松井計郎先生、主將が柿山で三壘、その他山崎、小谷野、飯島、平野、前島、僕、大野と云つたそろそろたる顔ぶれであつた。今選手諸君にくらべたら、それこそ月とすつぽんほどの違ひでもあらうが、それでも當時としては黄金時代(栗田、松澤先輩諸氏が龍ヶ崎に覇を關東に唱へんとした時)の再現とまで自他共に許して居たものだつた。

實際、若しこのチームにして、一人の名遊撃手ありて僕に代り、試合當日の空に必ず「片の雲を認めなる幸運を保證したら、浦中野球部の全日本中等野球選抜大會出場はこの十年の前に實現して居た事であらう。

大野は「青空」の嫌いな中堅手であつた。その程度は殆んど迷信的なものであつた。
疊つた日なら、其の駿足を利して縦横に活躍し、味方を泰山の安きに置く彼も、一度くまなく晴れた日の試合になると、失策續出全く別人の感があつた。一旦はグローブに收めたボールでもボロリと落してしまふと云ふ風であつた。

「のーちゃん今日は青空だぜ。」柿山などはよく斯ういつて大野の肩を敲いたりしたものだつた。
大野にとつて何のさへぎるものない青空にボツカリと浮びあがつた白いボトルほど恐ろしいものはなかつたらしい。

「雲がないと、どうしても目測がつかないんだよ。試合前の緊張に、大きな身體を震はして居る彼の顔を僕は今でもはつきりと想ひ出す事が出来る。

親愛なる大野信行よ！

「今日も亦青空か斯う云つて空を眺めては君がついた溜息は、今は其の儘僕達の溜息となつて、君の死を悲しんで居る。

一昨年大野が兵隊に出る時、小谷野が發起となつて野球の仲間で小さな送別の會をやつた。席上、昔語りにこの「青空」の話に花がさき、この會を「青空會」と命名し三年に一回の會合を約束したのだが、それも君のいなくなつてしまつた今日では残念ながら中止するより外に仕方がない。

僕と、この大野の失策によつて、勝てる試合に敗れた事も再三であつた。

「い、よ／＼亦こんどやつけるさ。」だがこの試合を失つた責任の大半は僕よりも大野の方が負ふべきものであつた場合の方が多かつたのだから今考へて見ればおかしな話で、大野とは斯んな崩らなか氣分の男であつたのだ。

トコロテンと大野、これも亦懐しい想出の一つである。

練習の帰り途などよくトコロテン屋の縁臺に腰をかけて、汚ならしいおやじの突き出すドロ／＼した液體と固體の中間を行く様な味の悪い奴を硝子の器に受けては、金五錢がとこを忽にして平げてしまふ彼を僕はよく不思議に思つて眺めたものだが、この相手はいつも、これも亦相當にトコロテンの好きな小谷野だつたと思ふ。小谷野も僕もこれから夏になつてトコロテンの看板が街に翻へるのを見るたびに大野の事を想ひ出すであらう。

大野に就いての想出は盡きない。

親愛なる大野信行兄よ。

僕は、柿山、小谷野兩兄より、君の死を憶ふ文を草される様に依頼されたのであるが、どうも思ふ様なことが書けなくてすまない。

月並な文句であるが、實際僕は君が死んだとはどうしても思へないのである。

友達より君の戦死を聞いた時でも、新聞に寫眞入りで戦死の報を讀んだ時でも、驚きと、深い悲しみの中にも、生前君のよくやつた眞面目くさつて人をかつぐ例の一手とよりしか如何しても思へないのである。

櫻井道雄君

君は故母校圖畫科教諭櫻井節雄先生の次男に生る。生前先生大いに囑望されしところ。大正十一年四月男子師範附屬小學校卒業後浦和中學校に入學。性快活溫順、元氣あり。浦中卒業後は法政大學専門部商科に入學。昭和十年三月業を卒へるや靜岡歩兵第三十四聯隊第十一中隊に入營。同年十二月滿洲へ派遣。一面坡に滯在匪賊討伐に從事。翌年五月歸休除隊に次いで八月には本鄉常尾鐵工株式會社に勤務。此の頃令兄武雄君の結婚と道雄君の就職にて、先生歿後その慈愛深き御手一つで育てられた御母堂も漸く御安堵の御様子と見られた。君は會社へ通勤約一週間にして今回の事變のため應召、勇躍出征せらるかくして九月某日吳淞上陸、十月三十一日壯烈蘇州河渡河戰にて名譽の戰死を遂げらる。令兄武雄君の手記を得て之を茲に掲げる。

江南の華と散つた弟道雄の奮戦の跡を辿つて

櫻井武雄

弟道雄は八月十五日朝原隊辭岡より電報にて召集を受け翌十六日午後四時多數の皆様の盛な御見送りを受け、熱誠溢れる歓呼の中に勇躍浦和を出發しました。出征以來上海方面第一戰に田上部隊小長井隊の分隊長として奮戦を續けて居りましたが大上海陥落の一歩前にて遂に戰死を遂げました。道雄よりの手紙、新聞記事等を総合して見ると、道雄は九月〇日吳淞上陸以來幾度か死線を切りぬけ奮戦に奮戦をつづけ、出征以來の夏服にて押通し後日來援の冬服の部隊に對して夏服組と稱し、頑迷な敵軍を前に二日も三日も雨にうたれ壕の中に膝まで水に浸り、糧食も缺乏がちの最前線に、飲む水さへない上海の外廊を吳淞、楊江鎮、金家灣、劉家行、大場鎮西部、眞茹鎮、蘇州河北岸と、大上海の外廊を大きく一周し或る時は煙幕下にクリーク敵前渡河を敢行し、或る時は生き残れる中隊の〇〇を指揮して敵壘を占領し追撃又追撃遂に大上海陥落を前にして戰死した事は、かへすがへすも殘念です。然し大上海包圍戦の突擊路である蘇州河の輕渡橋を無事渡り越え、第一回の渡河のトップを切つて敵壘に突入して突いて突いて突きまくり獅子奮迅の勢にて遂に敵壘の一角を占領、萬歳を絶叫旭旗を翻へした刹那無念敵彈腹部を貫通、陛下の萬歳を唱へ、感激に溢れつゝ、莞爾として壯烈な戰死を遂げた事は弟ながら、あつばれな最後だと感激して居ります。

かくて遂に弟は暴支鷹鷹の聖戰のため蘇州河の南岸に散つたのだ。

上海派遣松井部隊田上部隊は九月〇日吳淞上陸、中旬には楊江鎮を一番乗りにて占領。二十三日には金家灣を占領。かくして二十七日には弟道雄の屬する田上部隊小長井隊は午前三時半より猛撃を開始、遂に午前七時半劉家行前方の無電臺を占領。

十月一日は黎明より狹徑クリークの敵前渡河敢行、敵陣へ突入す。遂に同日夕刻劉家行を占領す。こ

十月三日に出した道雄よりの手紙の一節

早くも十月の壁を聞くやうになりました。其後皆々様にはお變りも御座いませんか、小生も今日迄お蔭様にて無事で居ります。中隊内の戦死傷者も愈々數を増し、内地より補充隊が來援の状況です。愈々上海近くなり此處に又一大激戦ある事は覺悟の上です。夜は濠に寝て野に伏し安眠する時とてなく、匪賊討伐とは比較にもなりません。食べられない時は一日に一食の時も度々でそれも弾丸の雨の中での事です。(省略)

十月五日より八房宅攻撃八日朝八房宅占領

十月十日に出した道雄よりの手紙の一節

拜啓一昨日は何よりのお手紙誠に有難度う存じました。五日から連日雨の中を八房宅目がけて攻撃を繼續致して居りましたが、敵も非常に頑強なる抵抗を續け降りしきる雨の中を散兵壕を掘り二日も膝まで水につかり對時し八日の朝愈々突撃を敢行致し漸くにして八房宅南部の敵の堡壘を陥入れその壕の中飛び込みクリークを挟み尙北部八房宅の強敵と對戦中夕方手紙を受け何とも言ひ知れぬ感激を覺えて居りました。

八房宅を陥し入れた時は中隊長以下僅か〇〇名となり實に悲惨な光景を呈して居ります。度々の激戦に中隊の者は僅か〇〇名となり其の後の戦闘に又半分程になる始末です。

伏見君も小生も全く神佛の御加護により今日まで微傷だに負はずに居る事は誠に不思議のやうです。八日の戦闘にて中隊長殿には輕傷を負はれ、指揮官は小生と豫備の伍長の二人のみで僅か〇〇名の者を指揮し九日北部八房宅の突撃を敢行、遂に之を占領、日章旗を屋頭高く擧げて思はず萬歳を叫びました。中隊長は後退なされ外に指揮者として誰一人居ない我が〇〇中隊の慘たる姿を誰が想像する事が出来ませう。兵營を出た時は〇〇〇名の者が元氣で居つたのでしたが、戰場に居る者の心理状態は不思議のやうに、生に對する執着は更にありません。唯敵をやつける事のみで一杯です。さつきまで話し合つて居つた戦友も三十分後には敵の狙撃に會ひ護國の神となる戰場です。

早や同年兵では中隊で三名〇〇中隊では伏見伍長一人となつてしまつた有様です。コロンビヤか、ピクトーかで近衛八郎が歌つて居る「あゝ戰友」にある通りです。敵を前にして、その歌を歌つて居る氣持は何とも言ひしれぬものがあります。吾々の目的地は大場鎮です。そこまで行けば目鼻がつく事と思ひます。それまでのがんばりです。(以下省略)

十月十日 八房宅にて

兄 上 様

道 雄

雄

故郷より慰問品到着の喜びの手紙 十月十六日出

十月十六日出の手紙の一節

今日は意外にも早く慰問袋をお送り頂き何ともお禮の申上げやうも御座いません。丁度只今我が部隊は一寸第一線を退き少し休養致して居る時にて其の喜び方と申したら實にお正月とお盆と一緒に來たやうな始末です。之と申して口にあはないと言ふ物はなく、どれを見ても珍らしい物ばかり特に毛糸のシャツ、腹巻等は早速に用が足り誠に有難度う御座いました。バイナップルの饅詰の珍らしかつた事、分隊の各人に二つづつ分けてあげ共に二ヶ月振りにて果物の饅詰を味合ひました。只今の編成では幹部なく、小生は第一小隊長を代理するのやむなきに至つて居ります。伍長でも少尉の指揮をとるのが戦場の常です。今日は静岡から約〇〇名程の豫後備の補充隊の兵隊さん達が到着致しましたので少しは安心致しました。皆豫備後備で後備の人達は三十四、五位の人々です。殆ど妻あり子のある人々です。家の方はどんな事やらと、吾々よりもつと苦勞の多い人達です。(以下省略)

十月二十一日出の手紙の一節

前略度々お便りを頂きましたて何よりの事と喜んで居ります。浦和でも一同元氣にて日夜小生の事で心を碎いて居られる様子が眼にあります。

十八日、富岡さんよりカルケツの大罐に入れた甘納豆、五色アラレ、デゼールアラレ等のお菓子と手紙、塵紙、葉書、キングの十月號等の御慰問品を頂き、あちらに分けてこちらに分けてやり部下の者から非常に喜ばれ、吾が分隊の如きはお菓子が續いて到着致したので飢ゑ切つて居たお菓子に不自由しないでの外の分隊の人々からうらやまれて居ります。(中略)

過日小谷野市長宛及松井商業學校長宛に戰況報告を出して置きました。(以下省略)

十月二十一日

母 上 様

道 雄

十月二十三日上海線總攻撃開始

十月二十六日真茹鎮占領

十月二十七日蘇州河北岸へ迫る

十月三十一日正午を期して蘇州河敵前渡河決行

十一月十三日東京日日新聞靜岡版に依ると

「卅一日來の小長井部隊の蘇州河敵前渡河は筆舌に盡し難い凄壯極まるものとして田上部隊戰史に特に記さるべき大激戦である。小長井部隊長負傷後退のため阿江少尉は代つて陣刀をとり先づ布川准尉は三名の決死隊を引連れ工兵決死隊の架橋を待つて一氣に渡河せんとしたが對岸に構築した敵重機陣地銃眼は火を吐いて一齊掃射だ。アツといふ間に九名の勇士は朱に染つて戦死した。今度は一人宛渡るのだ、布川准尉は眞つ先に無事渡りついた。石垣伍長もサンプと飛び込み得意の潜りで泳ぎついた。かくして午後五時までの五時間の間決死〇名が漸く渡河した(中略)。布川准尉は悲壯な決意のもとに戰友の築いた肉壘により「突撃だ」と血を吐く命令を下し一擧正面の重機關銃眼に突込み手榴弾を振りあげる敵兵を片端じから突き伏せ將校二名敵兵百名をみな殺しとした。然し敵は三方より集中砲撃、後續はバッ

タリ絶えた」

一八

次いで十一月二十四日静岡民友新聞記事の一節には

「この時始終トップに立つて猛進した静岡市東草深町櫻井道雄伍長他數名は死物ぐるひで荒れ廻つたが腹部、頭部、胸部等に敵弾を受け遂に壯烈極まる戦死を遂げた。」と。

十一月十二日道雄戦死の報を新聞社より受く。

十一月二十七日小長井隊長より十一月付を以て道雄戦死の模様の報道を受く。

十二月三日午後四時官報の電報にて公報を受く。

十一月二十七日田上部隊小長井隊長より左の如き御通知を受く

謹啓 前略陳者道雄殿には上陸以來愈々元氣に邦家の爲に第一線にありて勇敢無比沈着克く戰ひ御奮闘有之常に勇名をうたはれ居り候處、去る十月三十一日蘇州河敵前渡河に於て群がる敵陣に飛び入り縦横無盡に突いて突いて突きまくり遂に敵の唯一の賴みとせる堅壘を占領仕り萬歳を叫び旭旗を翻へせし刹那、不幸一弾飛び來り、腹部に命中貫通銃創を受け名譽の戦死を遂げられ申候。其の最後は實に天皇陛下萬歳を唱へられ莞爾として逝かれ、誠に立派なる御行動にして、見る者をして泣かしめ申し候誠に忠勇なる赤子を將又大事な大事な御令弟を、そして最愛なる尊い／＼部下を戦死せしめたる中隊長の罪又淺からず何とも申譯無之、上

大元帥陛下に對し率り誠に恐懼に堪えず且本人に對する感謝の念と御遺族方の御心痛に對する同情の念は頑迷なる敵を前に控へ一睡の寝もやらぬ時とて忘れる事能はず只管冥福を御祈り致し居り何れ詳しく述べ御報告申上度き所存に有之候へども茲に機會を得謹しみて御報告申上候

昭和十二年十一月十一日

上海派遣軍藤田部隊田上部隊小長井隊長 小長井鑑重

なほ小長井隊奮戦の跡は九日蘇州河發東京朝日新聞の記事には
「上海は落ちた！ 萬歳叫ばずや、蘇州河の英靈

浮ぶ魂魄、輕渡橋

敵軍總崩れの日わが軍の上海攻撃いよ／＼完成の日、九日午前十時記者等は川並部隊長と共に恨み深ま蘇州河を渡つて南岸に立つた。過去一週間一本の輕渡橋を渡すのに幾多の貴き犠牲を出さなければならなかつたこの現場に今は堂々たる縱隊橋が渡され、その上を皇軍が鐵兜を陽光に輝かせながら、靴を鳴らして進軍して居る。上流五十メートルばかりの地點に激しい水流に「く」の字なりに曲つた二本の輕渡橋、これこそ去月三十一日から二晝夜かかつて敵弾雨下の中に二百名の尊き生靈を犠牲に架けられた突豎橋である。

二尺程の橋に五六十の足子を結び付けてやつと浮いてゐる。この橋は右足を踏めば右に傾き、左足に入れる左に沈みかかるのだ。敵前二十米の河中に素裸で飛込んで架橋した決死工兵隊の奮闘、更にこの上を猿の如く走つて敵陣に突入した我が歩兵の勇猛さが、まさ／＼と脳裏に蘇つて来る。

あゝ山ゆかば草むす屍・海ゆかば水漬く屍、橋上で敵弾を受けて水中に墮れた者、渡河後の突撃に墮伏してゐる神々しい姿を見てはハツとして記者等は脱帽、心から敬弔の意を表したのだ。

道路の上に並べた擔架の上に勇士達の遺骸が安置されて行く、田上部隊の小長井鑑重大尉は部下一同をこの前に整列させ、
けふの輝かしい大進撃も實にここに並んだ勇士達が生命を賭けて貴き捨石となつてくれたからこそのことだ。自分は今胸がつまつて何もいへないが、勇士達の靈に對して一同心から敬意を表さうと聲涙下る訓示をした。

かくて凄絶、壯絶を極めた蘇州河畔の激戦も遂に終つた。而してこれによつて大上海も遂に陥落したのだ。」

海ゆかば水漬く屍・山ゆかば草むす屍

大君のへにこそ死なめ　かへりみはせじ

道雄の靈よ萬歳を叫べ！　今、首都南京陥落を報する煙火が鳴り響いてゐるよ。（十二月七日記す）

櫻井道雄君の戦死を悼む

第三十回 羽 部 與 一

昭和十二年八月十六日應召の命下り勇躍征途に上らる。

「天に代りて不義を撃つ……」

絶叫する老若男女大群集の歎送歌。打振る日の丸の旗、旗、旗。青空にはためく大轍。

今是に三閑月。突如櫻井君戦死の報到る。驚駭措くなし。

去る九月三十日級友上海海軍陸戰隊海軍中尉今井守之君上海中部戰線の戰闘に名譽の重傷負はれたるあり、櫻井君戦死の報到りて數日ならざるに大野信行君十一月廿四日北支の激戦に名譽の戦死の報到る我等の悲歎極りなし。

温和な櫻井君。笑ふと目尻に皺のよる櫻井君。蹴球の上手櫻井君。中學三四年頃より急に長身になられし櫻井君。幼にして浦中の名先生と仰ぶがれし父君櫻井節雄氏を失ひ、やさしき母君、溫厚なる御兄妹の慈愛の中に生長せられし櫻井君。法政大學を卒業、現役兵として滿洲に轉戦、輝く武勳を擔ひて凱旋後僅々數箇月にして應召。征くは上海。砲煙彈雨の上海へ。浦中魂凝つて鎧へし劍道の腕の直え。突き捲り切り捲る。死線を突破する事幾度ぞ。

十月三十日蘇州河敵前渡河の激戦に群がる敵陣に突入。縱横無盡に突き捲り突き捲り、敵の頼みの唯一の堅壘を奪取、萬歳を叫びて日章旗纏せし剣那敵彈不幸腹部を貫通、

の一語を残して遂に名譽の戦死を遂げらる。噫乎何ぞ其の壯烈なる。生きては勇猛萬夫に當り死して護國の鬼と化す。男子の面目是に極る。貴き君の熱血に憚られし上海は我軍既に占領し、首都南京も亦將に陥落せんとす。在天の英靈尙はくば冥せられよ。

一文を草して謹みて浦和中學校第三十回卒業生最初の犠牲者櫻井道雄君の忠魂に捧ぐ。

一二、一二、八

白井政之助君

君は明治四十四年一月廿七日、白井源四郎氏の四男として、大宮町櫻木町に呱々の聲をあぐ。大正十四年大宮尋常高等小學校を経てわが浦和中學校に入學、爾來五星霜、柔道部選手として縦横に活躍せられ、浦中の爲萬丈の氣を吐かれたのである。體軀堂々、柔道は二段であつたが、温顔童幼の如く、その人となりや溫容寛恕、人を容るの才に長じ、「親父」「オヂサン」の愛稱を以て全校生徒より親しまれ君又、クラスの先達となりて、常に指導者の位置に居る。静かなること明鏡の如く、而して一度事に遇へば悲憤慷慨、飽くまで徹底を期するの氣概に富む。昭和五年四月、日本齒科醫學專門學校に入學、同九年三月、同校卒業、昭和十年一月、歩兵第三聯隊に入營、同十一年五月、滿洲に派遣せらる。在滿中令弟英太郎君の訃音に接す。君の悲歎察するに餘り。

當時の君の日記の一節

「愛すべき弟は他界した。(中略)北満チ、ハル兵營の一隅にある炊事場事務室に於て、午後十時半頃義兄よりの手紙によつてたつた一人の弟の死を報ぜられたのです。私は何度も讀んだ。然し死は否定する事は出來ない。電氣の光が大きく眼にうつった。目頭が熱くなつて来る。どうしてもそこに居る事が出來ない。突然私はその時大きな聲で笑つた。無理やりに笑つた。それが或は泣き笑ひであつたかも知れない。そして手紙を驚づかみにして眞暗な屋外へ飛び出した。然しそれも駄目だ。只涙が出て胸苦しくなつて來るだけだ。(以下略)

君の心中如何ばかりなりしか。君としてはさもありなん。令弟を偲ぶ斷腸の情、目のあたり見るの感がある。

本年二月、滿期除隊、三月、大宮町蓮見歯科醫院に勤務。八月廿八日午後八時二十五分、召集令狀を受領し、勇躍出征の途につく。以來廣漠たる北支の原野に轉戦、皇國の爲降魔の劍を取つて奮戰されてゐたが、十月六日、醇縣城攻略戦の際、敵彈雨飛の中に當時の小隊長富山軍曹の身を庇はんとして、無念、敵の迫撃砲彈に斃れ、遂に名譽の戰死を遂げられたのである。一死國に報ゆるは男子の本懷とするところなれども、又誰か君の死を歎かぬ者があらうぞ。今や皇軍は破竹の勢もて支那大陸を席捲し、敵の最後と頼む南京城を遂に陥れた。

地下三尺にある白井政之助君の英靈よ、以て冥せよ。

因に、君は出征の途次釜山に宿泊の際、その家の主人に、盡忠の誠を致さんとの堅き信念を眉宇に漂はせながら、生きて凱旋を期せざる覺悟の程を物語られしとか。心中既に固く期する所があつたのである。

享年二十七歳。

終りに君の御靈の永に安らかならんことを祈り、筆を擱く。
尙左に政之助君戰死當時の狀況につき、○○陸軍病院入院中の富山軍曹より大宮町の生家に書き送られた手紙を掲げて同君の武勇を偲ぶことにしよう。

拜啓御尊家一同様には益々御壯健の事と存じます。

突然、然かも故政之助君の名前にて御便りを差上げ、嘸御驚きの事と存じます。

私は當時第一小隊長でした富山軍曹です。然かも故政之助君の爲に一命を助けて戴いた者です。嘸あ乗りをしてゐなかつたら故政之助君は斯くの如き壯烈な戦死もせず、明七日の醇縣城攻撃に一番苦しく、遂に意を決し故政之助君の名前にて御便り致します。何卒御容赦下さい。

故政之助君は召集されて入隊するや、常に卒先範を垂れ、現役兵は勿論召集兵に至る迄兄の如く尊敬致して居りました。

「好くやるね」と私達が聲を掛けると、「いゝえ現役當時の様に體が動まません」と云つて居ましたが全くよく活躍致して居りました。殊に酒が好きだつたので、時折り一緒にチャンチュウ(支那酒)を呑み乍ら故郷の話や戦史を語り合つたのですが。

常に天真爛漫愉快な人でした。

丁度十月五日第一小隊長が戰死致されましたので命令受領者だつた私に第一小隊長の命令が下りました。

此の時既に突撃命令の區所が出來、間もなく雨と降り来る彈の中を猛進に／＼を重ね、敵前八十米迄

肉薄致し薄暮の機会を待ちました。

此の間に又も尊い犠牲者を出し一同悲憤慷慨致してゐました。

然かも難攻不落を誇る城壁、殊に兵力は新しく交替して行くらしい話聲さへ時折聞える無盡藏なる

此の兵力、頑強なる城壁、残念乍ら遂に突撃も断念のやむなきに至りました。

丁度午前三時頃と記憶致して居ります。頑強なる敵陣地の状態を偵察せんと小銃各人三發輕機關銃十五發銃眼目標に一齊射撃を致しました。(中略)後方では○○隊は全滅したと迄云はれてゐたさうです。明けて六日、敵が二回も逆襲致し名實共に激戦を致しましたが、若干の犠牲者を出したのみにて敵は全滅致しました。斯くて六時より三十分全砲兵の集中射撃が開始され、六時三十分突撃の命令が下りました。昨日來砲兵も隨分射撃致しました。突撃の時刻は迫つて来る。相互の顔には早くも強固なる決心が充満致してゐました。私の小隊は右第一線前進の聲と共に一同遅れじと猛進に猛進を重ね、約四十米も前進したと思ふ頃、早や地雷及び手榴弾の炸裂、敵前十米附近にて遂に私も地雷と手榴弾の爲早や一步も動く事が出来なくなりました。

此の時政之助君が後方より前進して來ました。「小隊長殿、班長殿、やらましたか、早く私の負革に」……斯くして敵弾の中を三十米も前進したと思ふ頃、迫撃砲の様なものが「ドカン」と來たと思ふ間も無く私は人事不省に……。暫くして吾にかへつた時、居るべき筈の政之助君の姿が見えない。附近は戦友、敵の屍累々として未だに死に切れずうめく者があるかと思へば、水を求める者、全く凄惨な極みです。その中に壯烈なる政之助の英姿を見た時の私の氣持は如何ばかりでせう。腹の痛みも雨と飛び来る弾も忘れて男泣きに泣きました。

軍刀の血を見る度に政之助君の事が思ひ出され御便り致します。(中略)不思議に生存致し目下病院のベットに不自由な體を横たへてゐる私は、政之助君の尊い御蔭だと思ふ時全く斷腸の思ひが致します。

御尊家御一同様に對し何と申してよいやら言葉すらございません。

氣のみ強くて當時の状況を思ふ様に書けない事を遺憾に思ひます。御尊家御一同様の健康を御祈りしつ、拙い筆を取りました。敬具

御尊家御一同様

白井政之助君を偲ぶ

第三十一回 内 田 一 郎

王師を北支山西地方に進めたる湯淺部隊に屬し、醇縣城攻撃の際、敵前數十米の地點にて上官軍曹を庇ひながら、壯烈なる名譽の戰死を遂げた親友白井政之助君の追悼文を書くは一片の感慨なきを得ない去る八月二十八日は君と會ひし最後の日であつた。當時北支の戰雲急をつけ、皇國、大義の爲に闘ひ居りし時に駐満討匪の武勳赫々たる白井君には召集を待望、國難に殉ぜんとの覺悟をしばく手紙にて私によつてしたものであつた。

二十六日召集を受け、二十八日、この日一日快談をした。

既に覺悟十分にて得意の美髪をなぜながら「戰死か金鶴勳章だ」と意氣軒昂たるものがあつた。其の姿が彷彿として思ひ出される。又冰川社頭にて大宮町民への挨拶は、烈々の氣魄人に迫るものがあり町民の讀仰せるものであつたと聞いて居る。

惟ふに舉國一致難局にあたるの秋、生死素より君國に捧げたとは言へ君と教室を同うし共に遊びし私

は感慨無量のものがある。こゝに静かに同君の人柄を偲ぶ。

私共三十一回同窓生は「親父」又は「オデサン」と云ふ愛稱をもつて呼び慕つて居つた。日本歯科在學中にも其愛稱には變りはなかつた。この愛稱も溫容なる容貌と十八九貫の巨體から名づけたものであらうが、人柄もこの愛稱の中に包まれてゐる。

非常に我慢強い人であつた。

其我慢強さは御兩親も常に云はれてゐる事であり私共は常に驚ろかされてゐることである。日歯卒業真近かに私の下宿で大病し發熱四十度位の状態が一週間も續いた。下宿屋のことであり如何に女中を勤員しても看護はたかが知れてゐるが遂に家に歸るまで苦しいと云ふ様な弱い事は一言も云はなかつた。

其後二ヶ月の臥床生活にもその通りで一同其我慢強さに驚いたものである。物事に動じない人であつた。學期末に技工品を提出しない場合は八分の落第である。私共は提出日眞近かに一切を製作すべく下宿に集合する。大抵夜である。徹夜で製作するのだがこの日は緊張する日でありアワテル日である。

かゝるおしまつた時でも夜遅く悠然と「ヨウー」とばかりにやつて來て雑談を始める。それから徐に器用にキビキビと仕事を始めたものである。其落着きはらつた様は實に心憎いまである。決して物事にあわてない剛毅沈着な人であつた。

敵前數十米にて上官を庇ひつゝ攻撃する其沈着其度胸は實に平常より私共の知る所で醇縣城攻撃の英姿が私には想像ができる。

又素直な親切な明るい人である。

浦中柔道部主將として縣下に其の名をうたはれて居つたが良く先輩の言を聞き後輩を指導した事は當時の浦中生の知つてゐる通りである。

日歯時代にも素直な親切な人として慕はれクラスの幹事として働いた。四年當時には病院の先生に良く接觸して患者のない者の爲に自分の仕事を抛つて骨を折つたものである。

一面ユーモラスであつた。

撞球の覚え始めである。或る時非常に難しい球にあたつたのが白井君であつた。ゲーム取がこの球が取れれば高點者と云つたが同君もこのこの球を取るべく慎重にキューを動したが紙一重であたらなかつた。私共はオシイと叫んだ途端に「俺は自轉車だな」と云つて私共を笑したものである。

愛稱「オデサン」の持つ味こそ白井君の總てであると思ふ。

眞に頼り強い人物であつた。

日歯卒業後は先輩蓮見宏先生のもとに歯科醫業に精勵してをつたが、紳士面をして採手で空世辭の上手な歯科醫の多い中で特異な存在であつた。

其白井君も今や醇縣城占領寸前にて十月六日午後六時に散華せらる。

皇國に生を享けたる者一死を以て國に報ずるは祖宗の遺風である。又義勇公に奉じ生還を期せざるは我が傳統の精神である。

白井君も勇躍暴支膺懲の塞戦に加り東洋百年の大計達成の爲に尊き犠牲となり、護國の英靈となりたるは日本人として武人として死處を得たるものにして本懷之に過ぎるものはないであらう。

今や浦中校庭に護神となりたる校友の誠忠義烈を稱ふべき彰忠碑建立せらると聞く。

然る時、白井政之助君の功績遺勳はこの清祥の地より千古に朽らず稱へられるであらう。
今日銃後にある私は更に刻苦し大なる覺悟をもつて君の壯烈なる殉國の遺圖を全うせんと努力するこ
とが英靈に對し冥福を祈る最善唯一の道であると信ずる。

白井政之助君を憶ふ

第三十一回

武 藤 泉

一

拜啓 白井政之助君北支の聖戰に於て名譽の戰死を遂げられ候旨御通知に接しこゝに恭しく弔意を表
し奉り候。盡忠報告の誠をつくされ護國の英靈となられ候君の生前の元氣な御姿今尙目前に彷彿として
私の心も又悲しみに閉され居り候。柔道二段堂々たる體軀にも似ず溫和な目もとは何時も人なつてい
微笑を湛へて清潤併せ呑む偉容必ずや戰線に於ても衆人にすぐれし勳功を樹てられ泰然として死地に就
かれ候こと存ぜられ候。今茲に暴支脅懲と東洋永遠の平和の爲敢然たつた皇國の聖戰に尊き人柱とな
られ候君を思ふ時御尊父初め御二同様の御歎き如何ばかりかと深く拜察仕り候。然し乍ら君が一身を滅
しての御奉公は必ずや祖國建設の尊き礎として永遠に青史に止る可く君が英靈とこしなへに天空にあり
て祖國日本と君が御一家の御繁榮を見護ること、被存候。敬具

白井政之助君の英靈を弔ふ

第三十一回

神 山 晃 一

謹啓 畏友白井政之助君此の度北支の地に名譽の戰死を遂げられ候御報知に接し驚愕愁傷の至りに存
じ候。軍人の本懐と日夜戰地の第一線に御活躍なされ縱横無盡敵陣に御奮闘の君が姿を偲びつゝ種々と
其の勇姿を推察しつゝも尙中學生々活五年の歴史を顧みて感慨無量に御座候。君は特に武道の技に長じ
其の性格は我々友人間に「おぢさん」と別稱せらるゝ程温厚なる春秋に富ませ給へる士に有之候。名譽の
戰死を遂げられ候事は白井君にはさぞかし御満足の事と存じ居り候へ共御兩親様には何かと御心を盡く
させられ候こと、恐察仕候。

早速參上無言の勇士我が白井政之助君の凱旋を奉迎致す可き筈の處遠地に離れ居り候身に有之殘念乍
ら書中を以て御弔辭迄申上候 奄々

千葉正君

三二

君は大正元年十二月十六日北海道岩見澤町に生る。君の漸く長ずるに及び御両親は君の勉學の都合上永く住み慣れた岩見澤を後にして浦和市に轉住。商店經營の傍専ら君の學問の向上を念願とされた。浦和中學校入學以來君は常に優秀なる成績を以て級の先頭にあり、讀書を愛し文筆に長じ、且つその繪畫は君の近代的感覺の一面をよく示してゐた。柔道は父君より傳はりしものか之亦優れた技倆を有つてゐた。

君の眞心から沁み出る友情と常識に富んだ性格とはよく衆望をあつめクラスの各層を通じて友人を有し、且つ快活無邪氣、その温順素直な性質は君の周圍に常に和氣籠々たるものあらしめた。

昭和五年三月卒業後は東洋大學專門部倫理學東洋文學科に入學。研學の一方に柔道部主將として活躍。而も君のこの半面には實に緻密な頭腦とい、意味の世間的なものとで頼り甲斐ある友人として又は同情ある先輩として敬愛を受けた。その豪放磊落の一面には細かい神經の持主でもあつた。

昭和八年三月東洋大學卒業後は滿洲國海城野戰軍砲第九聯隊に入營。或る時の匪賊討伐の歸途暗夜の行軍の際に路傍の電線に觸れて危く一命を失はんかと懸念させたことがあつた。翌年除隊。滿洲國

建國功勞章及滿洲事變從軍徽章を拜領。越えて翌十年四月よりは農林省蠶絲試驗場に勤務。その後陸軍砲兵少尉に任官。正八位に叙せらる。

此の間君の特技とする柔道に於ても昭和十二年六月大日本武德會柔道四段允許。

支那事變漸く活潑ならんとする八月十七日應召。長屋部隊今野隊本部附として出征。其後の君の戦地に於ける活躍は之を次の數々の書簡に依つて偲ぶ事とする。

君より最後に家族宛書簡の一節

傷はスツカリ癒つて第一線に出てゐます。十一日頃の新聞に小生負傷の記事が出てゐたとの事、その記事は記念の爲にとつて置いて下さい。それから寫真も出たさうだがどの寫真が出たのやら。最初の少尉の給料が届いた筈だがどうかな。陳家行南部の戰闘で大隊長の命を肯かず獨斷専行で觀測所を敵前一〇〇米にすゝめて逃げる敵を打つて打つて打ちまくつた。その夜殊勳により聯隊長からウイスキー一本を貰ひ祝宴をはりました。新聞の記事で方々から見舞が来て弱つてゐる。この所戰線は破竹の勢ひで進んで追撃に忙しい。生れて始めてマラリヤにかゝつたがもう治つたから安心だ。防空演習でお父さんも大變でせう。おばアさんはどうかな。元氣だらうか。若し凱旋出來たら伊勢詣をさせて上げたい。

今野隊長書簡の一節

扱て茲に最も悲しむべき御報告を隊長として通信致すべき機に會せるを遺憾に存候御子息正君は十一月四日蘇州河畔の戰闘に於て壯烈なる戦死を遂げられ候事に候。

同君は去る八月動員召集以來當隊の本部觀測掛將校の重職に在り爾來熱心なる眞面目なる氣性と責任感の旺盛とに依り炎熱の折柄もよく動員事務を煩雜なる中に果し、當隊の動員をして出發迄遺憾ながらしめたるは勿論陸上海上の輸送に方りて渾身職責を果し、筆紙に盡し難き活動を續けられ候。上官の信

頼と部下の尊信は期せずして集り、例の快活豪放の性と相俟つて常に上官より「千葉」「千葉」と信任せられ、小官迂鈍を以て常に本部の重要な幹部と信頼致居候。

上陸參戰以來豪膽勇敢にして進んで職責を遂行し、常に當隊の名譽の大半を擔ひつゝ有之候。九月二十七日羅店鎮南方楊家宅にて大隊本部射彈觀測中本部附近に落下せし敵輕迫擊砲彈破片にて左耳後部に受傷し爾來永らく治療休養致し又小生も勉めて休養を進め候も例の氣性は十月十七日再び第一線に出る事を希望し参り切望止む無く第一線に活動致し居候。當隊は砲兵として砲車は後方に有之候も本部及觀測所は常に第一線に近く位置し飛彈常に頻りにて相當防備を施しつゝ其掩護下に射撃致すを常と致居候。

十一月四日は後方休息所より朝前日の觀測所たる蘇州河岸に至り川を挟んで敵と相對し、歩兵は既に渡河し前岸により、本部將校以下一所に彈雨を避けつゝ、觀測所に参り候。同君又同道致し候。正君は部下觀測手をして掩護工事を實施せしめつゝ、有之候所突然身體を乘り出し敵状偵察を實施せんとする刹那敵機關銃の狙撃に會ひ右手及右胸部貫通銃創を受け倒れられ候。將校及兵一同駆け寄り手當を致し候も致命傷にて間もなく事切れ誠に殘念に存候……本部の將校以下厚く手當を致し泣かざる無く殊に部下に暫く茫然たる狀態に候。早速軍醫の手當を爲したるも甲斐無之部隊長に報告し部隊長も暫く茫然たる狀態に候。遺骸は本部一同の手に依り休息所に安置し懇に處置致し候……遺品は將校立會の上目録を添え御送附申する手筈に相成居候も當日身に付けたるものにして送付中支障の生ずる襦絆夏服等は取除く事と致し候……(十一月九日附)

戰友齊藤承一少尉よりの書簡の一節

君の戰死は眞に皇軍の龜鑑であり砲兵至大の任務を遂行したものであります。

戰死の前日十一月三日は明治節でありました。君と小生二人は十名の部下と共に大隊觀測所を出發、蘇州河を渡り歩兵の第一線前進の折渡河を妨害する敵はこの舟橋を目掛けて機關銃の猛射を浴せて来るのです。一同は工兵の援護に依り煙幕を作り渡河し漸く對岸に馳せつけ丈餘の岩壁にヤモリの様に匍匐き得たが此處にも敵の弾丸は寸分の間隙も無いやうにたゞき付けられる。顔も上げ得ず土に密着して匍匐登り辛じて壕中に飛び込む事が出来ました。部下に一名の戰傷者も無く集結出來た事を共に喜び合つたのです。この日後方の大隊觀測所には敵砲弾が敵乍ら天晴れと思はれる程見事に命中しましたがこれ亦一名の傷者も無く済みました。何れもこの危機より救はれたのは明治大帝の御加護の賜と誰もの口からも漏れただけであります。その夜は隊よりのお祝の加給品菓子、酒に依り今日の奇蹟的に難を避け得た話にはづみながら參戰以來始めての眠かな夜を過しました。

明けて翌四日大隊の觀測所を推進せしむるため君は午前八時半頃本部を出て蘇州河沿岸に適所を選定しました。この通知を得てから小生は通信手を誘導しながら電話線を架して該地に到着し、次いで大隊長以下が到着しました。觀測所は敵情を最もよく監視し得るため高い堆土上に選びました。從つて敵からも発見され易いのです。此處にて君は砲隊鏡を設置する位置を決定し部下に工事せしめ自らは其の堆土に登り匍匐が如くして敵情を窺き左側を見た刹那、左前方より敵機關銃の狙撃を受けたのです。あつと思ふ間もなく堆土手前の壕中に倒れ落ちたのです。直ちに君の名を連呼しましたが既に答へは無く、手當する間も待たず呼吸は絶えてしまつたのであります。右胸部(乳の直ぐ上)と右手首とに二彈の貫通

銃創を受けたのです。時に十時四十五分。

一同は呆然として聲さへありませんでした。只男泣きて泣く戰友の涙が未だ温い故人の體に注がれるのみであります。

その夜は戰場ながら濕やかなお通夜を以て故人の靈を見守り翌五日火葬に附しました。(十一月五日附)

今野隊本部三宅氏より友人宛のもの

十一月二日には頑強に應戦した敵も河蘇州向ふの八字橋といふ部落へ逃げました。明けて十一月三日明治節。此の日は僕と千葉少尉殿と外に伍長一名、それに通信手數名は第一線の歩兵迄前進。朝八時出發。敵彈が今朝は隨分來るやうに思つた。蘇州河迄來たら工兵が橋を造つて有つたので其處迄行つたが右側面の竹藪に殘兵がゐて橋に向つて重機關銃で狙ひ射ちをしてゐるが「皆注意して一名づゝ渡れ」と少尉殿の號令だ。その時歩兵が今煙幕をたくから待つてと言つて橋が見えなくなる迄やつて呉れた。時を待つて僕等は「河向ふの岸の小山迄進め」の號令で「ソレ！」と皆煙の中を走つた。岸へ來たら前は山だ。だが敵彈物凄く飛來せるため歩兵が皆臥てゐる。臥てゐてもやられる者が居る始末。僕等も散つて臥てゐたが小山を上れば塹壕がある。其處迄各人で通つて行けと言はれた。昨日の雨で土がグチャヽ僕等は一生懸命上まで上つて前方の塹壕の中へ夢中で飛び込んだ。

夜は後部の觀測所へ引揚げて明治節のお祝だ。日本酒三合(一人で)、ランワンといふ菓子(御紋章入)饅頭二個、ベット二個が渡つた。

十一月四日、觀測所より千葉少尉殿と伍長に僕と三名又前進。到着して觀測せんとした時敵の機關銃

彈が隣りにゐた少尉殿の胸に命中、小山からゴロヽと下へ落ちた。急いで二人して抱き起したが既に鼻口から出血絶命してゐた。……(十一月八日附)

之等の手紙は如何に君が最後まで責任感の強かつたかといふことを最もよく示すものである。

今君の屬した長屋部隊は南京城攻略に大奮の奮戦中である。南京の陥落も目撃の間に迫つてゐる。乞ふ君の靈よ、安んじて瞑せられよ。

君戰死の當日大日本武德會は君に柔道五段を允許。更に十一月十七日には日本傳講道館柔道四段に昇段。(十二月十日記)

君の戰死を悼みて

第三十一回 柳 實

「あつ！ 千葉君が…………」

僕は、はつと新聞にむさぼりついた。

十一月十日朝戰況「ニュース」の大きな見出しをすつと下に見て行つた時「千葉正少尉戰死」のくつきりとした活字を見た。確かに千葉君だ！「浦和市出身」とある。「壯烈なる戰死」と……「だめだ！！」

「千葉君！ 残念だなあ…………」

でも御國のためだ。名譽の死だ。有難たう！ 最早唯々静かに眠つてくれ……やすらかに……

八月十日僕が急に四國地方へ赴任のため東京を去る夜、夕食を共にして東京驛まで荷物を持つて送つて來てくれた。あの時汽車も直ぐ出るのに急に道場の用事を思ひ出してろくに話もせず先に一人で歸つてしまつた。あの後姿がさびしい最後の面影だつた。僕の眼に残る最後の千葉君だつた。

千葉君！ 君は實によく出來て居たね。

重々しき人格、どつしりとした態度、廣く且つ確實なる智識、そうして他面藝術的纖細な頭腦の持ち主でもあつた。

何事にも努力を惜しまなかつた。一見鈍重に見える所もあつたが機を見れば果斷即行手際よくどうやりぬいて行くのだつた。

其の根氣よい眞剣さ、正々堂々たる立派な態度、皆よく僕等の範たるものであつた。

君の對外への活躍ぶりは其の豊富なる智識とやまざる向上心と共に全く僕等の驚異する所であつた。學生時代にせよ、社會人となりたる後にせよ。

君は實によく努力をした。何事にも徹底的な探究慾を以て一步々々確實に自分のものとして行つたいくら時間がかゝらうが、手數がかゝらうがそんなことは一切かまわず一途に物事の眞髓に突進しそれを完全に把握して行くのだつた。

唯一の君の苦手は數學だつた。

幹部候補生として軍に入つたとたん砲兵だつた。苦手の三角の話からよく五年生の時、三角の試験に其の朝になつて僕の家におしかけて來た事を思ひ出して二人で大笑ひして居たのだつた。

それも何んのわけか今度三角應用の射彈距離觀測中の戦死で僕は全く感慨無量だ。
君は死の瞬間まで實によく努力をし續けて來た。せめて其の努力に輝しき花を咲かせたかつた！ 否立派な花を咲かせたのだ。唯、末永きまで光輝ある名譽の壯烈なる戦死に君の努力は花のまま散つたのだ、實を結ぶことをせず。

(君の安らかな御冥福を祈りつつ、つづる——十一月十八日)

小山永久君

君は大正二年六月二十二日金澤市に生まれ、姫路、宇都宮の各小學校を経て大正十五年四月宇都宮中學入學、第一學年の時本校に轉じ、昭和六年三月第三十二回生として本校を卒業されたが、七年四月には父君の後を繼いで陸軍士官學校豫科に入校、十一年六月には同校本科卒業、同年十一月歩兵少尉に任官、歩兵第三十聯隊附(高田市)になられた。然る所、滿洲守備の爲本年四月十一日新潟港出帆して渡満斯くて遠く故郷の山河を後にされたのであつた。而北支の風雲急を告ぐるや、八月下旬には關東軍に屬し出征、猪鹿倉部隊の一員として山西攻略の途、十月五日原平鎮の激戦にて壯烈なる戰死を遂げらる。

又實に、今回之事變に於ける本校出征同窓會員中最初の戰死者であつた。

颯爽たる青年將校姿の君が、少尉任官の挨拶の爲來校(舊校舎にて)され、戎衣にかかる櫻吹雪の下、振りかへり振りかへり校門を出て行かれたのはつい昨日のことの様であるが、今其の訃を聞き、有爲轉變の人の世の姿に今更驚いて居る。

君は性豪放磊落、事を爲すに當つては勇猛果敢であつた。此の性行が凝つて、今回の壯烈なる戰死となつたと云ひ得られるのであるまいか。而も君は同時に、人に對する思遣深き暖い心の持主であつた。
(君の士官學校豫科時代の日記を見ると、病氣で練兵等を休む戰友を心配する項が隨處に讀まれる。又將校としては部下を愛した。)

本校在學中は、其の明朗な性格の故に誰からも親まれ、級の人氣者であり、敬愛の的であつた。又蹴

球部選手として活躍された。

要するに君は眞に武人らしい武人であつた。

我々は今君が生前最も懷しまれた母校の一隅に於いて其の面影を偲びつゝ、英靈をいささか弔はんとする者である。

思ふに君の生涯は短かかつた。併し護國の鬼として、又母校の名譽として、君の魂は永遠に生きて居る。(昭和十二年十二月十三日南京陷落の日)

原平鎮の激戦——小山少尉戰死の状況

(猪鹿倉部隊附少尉より君の父君に宛てられたる書簡)

(前略) 故永久兄の名譽の戰死を遂げられしは十月五日午後五時稍過にて、原平鎮(太原より北方に向ふ鐵道の最端)の西北角敵前約百米の地點に候。この戰闘は激戦中に大隊長以下多數之に殉せられ申候。本戰闘は内長城線に於て敵を破り代縣、醇縣を經て猛烈なる追撃戦中に起りたるものにして、十月四日早朝原平鎮に達し攻撃せしも戰況意の如くならず、五日部署を變更して攻撃せしも戰況の進展を見ず、午後三時二十分砲兵の集中射撃下に總攻撃を開始致候處、助攻方面たる當隊に協力する砲兵は僅か山砲一中隊にして、聯隊砲等は未だ追及中にして到着致し不申、而も追撃戦中の事故彈藥極めて乏しく山砲が漸く射彈を導きし時は既に射撃終りの状況に有之候。

故永久兄は敵前約四百米の地點にて眼鏡にて観測をなしつゝ右、左と山砲に射撃修正を要求せられあり候ひしも、既に射撃終りの通報に接し「彈薬なしとは致し方なし。」とて大隊長に「では行つて参ります。」とて敬禮して猛烈なる攻撃を開始せられ申候。敵前百米に達せしも、右隣接部隊は遙か後方にて退

々として前進せず、依て永久兄は隣接隊の進出を待つて突撃せんと着々突撃準備せられ申候。處が右隣接部隊の戦況は一向進展を見ず、此に於て永久兄は獨力突撃を決行せんと決心せられ、突撃に移らんとする途端、鐵帽の下から飛び込みし一弾は右耳の後下方より左耳の後下方に貫通銃創を受けて斃れられ申候。

故永久兄は弾雨の間にありて勇猛果斷、かつて天鎮附近の戦闘にては軍刀を振つて突入し、敵陣地の要點を奪取せられ、鎮邊附近(大同より綏遠に到る鐵道遮断の爲の支隊作戦)に於ては部下小隊を以て遠く敵の背後に出て、優勢なる敵の退路を遮断され、大同より代州を経ての追撃戦中には尖兵長として武彦村(原平鎮北方約四糸米)にて敵に追及し自ら敵四名を斬り、之を潰滅せしむる等の武勳を立てられ申候。

故永久兄の戦死は聯隊長以下的心痛一方ならず特に大隊長植田少佐中隊長石原大尉は痛憤せられ六日早朝名譽の戦死を遂げられ申候。(後略)

大同よりの便り (九月十六日附、自宅に宛られたるもの)

八月二十六日迄の皆々様よりの哈爾賓宛の御便り本日(九月十六日)拜讀、元氣に御暮らしの段大慶と心得ます。先便熱河の列車中より北支へ出征の件申上候も、九月十三日當山西省の北部都市大同府を占領致しました。

新聞で御承知とは存じますが、张家口戦闘、天鎮城攻撃、大同府攻撃占領と平綏線に沿ふ地域に連戦参加致し、彈丸の下をくぐる事數知れず、部下にも相當の戦死傷を出しましたが、幸に身に一弾をも蒙

らず、元氣に第一線小隊長として頑張つて居ります。

然し支那兵と雖も十倍強の兵力にてソ聯の指導の下に申々頑張り防禦が上手で軍刀を引き抜いて突撃一名腦天より唐竹割に致し、少々軍刀の歯をこぼしましたが非常によく斬れました。

戰闘の色々面白い話も澤山ありますが、少々手柄話の様ですから申上げません。只今は大同府を占領後方機關をまとめ、これから山西省を南下太原に居る約八ヶ師團の敵を攻撃準備中で、今度はと覺悟を定めて居る次第です。現在迄に私の隊の本年士官學校卒業生二名共に参りましたが、二名共例れてしまひました。氣の毒です。私の中隊も三名の小隊長中二名重傷して私獨り健在して居ります。

兵力が寡少な爲に損害が多い様です。私の同期生も北支事件で聞いた範囲では十二、三名戦死致しました。大に奮闘汚名は残さざる覺悟に有之候へば御休心被下度候。

當地は晝は相當の暑氣ですが、夜間の寒さは亦格別です。不眠不休、自分ながらよく體が續くと驚く事もあります。

戰闘の實相は體験せねば一寸御話しても分りません。

一番嫌な思をするのは部下の戦死です。伍長一名、一等兵一名戦死させました。「戦すんで日が暮れて」の軍歌をつくり身に浸みます。負傷四名不具者にならねばと心配して居ります。

私は腰に下げた飯盒に敵弾命中、一、二寸の差でたすかつて居りよい記念になります。

(中略)私等は哈爾賓を夜逃の様にして「ゴツソリ」眞夜中に出征して來ました。戦すんでも故國へ歸かれず、同一寸淋しい思を抱くこともある次第です。

(中略)國家總動員非常時で、國民生活も物價騰貴にて不安定かと存じますが、領土へ侵入される敗殘

國の慘情つくづく見せつけられ、如何なる事情をも打破し戰勝を得ねばならず、これが爲には銃後の力強き援助が何より第一線戰場者にこだへます。

何時戰が止むか分りませんが、相當犠牲者も多數に上りつゝあります、支那全土も各種各方面より進撃大狼狽の事と思ひます。

(中略)戰場で何時手紙が到着するか分りませんし、何時何處の土地に攻撃前進するやも知れませんが當分は山西省攻略かと思はれます。

先は近況報告傍々皆々様の御健全を御祈り致します。

命を天運にかけ居り候(後略)

小山永久君の英靈に捧ぐ

第三十二回 神田惠吉

昭和十二年十月六日、親友小山永久少尉原平鎮の野に名譽の戰死を遂ぐ。聽く處に依れば原平の敵壘堅固にして落ちざる事旬日、こゝに於て我が小山部隊選ばれて決死隊に加はり、敵彈雨飛の中を敵壘深く突入、今や我軍の歡聲原平鎮の野を壓せんとする時、無念、敵彈に墜る。嗚呼壯烈なる哉。

顧れば君と知りしは予が中學二年の秋なりき。君がスポーツに示せる萬能の技挙は予と接近するの機會を多からしめ、常に予の好敵手として、又よき指導者として敬愛する所たり。殊に四年の春我が蹴球部に君を迎ふるや、其の旺盛なる體力と不拔の鬪志とは常に味方の志氣を鼓舞し、其の駿敏なる行動は我軍を危地より救ひ戰ひを勝利に導かしめたる事屢々なり。此の間君との交友益々厚きを加ふ。かくて中學の過程を卒ふるや、君は士官學校に入り、父君の後を繼ぎて身を軍籍に投じ、予は高等學校より大學に進み、こゝに人生の進路を分つ事とはなれり。爾來君と相語らふの機會少く、折々の文通に由りわづかに舊交を温むるに過ぎずと雖も、其の紙面に溢るゝ昔ながらの君の面目は、やゝもすれば社會の壓力に萎縮せんとする予が魂を振起して止まさりき。最近の便り(これが君からの最後の便りとなる)にて君が守備隊長として北滿警備の第一線に活躍せりと聞きひそかに君の御健闘を祈りしなり。其後幾何もなくして北支の戰雲急を告ぐるや、君は轉じて北支攻略の征途につき、赫々たる武勳を立て、壯圖半ばにして惜くも殲ると雖も君を知る者誰かその偉業を疑はんや。

嗚呼、君既に幽明境を異にし、再び君が英姿に接するを得ず。然れども君が血は北支の曠野を紅に染め、君が肉は大陸を培ひ、而して君が英靈は東洋長久の平和を永遠に守護するならん。十一月二十三日

小山君の戰死を憶ひて

第三十二回 千代倉俊夫

(前略)お互の生活も異なり、文通も兎角途絶え勝ちになつて居つた時突如、全く意外にも小山少尉戰死と言ふことを聞いたのである。實に突然であつた。

「滿洲に居ると言ふんだから匪賊が出る位で大した戦はないだらう。だが或は支那の戰線へ廻されたかな。」と言ふ位の知識きり持たなかつた私には、第一線に參加と言ふ知らせを飛び越していきなり「原

平鎮にて戦、死」では、茫然たるものもことわりであらう。

戰、出征、戰死と考へを聯想させて見る。そこ迄は無理なく聯想が出來た。が戰死、小山、と言ふ所になつて幾ら考へてもそれが一緒にならない。戰死、小山。小山、戰死。と何回も繰返へしそこに聯關をつけやうと試みたが、如何にも不自然なのをどうしやうもなかつた。

あのいたづら子であつた男が、君の爲め、國の爲に一命を捨てたかと思へば、感概の無量なるものがある。事變始つて以來、幾多の忠勇の將士が、壯烈、鬼神を泣かしむる最後を遂げてゐる。日本人の心強さに感歎はしながらも、格別心に残る様な経験はなかつた。若し假に私が彼を知らぬのであつたら、矢張り同程度の感じしか持たなかつたことであらう。だが私は事實に於て、これ迄と全く別種の感概を覚えたのである。そして身近の人の死と言ふものが如何に切實なものかを今更の様に感じたのであつた。

祭壇に飾られた禮服を着した寫眞の前に香をたむけた時、萬感胸にせまつて、溢れ落ちんとする涙を恥ぢて、そこくに逃げる様に御兩親の御宅を辭した。悲しみの涙とは言ひきれぬ。感激のそれとも言へぬ。複雑な氣持であつた。一體私は御兩親や御兄弟に、御悔みの情を以て對するべきなのであらうか否々、勇戰奮闘しての名譽の戰死であつてみれば、それは當を得たことではない。然らば、軍人として立派に死處を得たるを以て御喜び申上ぐべからうか。否、それも適當ではない。何となれば肉親の情は、そう簡単に割切れるものではないからだ。

日本國民として、將又光輝ある皇軍の一員として、一度び劍をとつて起つ時、生還を期さないのは當然である。身を鴻毛の輕きに置いて、大君の邊にこそ死なんす心は、大和男子の誰もが一樣に持つ信條とも言葉がないのである。

「せめて、もう少し戦はせて死なせたかつた。」
と。理なる哉。吾等とても同じ心であるものを。
そう考へれば彼の戰死は、日本人として當然のことであり、むしろ疊の上で死するを免かれたることを慶賀すべきかも知れぬ。然しながら少壯有爲 今后に大いになすあらんと自らも覺悟あり、又吾々も期する所あつた青年將校の散華は大いに惜まるべきである。殊に御兩親の御心情を推察する時、私は何とも言葉がないのである。

「せめて、もう少し戦はせて死なせたかつた。」

言つてがへらぬことではあるが、彼の凱旋を迎へ、その勇戰談に夜を明すことが出來たら、これに越した喜びはなかつたであらう。手柄話。同じく忠勇武烈の奮闘をしづゝある勇士でも、凱旋すれば手柄話であるが、不運敵彈で討死すれば、遺族の悔を深めるのみである。

だが私は、こゝで再び運命と言ふ言葉を用ひたいと思ふ。なる様にしかならぬ。これが人の運命である。而して運命の定める處は結局その人にとつて最も幸ひな道であると信ずる。かく言ふと如何にも消極的且投げ遣な考へであるとのお叱言を戴くかも知れぬ。然し私はそれで良いと思ふ。人の力なんて微小なもの、運命の定める所を排して自ら開拓する等と言ふことは出来るものではない。

小山永久が餘りに短い軍人生活に終幕を告げたのも悔ゆれば限りないことではあるが、原平鎮の山野

で敵の狙撃をうけた時、この上なき幸福の中に瞑目したであらうと信するが故に必ずしも數くべきではあるまい。

思ふに海山千里の外に、命を投げ出した毎日を送つてゐる身にとつて、こよなき心強さは故郷に已れ

を案じてくれる肉親のあることであらう。それによつて勇士達は勇猛心を振ひ起し、孤獨感から脱れ得ることであらう。この點に於て限りなき慈しみを垂れ給ふ御両親を持つ彼は仕合せであつた。

月移り、星變つて幾星霜、北支の野に日章旗あまねく、すめらみがどの御稜威、民草を潤すの時、身を捨てゝ北支和平の礎となつた吾が小山永久の偉勲は更に燐たるものがあらう。

暫し冥せよ、北支の地に

私は彼の靈にかう告げて、聖戰の輝かしき完成を祈りたいと思ふ。(十二、十一、二十三)

小山君を悼ふ

第三十二回 筧原義一

故小山永久君の追悼文を何か書くやうにとのことで幾度か筆を執つたのですが、机と共にし一つのボルを蹴り合つた此の「良き友」を失つた悲しみは、餘りにも生々しく其の度に新たな痛惜と寂寥が先に立つて唯泣けて／＼しかたがありません。華々しい戦死とは言へ、身邊から尊い一人を失つた悲しみに胸も張裂けん許りの目下の自分には追憶の筆を執ることさへ切なく、とても小山君在りし日の面影をお傳へすることなど思ひも及ばぬことです。人間小山、友人小山の眞の姿を描寫することは、現在の哀惜悲痛を超克して冷静に立返ることが出来た日に或は爲し得るかも知れぬ事として此處には同君の略歴と思ひ出の二三を誌して故人を偲びたいと存じます。

小山永久君は昭和二年に宇都宮中學から、我が浦中へ轉校して來られました。そして其の明るい氣性

と機智に富んだ行動とは忽ち級友を慙了して、組の人氣者となりました。明朗潤達な快男兒でした。『馬さん、馬さん』と言つてどんなに皆から愛され慕はれたことでせう。と言つてもそれは決して輕蔑した譯ではありません。それどころか同君の頭腦明哲なことは姫路に於ける小學校時代神童の名を擅にし、尋常二年から三年を飛ばして一躍四年に進級された一事でも判ります。

馬さんの渾名の由來は駆足がとても速く而も疲れることを知らず、殊に其の走り方が胸を張つて、とても大股で、如何にも馬を聯想させたからです。僕達の「馬さん」は實に春の野を奔放に駆け廻る若駒であり又と得難い駿馬であります。

又小山君は思ふことを直言して憚らぬ所がありました。然もそれが少しの嫌みもなく、洵に光風霽月の如き感がありました。時には傍で聞いて居つてハラ／＼するやうな實にひどいことさへ言ふのです。

それでゐて人に好まれ、人から感謝されるのでした。人徳と言ひますか、人格の光と申しますか、寧ろ羨ましい位でした。

僕が小山君と本當に親しくなつたのは三年になつて蹴球部の選手をお願ひしてからです。教場の人氣者小山君は又運動場での活躍も自覺しくランニングでござれ、野球でござれの全くの萬能選手でした。そして僕達の請を容れて蹴球部に籍を置くやうになつてからは、一切を断つて只管蹴球の練習に勤んでくれました。

四年になつてからは或る事情の爲めに五年の選手諸君と袂別を餘儀なくされ、一方には浦中入學以来行動を共にして來た千代倉君達が高校受験準備のために選手を止められ、大袈裟に言へば實に蹴球部存亡の秋でした。其の時に當つて小山君は微力な自分を本當によく助けてくれました。上級生から見離さ

れ、有力な同志を失つて孤影悄然、蹴球部の傳統を守るべく、一切の毀譽褒貶を外にひたすら練習に精進したあの當時、小山君の與へてくれた助力と激励ばどんなに有難く、其の篤い友情に幾度泣かされたか知れません。然も其の苦衷が報いられて埼師に始めて勝ち縣代表の覇權を獲得した時の嬉しさ。共に手を執り合つて泣いたあの時の感激。

それも今は悲しい思ひ出となりました。

陸士へ入學して以來の小山君が其の明朗な性格と潤達自在な諸謹とで級友（士官學校では戰友と言ふのださうですが）の愛敬の的であつたことは申すまでもありません。畏れ多くも 三笠宮殿下の御學と友して殿下の御信任一入篤かつた趣洩れ承はつて僕達まで肩身が廣いやうみ氣が致しました。測圖と銃劍術は得意中の得意で卒業の際には異くも、天覽を賜はつて居ります。

「俺が陸士へ受かつたもんで、小山でさへ入れたのだからと言つて陸士を志願する者が多くなつた。だから俺は浦中へ陸士熱を吹込んだ恩人なんだぜ。」と謙遜とも自慢ともつかぬやうなことを言つて笑つて居りましたが、小山君の頭腦と體格を以てすれば陸士入學など當然過ぎる程だつたのですが、其の當時は陸士や海兵を志願する者が殆ど無かつたことは小山君の言はれる通りでした。昨今のやうに浦中の後輩が陸續として入學する盛況を見たら其の開拓者を以て任じてゐた小山君の喜びも、さぞかしと思はれ、殊に蹴球部から今夏來數名の諸君を送ることが出来たことを知られたら、例の得意の鼻をうごめかして喜ばれただらうにとそれも今は叶はぬ愚痴となりました。昨年陸士を卒業された小山君は歩兵少尉に任せられ高田の聯隊へ赴任されたのです。そして今春四月十一日北滿警備の命を帯びて新潟港より渡満、蘇滿國境近く守備隊長として精勵中、偶々今次の事變に遭ひ急遽北支に出動を命ぜられ山西進撃に

參加したのでした。然も同地方の攻略は皇軍未會有の難戦で其の困苦缺乏は言語に絶し、食ふに食なく飲むに水なく僅かに高粱の葉に溜る露を啜つて渴を醫やしたこと再三であつたと言ふことです。而も其の間にあつて小山君は意氣軒昂、終始部隊の先頭に立ち雨に濡れ泥土に塗れつゝ進撃し、九月二十日には長驅代州を衝いてこれを占據し、次で十月五日夜、原平鎮の激戦に二十五歳を一期として壯烈無比の戦死を遂げられたのです。何と短かも又華々しい一生だつたことでせう。

かくも赫々たる武勳を樹てられながら、お家への便りにも「手柄を誇るやうで面映ゆく、それに死んだ部下のことを想へばそれどころでない」と言つて自分の戰功に就いては最後まで一言隻句も述べられなかつたさうです。何と勇ましくも又奥床しい若武者振りではありませんか。

出でては精銳無比の皇軍を率いて勇名を朔北の地に轟かした君も、部下の戦死にはどれだけ心を痛めたことでせう。情に篤い君のことです。朔風肌を劈く極寒の野に佇立して、滂沱と溢れ落つる涙をとどめもありせず、懇に部下の英靈を弔つて居られる君の姿が見えるやうな氣さへ致します。而も今は其の君も亦…………。

もとより生還を期せざる此の度の行、黎明北支開拓の礎となるは男子の本懷とは言へ、餘りにも傷ましいことです。

友情に篤い小山君は又人一倍親思ひ兄妹思ひでもありました。それだけ小山君を失つた御兩親のお歎きは如何ばかりかと拜察するだに胸も潰ゆる心地が致します。かうして小山君在りし日の面影を偲びつゝ筆を執つてゐる今宵は陰曆十六日の皎々たる月夜です。けれども此の明月を眺める御兩親の御心中はどうなでせう。死所を得しと靈は言へども、月見れば。最愛の子を死なせし悲しみを訴へることが出来る

のは此の月だけではないでせうか。恐らく今頃は無限の想ひをこめて此の明月を仰いで居られることだらうと思へば又新たな涙にくれます。

今は靖國の神となられた小山君の御冥福と御兩親始め御家族皆々様の御多幸を心から祈りつゝ筆を擱きます。

記

以上の追悼記事編輯に就きましては、御遺族の方々には御取込み申にも拘らず種々の材料を御提供下さいますが何卒御諒承下さい。

尙追悼文御執筆の會員諸君にも右様の事情何卒御諒察下さい。
材料の蒐集に當りましては當方の努力不充分の爲、記事に多少の長短が御座いますが、この點御遺族の方々に御詫び申上げます。

左に出征會員の氏名を掲載致しました。或は調査不十分の爲、記載もれの方もあること存じますから其箇には至急御一報下さい様御願ひ申上げます。

出征會員氏名

特別會員	大島正喜	齋藤二郎	内田義春
第五回	野口茂樹	吉澤照次	
第十二回	長谷川喜一		
第十三回	篠田省三		
第十四回	山口甲子男		
第十五回	金森有吉	鳥海修平	
第二十一回	齋藤忠康	内田博宗	
第二十二回	小谷野孝(戰死)	高野孫一郎	
第二十三回	小泉勝治	伊藤泰介	
第二十四回	柿沼三郎	大島圭宇	
第二十五回	鈴木銀三	藤田宣雄	野本正雄
第二十六回	國谷錦之助	小高信道	
	藤波柳三郎	小島五六	高柳四郎
		細井榮吉	荒井亮

昭和十二年十二月十五日印刷
昭和十二年十二月二十日發行

浦和中學校同窓會

埼玉縣立浦和中學校內
發行人 土 肥 政 勝
浦和市高砂町一ノ一七ノ一
印刷人 金 森 光 雄
浦和市高砂町一ノ一七ノ一
印刷所 株式 會社 星野印刷所

